SONY

ノートブック コンピューター

オンラインマニュアル

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

VAIO

PCG-C1R

© 1999 by Sony Corporation

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に十分配慮して設計されています。しかし、電気製品はまちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故につながることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

6〜12ページの注意事項をよくお読みください。
製品全般の注意事項が記載されています。

故障したら使わない

すぐにVAIOテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店にご連絡ください。

万一異常が起きたら

- **煙が出たら**
- **異常な音、においがしたら**
- **内部に水、異物が入ったら**
- **製品を落としたり、キャビネットを破損したとき**

❶ 電源を切る

❷ 電源コードや接続ケーブルを抜くまたはバッテリーを取りはずす

❸ VAIOテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店に連絡する

データはバックアップをとる

ハードディスク内の記録内容は、バックアップをとって保存してください。ハードディスクにトラブルが生じて、記録内容の修復が不可能になった場合、当社は一切その責任を負いません。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故につながることがあります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

行為を禁止する記号

行為を指示する記号

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

漏洩電流自主規制について

この装置の本体およびディスプレイは、それぞれ社団法人日本電子工業振興協会のパソコン基準（PC-11-1988）に適合しております。

瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお薦めします。

（社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

- □ 権利者の許諾を得ることなく、本機に付属のソフトウェアおよび取扱説明書の内容の全部または一部を複製すること、およびソフトウェアを賃貸することは、著作権法上禁止されております。
- □ 本機、および本機に付属のソフトウェアを使用したことによって生じた損害、逸失利益、および第三者からのいかなる請求等につきましても、当社は一切その責任を負いかねます。
- □ 本機の保証条件は、同梱の当社所定の保証書の規定をご参照ください。
- □ 本機に付属のソフトウェアは、本機以外には使用できません。
- □ 必ず事前に試し撮りをし、正常に録画・録音されていることを確認してください。
- □ 万一、機器やソフトウェアなどの不具合により録画・録音がされなかった場合、記録内容の補償についてはご容赦ください。
- □ 本機、および本機に付属のソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご容赦ください。

目次

⚠危険 ・⚠警告 ・⚠注意 ... 6
こんなことができます 13
マニュアルの使いかた 16
オンラインマニュアルの使いかた 17
各部のなまえ 19

操作編

基本的な使いかた

電源を入れる 23
電源を切るには 25
再起動するには 26
ACアダプターを持ち運ぶときは 26
ポインティング・デバイスを使う 27
キーボードを使う 30
文字を入力する 32
日本語入力の前に 32
入力のしかたを選ぶ 34
文字を入力する 35
フロッピーディスクを使う 40
フロッピーディスクドライブを取り付ける 40
フロッピーディスクを入れる42
データを書き込み禁止にする43
使用できるフロッピーディスク 43
バッテリーで使う 45
バッテリーパックを取り付ける 46
バッテリーを充電する 47

VAIOを使いこなす

インターネットを楽しむ 48
インターネットを楽しむには49
外出先でインターネットにアクセスする 51
静止画を取り込む 54
内蔵カメラ（MOTION EYE）を使う 54
i.LINK対応機器から静止画を取り込む 57
パノラマ画像を作る 58
静止画を電子メールに添付する 59
動画を取り込む 63
動画を電子メールに添付する 66
情報をメモして活用する 68
本機のメモ機能について 68
文字でメモをとる（Smart Write） 68
作成したデータをインターネットに送信する（Smart Publisher） 70
音声でメモをとる（Smart Label） 72
好みのソフトウェアを自動的に起動する 75
内蔵カメラ（MOTION EYE）でソフトウェアを起動する75
ワンタッチで好みのソフトウェアを起動する .. 78
内蔵タイマーで好みのソフトウェアを起動する .. 80
ワンタッチで電子メールを確認する 82
PPK Setupソフトウェアの制限事項について 84
内蔵カメラ（MOTION EYE）で英単語を読みとる 85
他の機器とデータをやりとりする 87
赤外線（IrDA）でデータをやりとりする 87
ネットワーク（LAN）につないでデータをやりとりする .. 91
PCカードを使ってデータをやりとりする 91

内蔵カメラ(MOTION EYE)を使って音楽を楽しむ 92
内蔵カメラからの映像で音楽を再生する 93
オリジナルの音楽を作曲する 94
音楽CD／ビデオCDを再生する 96
Digital Media Parkで音楽CD／ビデオCDを再生する 96
いろいろなソフトウェアを使う .. 97

拡張編

周辺機器を接続する

内蔵モデムを電話回線につなぐ .. 99
i.LINK対応機器をつなぐ 103
CD-ROMドライブをつなぐ 104
デジタルスチルカメラを使う ... 106
プリンターをつなぐ 108
マウスをつなぐ 111
外部ディスプレイをつなぐ 112

本体を拡張する

メモリーを増設する 114
PCカードを使う 114

セットアップ編

本機の使用環境を設定する

本機の情報を確認する 119
起動ドライブを指定する 121
パスワードを登録する 122
デバイスを一時的に使用できないように設定する 124
使用するデバイスごとに詳細な設定をする 125

バッテリーの消費電力を節約する

PowerPanelを起動する 127
使用環境にあったプロファイルを選ぶ 128
省電力動作モードについて 131

バッテリーの残量を確認する

BatteryScopeを起動する 133
バッテリー残量の見かた 134

画面表示の設定を変更する

ディスプレイの設定を変更する 135
表示するディスプレイを選ぶ ... 137
デュアルディスプレイを使う ... 140
アクティブデスクトップをWindows 98のデスクトップ画面からはずす 144

ポインティング・デバイスの設定を変更する

スティックの設定を変更する ... 145

その他

使用上のご注意 151
お手入れ 155
保証書とアフターサービス 156
主な仕様 157
ソフトウェアをアンインストールする／再インストールする 159
リカバリCDで本機を再セットアップする 161
キーボードショートカット 166
故障かな？と思ったら 168
索引 182

警告

火災　感電

下記の注意事項を守らないと火災・感電などにより死亡や大けがの原因となります。

油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となります。取扱説明書に記されている使用条件以外の環境でのご使用は、火災や感電の原因となります。

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続ケーブルを抜いて、VAIOテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店にご相談ください。

内部を開けない

内部には電圧の高い部分があり、開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となります。内部の点検、修理はVAIOテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店にご依頼ください。

ACアダプターはプラグ付近を持って抜く

ACアダプターのコード付近を持って抜くと、コンセントを壊すことがあります。壊れた部分を触れると、感電の原因となります。

下記の注意事項を守らないと火災・感電などにより死亡や大けがの原因となります。

指定のACアダプター以外は使用しない

火災や感電の原因となります。

雷が鳴りだしたら、テレホンコードや電源プラグに触れない

感電の原因となります。

ひざの上で長時間使用しない

長時間使用すると本体の底面が熱くなり、低温やけどの原因となります。

本機は日本国内専用です

本機に内蔵されているモデムは国内専用です。海外などでモデムを使用すると、故障・火災・感電の原因となります。

モデムは一般電話回線以外に接続しない

本機の内蔵モデムをISDN（デジタル）対応公衆電話のデジタル側のジャックや、構内交換機（PBX）へ接続すると、モデムに必要以上の電流が流れ、故障・発熱・火災の原因となります。
特に、ホームテレホン・ビジネスホン用の回線などには、絶対に接続しないでください。

⚠警告 下記の注意事項を守らないと、
健康を害するおそれがあります。

ディスプレイ画面を長時間続けて見ない

ディスプレイなどの画面を長時間見続けると、目が疲れたり、視力が低下するおそれがあります。
ディスプレイ画面を見続けて体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。

禁止

キーボードを使いすぎない

キーボードやポインティング・デバイスなどを長時間使い続けると、腕や手首が痛くなったりすることがあります。
キーボードやポインティング・デバイスを使用中、体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みが取れないときは医師の診察を受けてください。

禁止

⚠注意 下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**物品**に**損害**を与えたりすることがあります。

ぬれた手でACアダプターにさわらない

ぬれた手でACアダプターの抜き差しをすると、感電の原因となることがあります。

接続するときは電源を切る

ACアダプターや接続ケーブルを接続するときは、本機や接続する機器の電源を切り、ACアダプターや電源コードをコンセントから抜いてください。感電や故障の原因となることがあります。

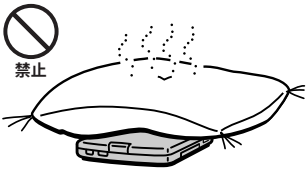
指定されたACアダプターや接続ケーブルを使う

取扱説明書に記されているACアダプターや接続ケーブルを使わないと、感電や故障の原因となることがあります。

通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。風通しをよくするために次の項目をお守りください。

- 毛足の長い敷物（じゅうたんや毛布など）の上に放置しない。
- 布などでくるまない。



通電中の本体やACアダプターに長時間ふれない

長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

本体やACアダプターを布や布団などでおおった状態で使用しない

熱がこもってケースが変形したり、火災の原因となることがあります。

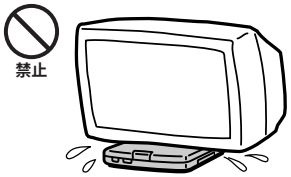
⚠注意 下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**物品**に**損害**を与えたりすることがあります。

安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置かないでください。また、横にしたり、ひっくり返して置いたりしないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

本機の上に重いものを載せない

壊れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。



お手入れの際は、電源を切ってACアダプターを抜く

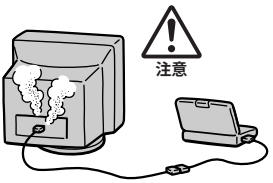
電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

移動させるときは、ACアダプターや接続ケーブルを抜く

接続したまま移動させると、ケーブルが傷つき、火災や感電の原因となったり、接続している機器が落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
また、本機を落とさないようにご注意ください。

コネクターはきちんと接続する

- コネクターの内部に金属片を入れないでください、ピンとピンがショート（短絡）して、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクターはまっすぐに差し込んで接続してください。斜めに差し込むと、ピンとピンがショートして、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクターに固定用のスプリングやネジがある場合は、それらで確実に固定してください。接続不良が防げます。



⚠注意 下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**物品**に**損害**を与えたりすることがあります。

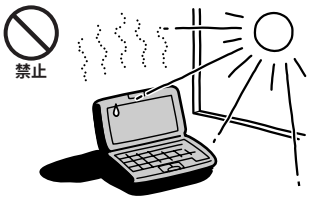
長時間使用しないときはACアダプターを抜く

長時間使用しないときは、安全のためACアダプターをコンセントから抜いてください。

プラグをコンセントから抜く

直射日光のあたる場所や熱器具の近くに設置・保管しない

内部の温度が上がり、火災や故障の原因となることがあります。



液晶画面に衝撃を与えない

液晶画面はガラス製のため、強い衝撃を与えると割れて、けがの原因となることがあります。

ディスプレイパネルの裏側を強く押さない

液晶画面が割れて、故障やけがの原因になることがあります。

禁止

本体に強い衝撃を与えない

故障の原因となることがあります。

禁止

大音量で長時間つづけて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くときはご注意ください。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。

禁止

電池についての安全上のご注意

漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠危険

- 指定された充電方法以外で充電しない。
- 火の中に入れない。ショートさせたり、分解しない。電子レンジやオーブンで加熱しない。コインやヘヤーピンなどの金属類と一緒に携帯、保管するとショートすることがあります。
- 火のそばや炎天下などで充電したり、放置しない。
- バッテリーパックに衝撃を与えない。
  落とすなどして強いショックを与えたり、重いものを載せたり、圧力をかけないでください。故障の原因となります。
- バッテリーパックから漏れた液が目に入った場合は、きれいな水で洗った後、ただちに医師に相談してください。
- 本体付属または別売りのバッテリーパック以外は使用しないでください。

⚠警告

バッテリーパックを廃棄する場合は、以下のご注意をお守りください。

- 地方自治体の条例などに従う。
- 一般ゴミに混ぜて捨てない。

または、ソニーサービスステーションにお持ちください。

本機の発熱についてのご注意

使用中に本体の底面やACアダプターが熱くなることがあります

CPUの動作や充電時の電流によって発熱していますが、故障ではありません。使用している拡張機器やソフトウェアによって発熱量は異なります。

本体やACアダプターが普段よりも異常に熱くなったときは

本機の電源を切り、ACアダプターをコンセントから抜き、バッテリーパックを取り外してください。次に、VAIOテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または購入された販売店に連絡してください。

こんなことができます

VAIOノートが広げるモバイルワールド

本機はモバイル機器として十分な可搬性と、実際のモバイル環境での使いやすさを追求して設計された、ソニーならではのノートブックコンピューターです。ここでは、本機の特長と、本機を使ってできることの例をあげてみましょう。

軽量コンパクト設計の本機を持ち運ぶ

約1.1kg（バッテリー含む）の軽量ボディーに、モバイル環境で便利な機能を満載しています。お気軽にどこへでも持ち運べます。
大容量タイプバッテリー（別売り）を装着することで、外出先での使用時間も、最大で約6.5時間確保できます。

内蔵カメラ（MOTION EYE）で動画や静止画を撮る

動画を撮って簡単なビデオメールを送ったり、会議の様子を撮影して静止画入りのレポートを作成したりすることができます。
何枚かの静止画をつなげてパノラマ画像を作ることもできます。

情報を気軽に入力する

付属の「Smart Write」ソフトウェアを使うと、すばやく静止画と声のメモを取ることもできます。キーボードを打てない状態のときでも、大事な情報はのがしません。また静止画、文字、音声のメモをHTMLで出力し、自分のホームページに簡単に載せられます。

CyberCode Finderを使ってソフトウェアを起動する

付属の「CyberCode Finder」ソフトウェアを使うと、内蔵カメラ（MOTION EYE）にCyberCodeをかざすことで、あらかじめ登録したソフトウェアを起動することができます。キーボードでの操作をせずに使いたいソフトウェアを起動することができます。

CyberCodeとは

CyberCodeは、ソニー独自の2次元バーコードで、約1,677万通り（24ビット）存在します。このうち、約100万通り（20ビット）のCyberCodeをそれぞれ、任意のプログラム起動用として登録することができます。残りのCyberCodeは、将来のサービス拡張用です。CyberCodeはそれが貼られたものから、対応するコンピューター上の情報を引き出すためのインデックスの役割をします。
「CyberCode Finder」のファインダー画面を通して、プログラムが起動されることにより、あたかもCyberCodeが貼られたものから、対応する情報がコンピューター上に飛び出してくるような新しいユーザーインターフェースを提供します。

プログラマブルパワーキーでワンアクション機能を実現する

付属の「PPK Setup」ソフトウェアを使うことで、プログラマブルパワーキーを押しただけで自動的に電子メールを受信するよう設定したり、音声メモができるよう設定したりできます。
とっさのときに便利な機能を割り当てておくと便利です。

タイマー機能を活用する

付属の「PPK Setup」ソフトウェアを使うことで、深夜に自動的に電子メールを取り込むように設定したりできます。「目覚ましメロディを再生して、その日のスケジュールを表示する」といった自動処理マクロを毎朝実行するよう登録することもできます。
いろいろな組み合わせを試して、自分ならではの活用法を見つけてみましょう。

i.LINKを使って静止画を取り込む

本機のi.LINKコネクターにつないだ、i.LINK（IEEE1394）インターフェースを持つデジタルビデオカメラレコーダーなどから、デジタル信号のままで美しい静止画を取り込めます。

デジタルスチルカメラから静止画を取り込む

別売りのソニーデジタルスチルカメラからケーブルをつながずに、赤外線通信で静止画を高速に取り込めます。

内蔵カメラ（MOTION EYE）を使って音楽を楽しむ

付属の「Sonicflow」ソフトウェアを使うと、内蔵カメラからの映像に合わせて自動的に音楽を生成したり、音楽をインタラクティブに操作して、リミックスすることができます。

AV再生を楽しむ

付属の「Digital Media Park」ソフトウェアを使って、WAVEファイルやMIDIファイルといった、サウンドファイルを再生できます。
また、別売りのCD-ROMドライブをつなぐと、ビデオCDも再生できます。

インターネットを楽しむ

通信用のモデムを内蔵しているため、インターネットに接続して世界中の情報に接したり、電子メールをやりとりできます 。

ノートブックパソコンとしての特長

本機は軽量で、バッテリーで使用できるノートブックパソコンです。この特長を生かして、本機を使いこなしてください。

外出先でデータ収集

携帯電話やPHSとつないで、外出先でもインターネットに接続して情報収集したり、電子メールで情報交換できます。

旅行や出張のおともに

旅行先から家族・友人に電子メールを送信できます。内蔵カメラ（MOTION EYE）を使って撮影した静止画や動画を電子メールに添付して送ることもできます。旅の便りも電子メールで。その日のうちに新鮮な感動が届きます。

使用環境に合わせたバッテリー管理

付属の「PowerPanel」ソフトウェアを使えば、処理速度を優先したり、バッテリーの寿命を優先したりなどといった動作環境を簡単に設定できます。また、付属の「BatteryScope」ソフトウェアを同時に使うことで、バッテリーの使用可能時間なども同時に把握できます。これで「プレゼンテーション中に突然のバッテリー切れ」といった心配もありません。

マニュアルの使いかた

本書は、以下の4章で構成されています。

❑ 操作編

パソコンを初めてお使いになる方は、「基本的な使いかた」からお読みください。一歩進んだ使いかたは「VAIOを使いこなす」をご覧ください。

❑ 拡張編

プリンターなどの周辺機器のつなぎかたや、PCカードの使いかたなどについて説明しています。

❑ セットアップ編

本機をお使いになる状況や好みに合わせて、本機の設定を変更できます。ここでは、付属のソフトウェアを使った設定のしかたを説明しています。

❑ その他

本機をご使用になる際のご注意やお手入れのしかたなどについて説明しています。本機がうまく動作しないときは、「故障かな？と思ったら」をお読みください。

本機でできることの一部をご紹介します。それぞれ詳しくは右側の参照先の説明をご覧ください。
また、本機にどんなソフトウェアが付属されているかは、別冊の「付属ソフトウェア一覧」をご覧ください。

こんなことがしたい	詳しくは
静止画を撮りたい	「静止画を取り込む」(54ページ)
動画を撮りたい	「動画を取り込む」(63ページ)
CyberCodeを使って ソフトウェアを起動させたい	「好みのソフトウェアを自動的に起動する」(75ページ)
インターネットを楽しみたい	「インターネットを楽しむ」(48ページ)
手軽にメモをとりたい	「情報をメモして活用する」(68ページ)
デジタルスチルカメラを使いたい	「デジタルスチルカメラを使う」 (106ページ)
他のパソコンのデータを 本機で使いたい	「他の機器とデータをやりとりする」 (87ページ)

オンラインマニュアルの使いかた

この取扱説明書の内容は、オンラインマニュアルとして画面上でお読みいただけます。取扱説明書を持ち歩かなくても、外出先で本書の内容を参照できます。
また、本機のセットアップのしかたについては、オンラインマニュアルのみに記載されています。

オンラインマニュアルを見るには

オンラインマニュアルを見るには、本機の電源が入っている状態で、次のように操作します。

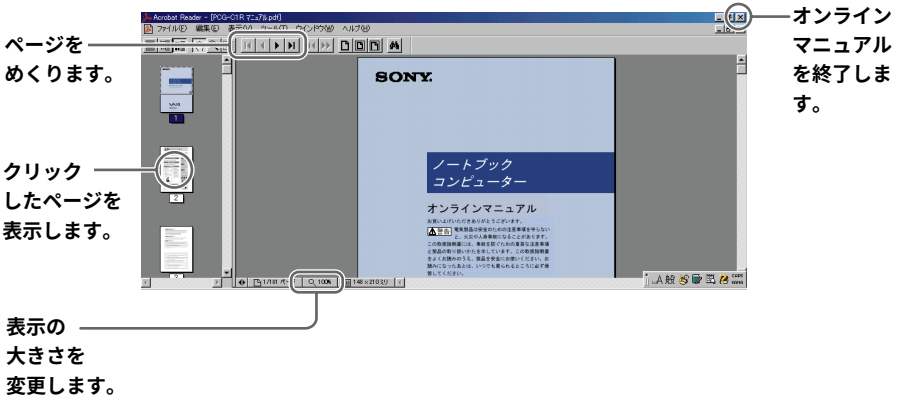
［スタート］ボタンをクリックして［VAIO］にポインターを合わせ、［マニュアル］を選び、［PCG-C1Rマニュアル］をクリックする。

オンラインマニュアルの表紙が表示されます。

オンラインマニュアルの見かた

基本的なオンラインマニュアルの見かたを説明します。

サムネール（縮小表示）を見たいときは、 をクリックします。

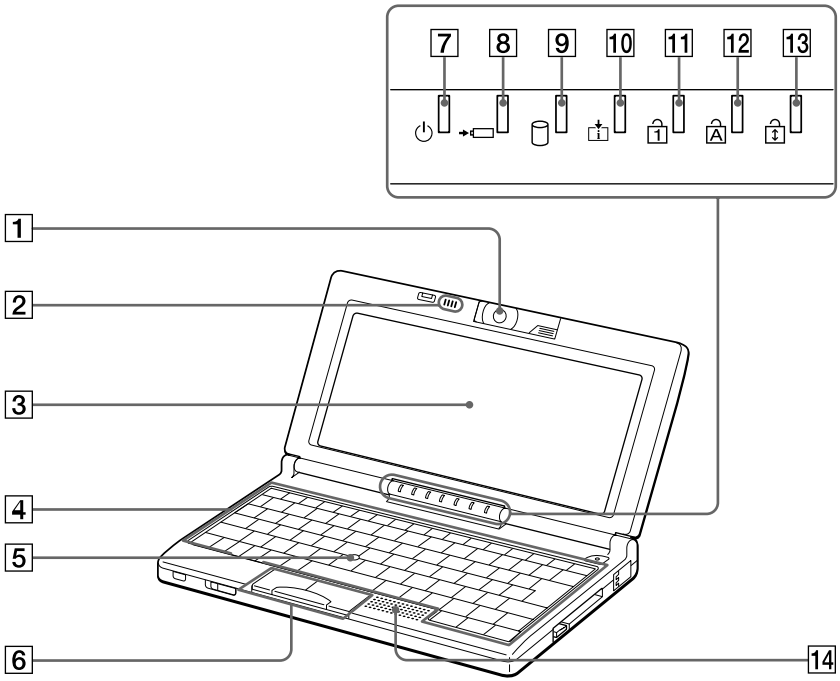


各ソフトウェアのヘルプを見るには

本機に付属しているソニー製のソフトウェアにはヘルプが添付されています。それぞれのヘルプの使いかたについて詳しくは、各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

各部のなまえ

詳しい説明は、（ ）内のページをご覧ください。



1 **内蔵カメラ**（MOTION EYE）（54、75、85、92**ページ**）

2 **内蔵マイク**（69、73**ページ**）

3 **液晶ディスプレイ**（151、167**ページ**）

4 **キーボード**（30、166**ページ**）

5 **スティック**（27、145**ページ**）

6 **左／センター／右ボタン**（27**ページ**）

7 **(パワー) ランプ**（24**ページ**）

8 **(バッテリー) ランプ**（45**ページ**）

9 **(ハードディスク) ランプ**

10 **(インフォメーション) ランプ**（81**ページ**）

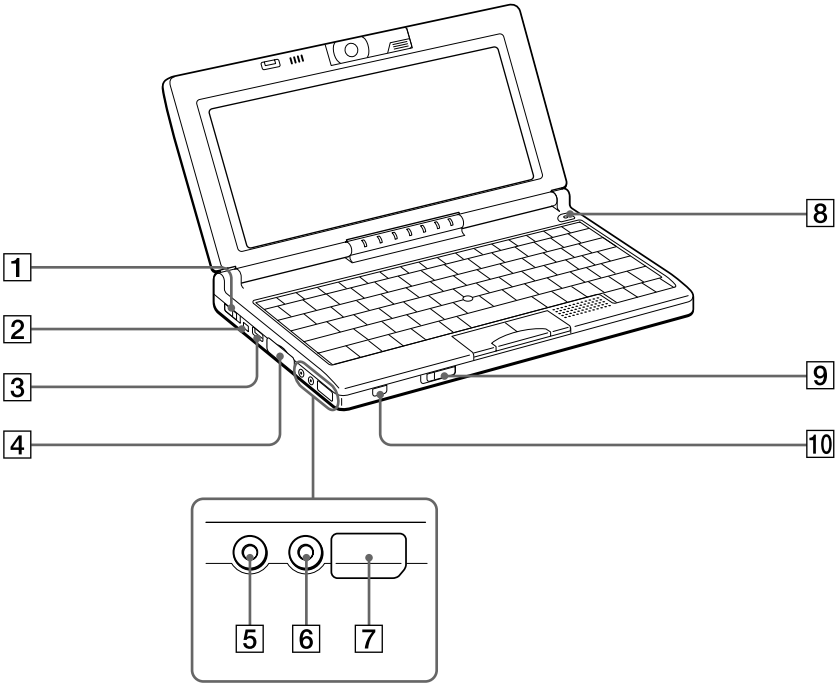
11 (Num Lock) **ランプ**（172**ページ**）

12 (Caps Lock) **ランプ**

13 (Scroll Lock) **ランプ**

14 **内蔵スピーカー**（167**ページ**）

本機左側面



1 ⏻パワースイッチ
(24ページ)

2 i S200 (i.LINK) コネクター
(103ページ)

3 Ψ(USB) コネクター
(40、108、111ページ)

4 ▭(外部ディスプレイ) コネクター (112ページ)

5 🎤 (マイク) コネクター

6 🎧 (ヘッドホン) コネクター
(113ページ)

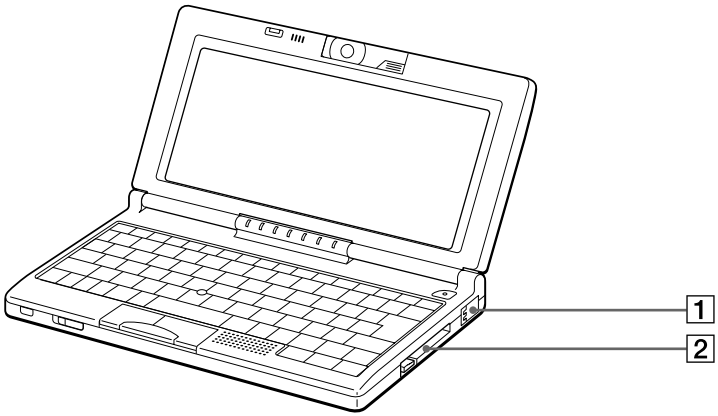
7 赤外線通信ポート
(87、106、110ページ)

8 CAPTUREボタン
(54、63ページ)

9 ディスプレイロックレバー
(24ページ)

10 プログラマブルパワーキー
(78ページ)

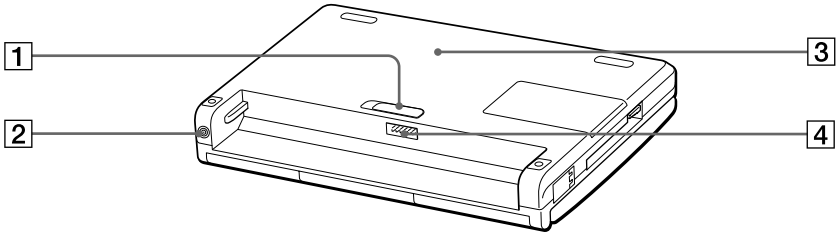
本機右側面



1 **モジュラージャック**
（100**ページ**）

2 PC**カードスロット**
（104、115**ページ**）

本機底面



1 **取りはずしレバー**（47**ページ**）

2 (DC IN) **コネクター**
（23**ページ**）

3 **リセットスイッチ**
（168**ページ**）

4 **バッテリーコネクター**
（46**ページ**）

操作編

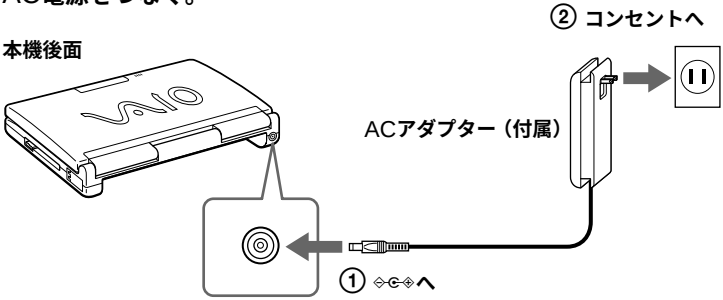
第1章

この章では、最初に本機の基本的な使いかたを、次にいろいろな目的にあった本機の使いかたを説明します。

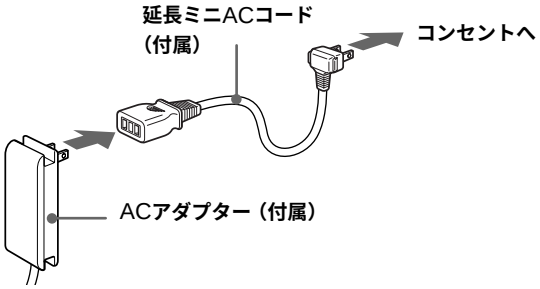
電源を入れる

ここではAC電源につないだときの電源の入れかたについて説明します。バッテリーを使うときは、「バッテリーで使う」(45ページ) をご覧ください。

1 AC電源をつなぐ。



本機のACアダプターを差し込み口が複数あるコンセントでお使いになるとき、同一コンセント上に他の機器のACアダプターを差し込むと、本機のACアダプターとぶつかり正しく差し込めないことがあります。
そのときは、別のコンセントをご使用になるか、付属の延長ミニACコードを本機のACアダプターに取り付けてお使いください。



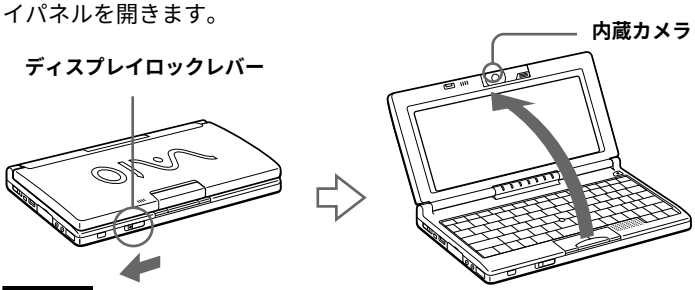
ご注意

延長ミニACコードのコード部分を無理に曲げたりしないでください。

次のページにつづく

2 ディスプレイパネルを開く。

ディスプレイロックレバーを矢印の方向にずらしながら、ディスプレイパネルを開きます。



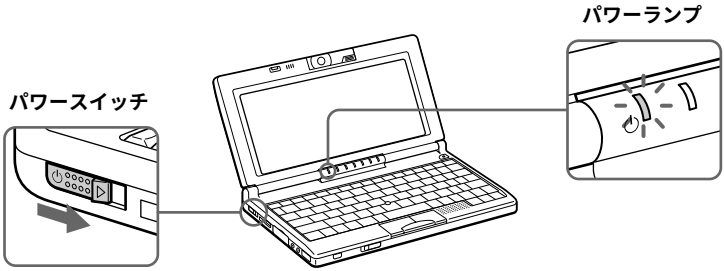
ご注意

次のことを守らないと、故障の原因となります。

- ディスプレイパネルを開くときは、内蔵カメラの部分を持たないでください。
- 内蔵カメラを外側に向けたままディスプレイパネルを閉じないでください。
- ディスプレイパネルを閉じた状態で内蔵カメラを回さないでください。

3 パワースイッチを▷の方向にずらし、パワーランプが点灯（グリーン）したら離す。

本機の電源が入り、しばらくして、Windows 98が起動します。
初めて電源を入れたときは、Windows 98セットアップ画面が表示されます。Windows 98セットアップ画面については、別冊の「はじめにお読みください」をご覧ください。



ご注意

4秒以上パワースイッチをずらしたままにすると、電源は切れてしまいます。

電源を切るには

本機の電源を切るときは、次の手順で操作してください。

ご注意

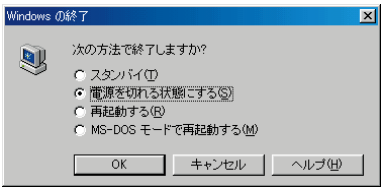
以下の手順通りに電源を切らないと故障の原因になったり、作成した文書などのファイルが使えなくなったりすることがあります。

1 **［スタート］ボタンをクリックする。**

「スタート」メニューが表示されます。

2 **メニューの［Windowsの終了］をクリックする。**

「Windowsの終了」が表示されます。



3 **「電源を切れる状態にする」をクリックして選び、つぎに［OK］をクリックする。**

「しばらくお待ちください」と数秒表示されてから、本機の電源が自動的に切れ、パワーランプ（グリーン）が消灯します。

「スタート」メニューから［Windowsの終了］を選んでも電源が切れないときは

以下の作業を行ってから、再度操作してください。

- 使用中のソフトウェアをすべて終了する。
- PCカードをお使いの場合は、「PCカードを取り出す」（117ページ）の手順に従ってPCカードを取り出す。
- USB機器を接続しているときは取りはずす。
- 赤外線通信を終了する、または使用不可にする。

それでも電源が切れないときは、「故障かな？と思ったら」の「電源が切れない」（169ページ）をご覧ください。

移動するときなどしばらく作業を中断するときや、翌日まで本機を使わないときなどは、システム サスペンドモードやシステム ハイバネーションモードを使うと便利です。

詳しくは「バッテリーの消費電力を節約する」（127ページ）、「省電力動作モードについて」（131ページ）をご覧ください。

再起動するには

本機の設定を変更したり、アプリケーションソフトをインストールしたときなどは、本機を再起動する必要があります。

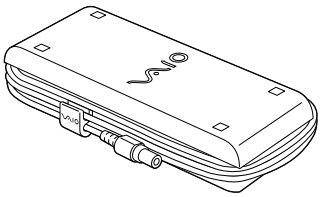
1 **［スタート］ボタンをクリックする。**
「スタート」メニューが表示されます。

2 **メニューの［Windowsの終了］をクリックする。**
「Windowsの終了」ウィンドウが表示されます。

3 **「再起動する」をクリックして選び、つぎに［OK］をクリックする。**
「しばらくお待ちください」と数秒間表示されてから、本機が再起動します。

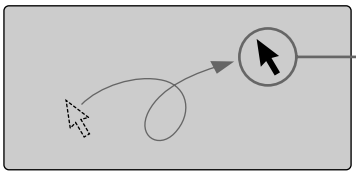
ACアダプターを持ち運ぶときは

コードをACアダプターの側面に巻きつけると、コードが邪魔になりません。



ポインティング・デバイスを使う

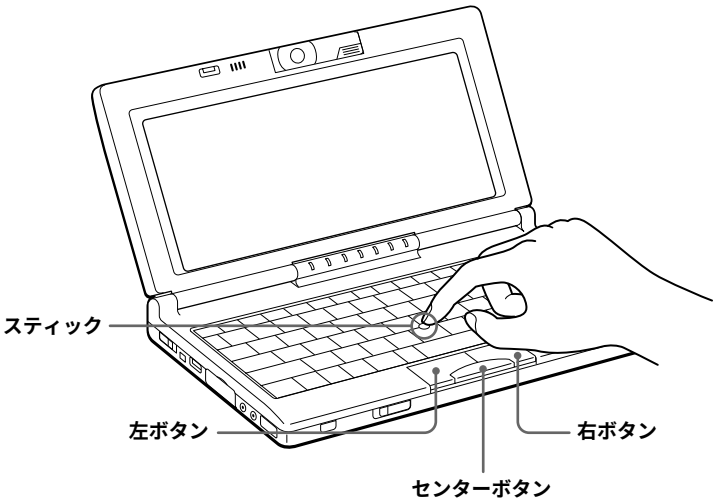
スティックを指で軽く押すと、画面上のポインターは押した方向に移動します。スティックを押す力（圧力）によって動く速度を調整できます。スティックを強く押すとポインターは速く動きます。



ご注意

ポインターが自然に動くことがまれにありますが、故障ではありません。しばらくポインティング・デバイスから指を離していればポインターは止まります。

ポインターを目的の位置まで動かして左ボタンまたは右ボタンを押すだけで、メニューを選んだり、さまざまな命令をコンピューターに伝えることができます。



クリックする

ポインターを希望の位置に合わせて、キーボードの手前にある左ボタンを1回押します。
［OK］や［キャンセル］などのボタンを押したり、メニューを選ぶときなどに使います。

ダブルクリックする

ポインターを希望の位置に合わせて、左ボタンを2回続けて押します。
ワードプロセッサーや表計算などのソフトウェアを実行したり、作成した文書などのファイルを開くときなどに使います。

ドラッグする

ポインターを希望の位置に合わせて、左ボタンを押したまま、スティックを押し、希望の位置でボタンを離します。
ファイルを移動したり、ウィンドウの大きさを変更するときなどに使います。

右クリックする

ポインターを希望の位置に合わせて、右ボタンを1回押します。
押したときのポインターの位置によって、さまざまな内容のポップアップメニューが表示されます。

スクロールする

センターボタンを押しながらスティックを指で押します。アプリケーション上のスクロールバーを上下左右に移動できます。

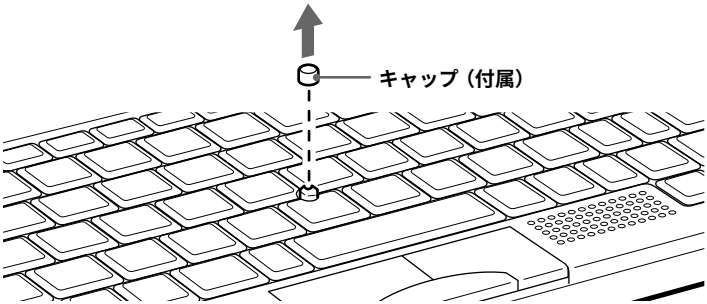
ご注意

スクロール機能を使うには、アプリケーション側の対応が必要です。対応していないアプリケーションでは、この機能は使えません。

上記は工場出荷時の設定です。設定を変更したり、ポインティング・デバイスをより便利に使うには、「ポインティング・デバイスの設定を変更する」（145ページ）をご覧ください。

スティックのキャップを交換するには

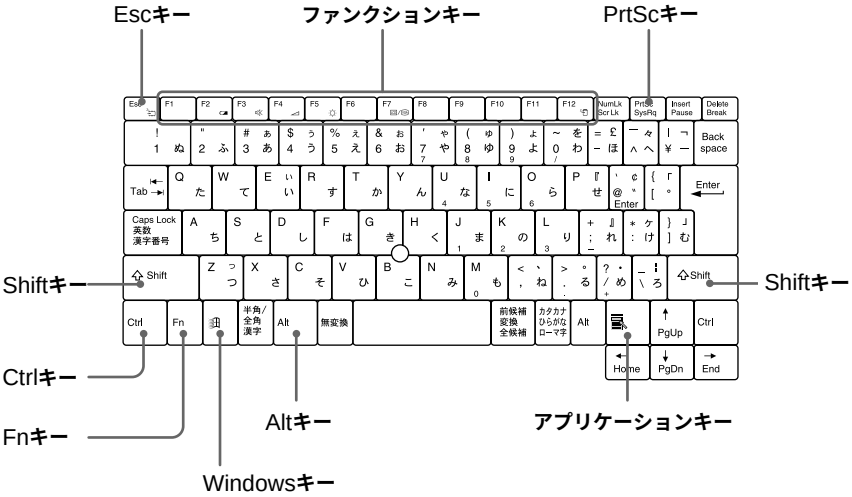
スティックの先についているキャップは着脱式です。付属の予備キャップと交換することができます。



キーボードを使う

キーボードを使って文字や記号を入力したり、パソコンへ命令を送ることができます。ここでは、他のキーと組み合わせて使う、特殊なキーのなまえと機能を紹介します。

文字の入力のしかたについては、「文字を入力する」（32ページ）をご覧ください。



なまえ	機能
ファンクションキー	使用するソフトウェアによって働きが異なります。
Ctrl（コントロール）キー	文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくはソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。 例）Ctrlキーを押しながら、Sキーを押す。 メニューから「保存する」を選ばずに、ファイルを保存できます。

なまえ	機能
Alt（オルト）キー	文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。オルタネートキーともいいます。 使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくはソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
Shift（シフト）キー	文字キーと組み合わせて使うと、大文字を入力できます。また、文字キーと他の機能キーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。
Windows（ウィンドウズ）キー 	Windows 98の「スタート」メニューが表示されます。 他のキーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくはソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。 「Windowsキーとの主な組み合わせと機能」（166ページ）をご覧ください。
アプリケーションキー 	右ボタンを押したときと同じ働きをします。
Fn（エフエヌ）キー	キーボード上で紫色で表記されている機能を使うとき、このキーと組み合わせて押します。 ファンクションキー（F1からF12キー）などと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。 「Fnキーとの主な組み合わせと機能」（167ページ）をご覧ください。
Esc（エスケープ）キー	設定を取り消したり、実行を中止するときなどに押します。
PrtSc（プリントスクリーン）キー	表示されている画面を取り込みます。取り込んだ画像は「ペイント」などのソフトウェア上に貼りつけられます。詳しくはソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

文字を入力する

ここでは、文字の入力のしかたについて説明します。文字を入力するにはキーボードを使います。本機に付属している、「ワードパッド」という文章を作成するためのソフトウェアを使って、文字入力を練習してみましょう。キーボード上の各キーのなまえと働きについて詳しくは、「キーボードを使う」(30ページ) をご覧ください。

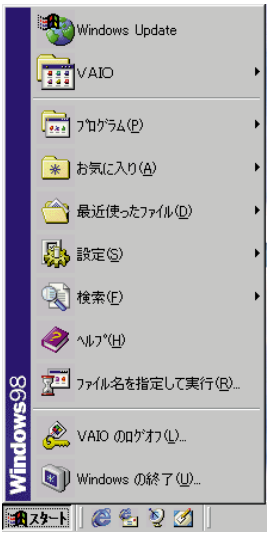
日本語入力の前に

ここでは、ワードパッドを起動して、日本語を入力できるようにするまでの手順を説明します。

1 ワードパッドを起動する

まず、ワードパッドを起動します。

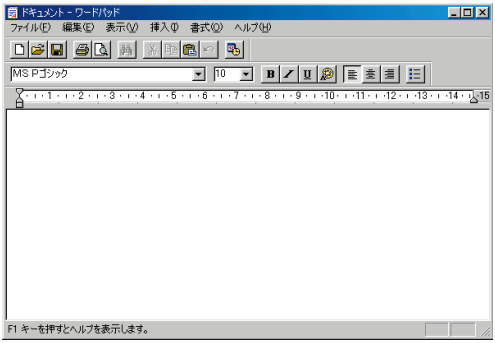
1 **［スタート］ボタンをクリックする。**
スタートメニューが表示されます。



次のページにつづく

2 **［プログラム］をクリックして、ポインターを［アクセサリ］に合わせてから、［ワードパッド］をクリックする。**

ワードパッドが起動し、文字を入力する画面が表示されます。



2 日本語入力を選ぶ

キーボード上の各キーにはアルファベットやひらがなが印刷されていますが、ただキーを押しても、漢字やカタカナは入力できません。

日本語を入力するためには、画面に表示されているMS-IME98のツールバーを使って、入力文字を切り換える必要があります。

MS-IME98**ツールバー**

1 MS-IME98**ツールバーの［␣A］をクリックする。**

文字入力選択メニューが表示されます。

2 **［ひらがな］をクリックする。**

画面上に表示されているツールバーの表示が［␣A］から［あ］に変わり、日本語を入力できるようになります。

［␣A］から［あ］に変わる。

ツールバーが表示されていないときは

タスクバーの右側にあるをクリックして、「ツールバーを表示」をクリックします。

ツールバーについて詳しくは、付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドをご覧ください。

入力のしかたを選ぶ

日本語を入力する方法として、ローマ字入力方式とかな入力方式があります。お好みにあわせて、入力方法を選んでください。

なお、お買い上げ時は、ローマ字入力に設定されています。

ローマ字入力

キーボード上のアルファベットを組み合わせて、ローマ字で日本語を入力する方法です。1文字を入力するために2つのキーを組み合わせるので、操作が多少めんどうですが、英文タイプライターに慣れているかたはこちらが便利です。

かな入力

キーボード上の各キーに印刷されているひらがなを使って、日本語を入力する方法です。1文字につき1つのキーを押せばよいので操作は楽ですが、50音それぞれのキーの配置を覚える必要があります。

かな入力とローマ字入力を切り換える

MS-IME98ツールバーの［KANA］をクリックするか、Ctrlキーを押しながら英数キーを押す。

ローマ字入力とかな入力とが切り換わります。

かな入力

KANAの文字が
押された状態

［KANA］をクリックするか、Ctrlキーを押しながら英数キーを押す。

ローマ字入力

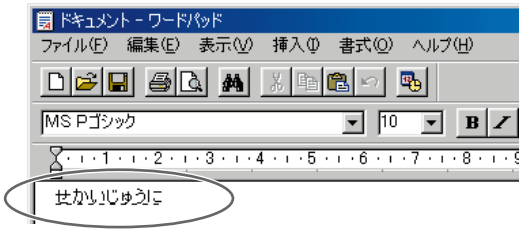
KANAの文字が
押されていない状態

文字を入力する

ここでは、具体的な文字の入力のしかたを説明します。
例として、「世界中にひろがったVAIOノート」という言葉を入力してみます。

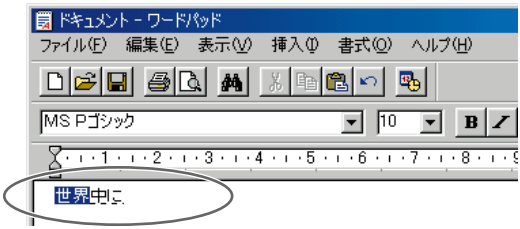
1 漢字を入力する

1 「世界中に」の読みを入力する。



- **ローマ字入力の場合**
  S、E、K、A、I、J、U、U、N、Iの順にキーを押します。
- **かな入力の場合**
  せ、か、い、し、゛（濁点）、ゅ（Shiftキーを押しながら「ゆ」を押します）、う、に、の順にキーを押します。
  キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

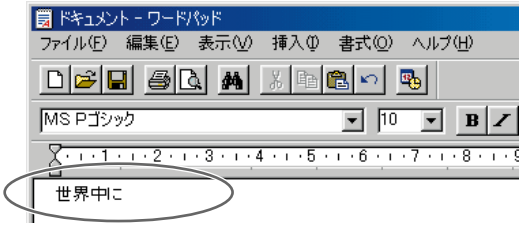
2 スペースキーを押す。



入力した読みに当てはまる漢字が表示されます。
まちがった漢字が表示されたときは、正しい漢字が表示されるまで、何回かスペースキーを押します。

次のページにつづく

3 Enterキーを押す。



変換が確定します。

間違って入力したときは

次のキーを使って修正します。

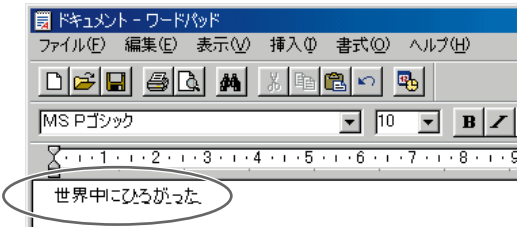
Backspace**キー**：カーソルの直前の1字を消し、カーソルの位置が戻ります。

Delete**キー**：カーソルのある位置の1字を消します。

Esc**キー**：確定していない文字をすべて消去します。

2 ひらがなを入力する

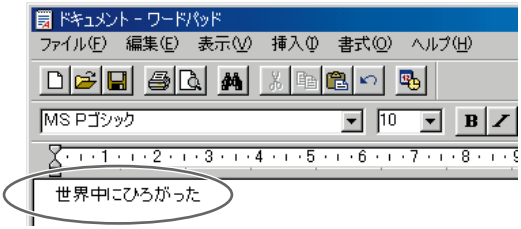
1 「ひろがった」の読みを入力する。



- **ローマ字入力の場合**
  H、I、R、O、G、A、T、T、Aの順にキーを押します。
- **かな入力の場合**
  ひ、ろ、か、゛（濁点）、っ（Shiftキーを押しながら「つ」を押します）、た、の順にキーを押します。
  キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

次のページにつづく

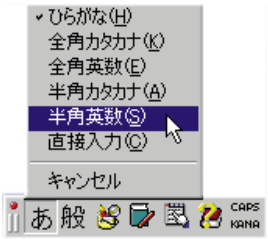
2 **Enterキーを押す。**



変換する必要がないので、スペースキーを押す必要はありません。

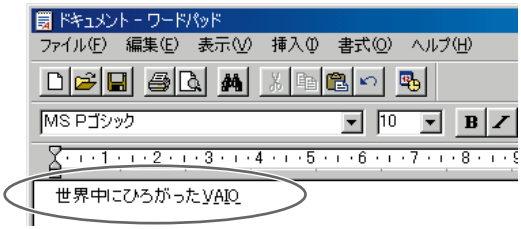
3 英字を入力する

1 **MS-IME98のツールバーの［あ］をクリックして、［半角英数］を選ぶ。**



ツールバーの表示が［␣A］になり、アルファベットが入力できる状態になります。

2 **Shiftキーを押しながら、V、A、I、Oの順にキーを押す。**



3 **Enterキーを押す。**

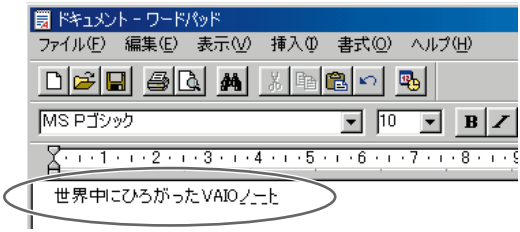
アルファベットの小文字や数字を入力するときは、Shiftキーを押す必要はありません。

4 カタカナを入力する

1 **MS-IME98のツールバーの［␣A］をクリックして、［全角カタカナ］を選ぶ。**

ツールバーの表示が［カ］になり、カタカナが入力できる状態になります。

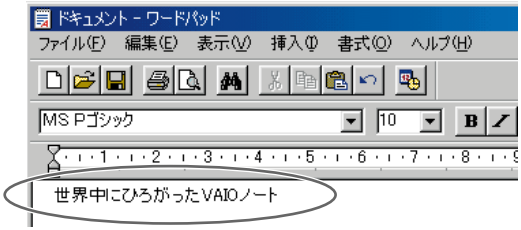
2 **「ノート」の読みを入力する。**



- ローマ字入力の場合
  N、O、-（長音、[=/£/ほ]キー）、T、Oの順にキーを押します。
- かな入力の場合
  の、ー（長音、[|/¥/ヘ]キー）、と、の順にキーを押します。
  キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

次のページにつづく

3 Enterキーを押す。



変換する必要がないので、スペースキーを押す必要はありません。

これで「世界中にひろがったVAIOノート」と入力できました。

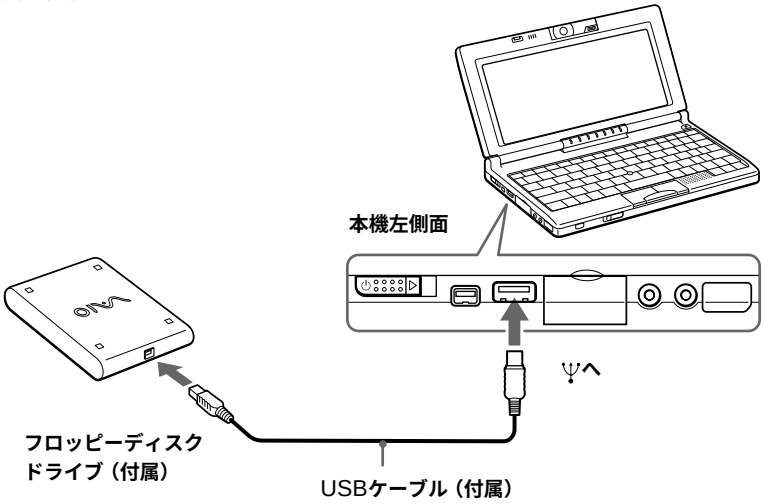
キーボード上にない文字や記号の入力のしかたや、漢字に変換する文節の位置の調節のしかたなどについて詳しくは、付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドまたはMS-IME98のヘルプをご覧ください。

フロッピーディスクを使う

フロッピーディスクは、薄くて軽い、手軽に取り扱うことのできる記録メディアです。
ここでは、フロッピーディスクドライブの取り付けかたや、フロッピーディスクの取り扱いについて説明します。

フロッピーディスクドライブを取り付ける

付属のUSBケーブルを使って、フロッピーディスクドライブ（付属）を本機に接続します。



接続すると、フロッピーディスクドライブは自動的に認識されます。

ご注意

付属のUSBフロッピーディスクドライブ（PCGA-UFD1）はPCG-C1シリーズ専用です。他のパソコンでは使用できません。

フロッピーディスクドライブは本機の電源を入れたままで抜き差しできます。

ご注意

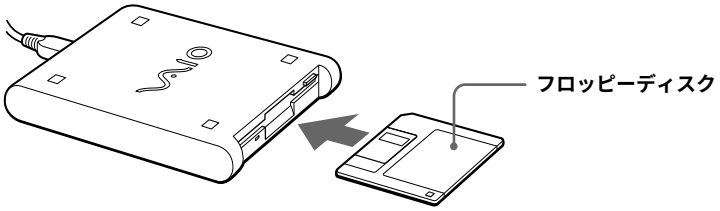
- フロッピーディスクドライブをご使用中であっても、「PowerPanel」ソフトウェアのタイマー機能は働きます。使用中でも、省電力のため画面が暗くなり、システム サスペンドモードやシステム ハイバネーションモードに入ります。フロッピーディスクドライブをお使いのときは、ACプロファイルを選ぶか、プロファイルの設定を変更してください。工場出荷時の設定では、ACプロファイルを選ぶとシステム サスペンドモードやシステム ハイバネーションモードに入らないようになっています。システム サスペンドモードとシステム ハイバネーションモードについて詳しくは、「バッテリーの残量を確認する」（133ページ）をご覧ください。プロファイルの変更について詳しくは、「PowerPanel」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
- フロッピーディスクドライブをご使用中に「PowerPanel」のタイマー機能により、液晶ディスプレイが暗くなりビデオスタンバイ状態になった場合は、キーボードまたはポインティング・デバイスを操作すると通常の動作モードに復帰します。

フロッピーディスクドライブを取りはずすには

フロッピーディスクドライブのアクセスランプが点灯していないことを確認してから、本機側のプラグからUSBケーブルを抜きます。

フロッピーディスクを入れる

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れます。



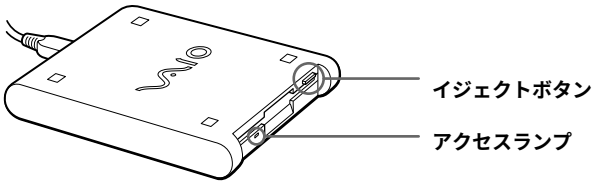
本機で使うフロッピーディスクは、あらかじめ初期化しておく必要があります。市販されているフロッピーディスクをお使いになるときは、「DOS/V 1.44MBフォーマット済」のものをご購入ください。初期化する必要がなくなります。
その他、本機で使えるフロッピーディスクについて詳しくは、次ページの「使用できるフロッピーディスク」をご覧ください。

フロッピーディスクを取り出すには

ディスクドライブのアクセスランプが点灯していないことを確認してから、イジェクトボタンを押します。

ご注意

アクセスランプが点灯しているときにイジェクトボタンを押すと、ディスクの破損の原因となります。



イジェクトボタンを押してもフロッピーディスクが取り出せないないときは

フロッピーディスクドライブを取りはずして、VAIOテクニカルレスポンスセンターにご連絡ください。

データを書き込み禁止にする

大切なデータを誤って消してしまうことのないように、フロッピーディスクには書き込み禁止のタブがついています。このタブを上下に動かして、フロッピーディスクを書き込み可能に、あるいは書き込み禁止にできます。

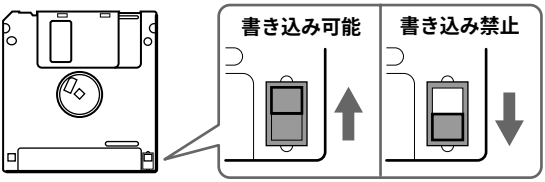
❑ 書き込み可能

データの書き込みが可能な状態です。

❑ 書き込み禁止

穴が見える位置にタブをスライドさせると、書き込み禁止の状態になります。データの読み出しはできますが、書き込みはできません。

フロッピーディスク裏面



使用できるフロッピーディスク

3.5インチフロッピーディスクには、2HD（両面高密度）タイプと2DD（両面倍密度倍トラック）タイプのものがあり、フォーマットによって2HD 1.44Mバイト、2DD 720Kバイト、2HD 1.2Mバイトの3種類に分けることができます。
本機はこれらのフロッピーディスクに対応しています。

種類	本機でできること
2HD 1.44Mバイト	フォーマット、読み書きともに可。
2DD 720Kバイト	フォーマット、読み書きともに可。
2HD 1.2Mバイト	読み書きともに可。 FORMAT、SYS、DRVSPACE（ドライブスペース）、DISKCOPYコマンドは実行不可。

ご注意

- データを保存するときは、2HD 1.44Mバイトまたは2DD 720Kバイトタイプのフロッピーディスクをご使用ください。
- 他のパソコンとデータのやりとりをする場合は、下記のフロッピーディスクをご使用ください。

データをやりとりしたいパソコンのフロッピーディスクドライブの種類	使用するフロッピーディスク
1.44Mバイトのフロッピーディスクドライブ	2HD 1.44Mバイトまたは2DD 720Kバイト
1.2Mバイトのフロッピーディスクドライブ	2HD 1.2Mバイトまたは2DD 720Kバイト

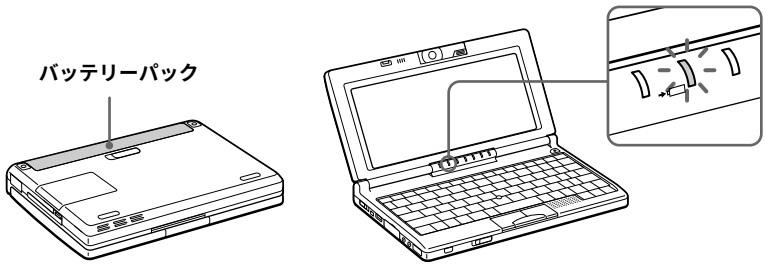
- 市販のアプリケーションソフトはフロッピーディスクの種類に関係なく作られていますが、一部のソフトウェアには2HD 1.44Mバイトおよび2DD 720Kバイト専用に作られているものがあります。これらのソフトウェアから2HD 1.2Mバイトのフロッピーディスクに読み書きを行ったときは、一部の機能が正しく動作しない場合があります。

バッテリーで使う

充電したバッテリーパックを本機に装着していると、AC電源につながなくても本機を使えます。別売りの大容量タイプのバッテリーパック（PCGA-BP12）を取り付けることもできます。

ご注意

- 出荷時に装着されているバッテリーは完全には充電されていないため、はじめてお使いになるときからバッテリーが消耗している状態になっていることがあります。
- 本機は、バッテリーの残量がわずかになると自動的にシステム ハイバネーションモード*になるよう工場出荷時に設定されていますが、ご使用中のソフトウェアや接続している周辺機器によっては、Windowsからの指示で作業を一時中断することができないため、この機能が正しく働かないことがあります。
  長時間席を外されるときなどに、バッテリーが消耗した際、自動的にシステム ハイバネーションモードにならないと、本機の電源が切れ、作業中のデータが失われてしまうおそれがあります。
  バッテリーでご使用のときは、こまめにデータを保存したり、手動でシステム サスペンドモード、またはシステム ハイバネーションモードにしてください。
  * システム ハイバネーションモードでは、作業中の状態がハードディスクに保存され、本機の電源が切れます。
  操作のしかたなど、詳しくは、「省電力動作モードについて」（131ページ）をご覧ください。



バッテリーランプについて

本機の動作状態を示します。

点灯	バッテリー動作中
パワーランプと一緒に点滅	バッテリーの残量が少ない状態
2度連続点滅	バッテリー充電中
消灯	バッテリー切れ、またはAC電源で動作中

- 完全に充電したバッテリーでの使用時間の目安は次の通りです。

標準タイプ	大容量タイプ
約1.5～3時間	約3.5～6.5時間

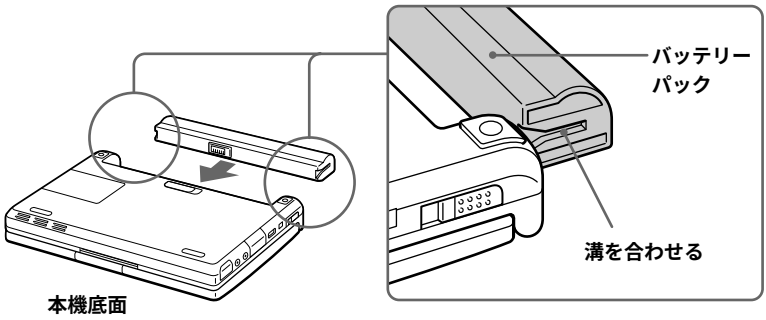
ただし、「Smart Capture」など内蔵カメラを使うソフトウェアを使用すると、約1～2.5時間（標準タイプ）、約2.5～5.5時間（大容量タイプ）になります。
バッテリーの使用時間について詳しくは、「バッテリーの残量を確認する」（133ページ）をご覧ください。

- AC電源につないでいるときは、バッテリーパックを装着しているときでも、AC電源から電源が供給されます。
- バッテリーで長時間使うには
付属の「PowerPanel」ソフトウェアを使って本機のバッテリーを最大限に長時間使用できるように、本機の動作状態を自動的に調節すること（スタミナモード）で、バッテリーの使用時間をのばすことができます。詳しくは、「バッテリーの消費電力を節約する」（127ページ）をご覧ください。
- バッテリーの残量を確認するには
付属の「BatteryScope」ソフトウェアを起動すると、バッテリーの残量と予想使用時間を確認できます。詳しくは、「バッテリーの残量を確認する」（133ページ）をご覧ください。

バッテリーパックを取り付ける

本機後面のバッテリー取り付け部にバッテリーパックを取り付けます。

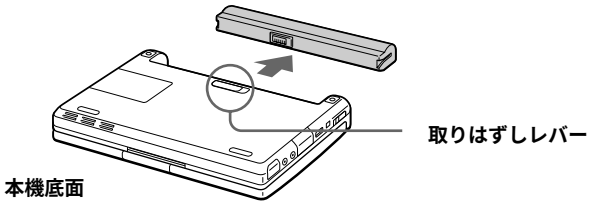
本機後面とバッテリー両端の溝を合わせ、カチッと音がするまでバッテリーを差し込む。



バッテリーパックを取りはずすには

1 **本機の電源を切る。**

2 **取りはずしレバーを横にずらして、バッテリーを取りはずす。**



ご注意

- ACアダプターをつないでいない状態で、本機の電源を入れたままバッテリーを取りはずすと、作業中のデータが失われます。
- ACアダプターをつないでいない状態で、本機がシステム サスペンドモードのときにバッテリーを取りはずすと、保存されていないデータは失われます。

バッテリーを充電する

本機をAC電源につないでいれば、本機を使っていてもバッテリーは充電されます。充電中は、バッテリーランプが2度連続で点滅します。
付属の標準バッテリーの場合、バッテリーの残量が空の状態から充電されるまでに約1.5時間かかります（約85%充電、使用状況による）。
バッテリーが約85%まで充電されると、バッテリーランプは消灯します。
約85%まで充電されたバッテリーは、約1時間後に完全に充電されます。

別売りのバッテリーチャージャーPCGA-BC1で充電することもできます。詳しくはPCGA-BC1の取扱説明書をご覧ください。

インターネットを楽しむ

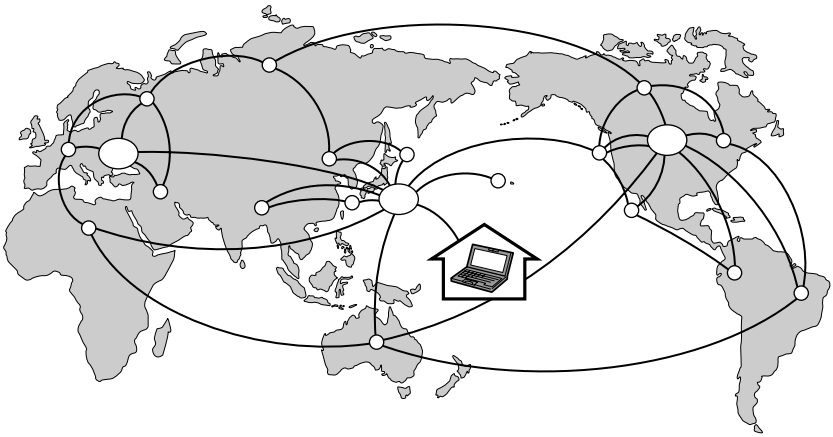
本機には電話回線に接続して通信を行うためのモデムが内蔵されているので、電話回線につないでインターネットを楽しむことができます。

「インターネット」とは？

世界中のコンピューターがつながった、地球規模のネットワークのことです。インターネットにつながったパソコンを使うことで、世界中の情報を入手したり、世界にむけて自分の情報を発信したりすることができます。電子メールを利用すれば、ほとんど同時に国内だけでなく、世界中の友人・知人に連絡を取ることもできます。

インターネットを利用して、以下のようなことができます。

- ホームページを見る
- 自分のホームページを作って公開する
- 電子メールをやり取りする
- オンラインショッピングをする



インターネットを楽しむには

世界中の情報に接することのできるインターネットですが、インターネット自体は電話回線のように、ケーブルがつながったものでしかありません。情報を受け取ったり、発信したりするためには専用のソフトウェアが必要になります。
また、電話回線を通してインターネットにつなぐために、インターネットサービスプロバイダー（以下、「プロバイダー」と略します）という接続業者と契約する必要があります。

プロバイダーについて

数多くのプロバイダーがありますので、料金やサービスの内容をご検討のうえで、ご自分にあったプロバイダーと契約するようおすすめします。料金やサービスの内容について詳しくは、それぞれのプロバイダーにお問い合わせください。
また、契約時にクレジットカードが必要になるプロバイダーもあります。クレジットカードをお持ちでないときは、クレジットカードなしで契約できるプロバイダーをお探しください。

準備1　電話回線につなぐ

本機に内蔵しているモデムを電話回線につなぎます。
詳しくは「内蔵モデムを電話回線につなぐ」（99ページ）をご覧ください。

準備2　インターネットサービスプロバイダーと契約する

次ページの「プロバイダーと契約するには」をご覧ください。

準備3　接続のための設定をする

プロバイダーと契約したあとの設定内容は、プロバイダーの指示にしたがってください。

プロバイダーと契約するには

本機には以下のネットワークサービスに入会するためのソフトウェアが付属しています。詳しくは「付属ソフトウェア一覧」および各接続会社の入会案内をご覧ください。

ソニーグループのプロバイダー「So-net」です。
年中無休のカスタマーサポートで安心・快適にインターネットをご利用いただけます。
大人気の愛玩電子メールソフト「ポストペット」に加え、ますます充実のオンラインコンテンツ100タイトル！オンラインショップが170店舗！
それは楽しいインターネット、So-netです。

AOL（アメリカ・オンライン）の特長は、インターネットも電子メールも簡単にできること、他のインターネット接続サービスに比べて、情報や出会いの場がたくさん用意されていること、そして、何より最初の100時間は無料で使えることです。
本機の電源を入れたら、AOLをクリック！！きっと10分もしないうちに、ネットワークの楽しさに夢中になれます。

ODNは市外電話0088、国際電話0041でおなじみの日本テレコム株式会社が提供するインターネット接続サービスです。
日本テレコムならではの大容量回線であなたのインターネットライフをサポートします。

みんなが選んだインターネットプロバイダー、ニフティサーブ！
国内最大の会員数を誇るニフティサーブなら、メールやホームページ作成はもちろん、あらゆるジャンルの情報サービス、多くの出会いの場でネットワークライフが一層豊かに！全国に広がるアクセスポイントで快適アクセス！ご入会後にはマニュアルをプレゼント！

「ぷらら」は、ソニー、NTT、セガ、ビクター、ヤマハの5社が共同開発したプロバイダーです。お得な料金体系で、話し中がほとんどない、しかも高速のインターネット接続がご利用いただけます。さらに、オンラインショッピングや、多彩なメール機能、ページャ、チャットなど、様々なコンテンツをお楽しみいただけます。

外出先でインターネットにアクセスする

ここでは、外出先でインターネットにアクセスする方法の概略を説明します。外出先でアクセスできるようにしておくと、外出先でどうしても電子メールを送信したいときや、電子メールを確認したいときに便利です。

外出先でインターネットにアクセスするには、4通りの方法があります。

- 公衆電話を使ってアナログ接続する
- 公衆電話を使ってISDN接続する
- デジタル携帯電話を使って接続する
- PHSを使って接続する

公衆電話を使ってアクセスする

デジタル携帯電話やPHSを使ってアクセスする

公衆電話を使ってアナログ接続する

本機はモデムを内蔵しているので、モジュラージャックのある公衆電話に直接つなげます。

テレホンコードとモジュラージャック付きの電話機さえあれば、どこからでもアクセスできますが、アナログ接続のため、使用する電話機によってはすぐに接続が切れてしまうことがあります。

1 **本機と電話機のアナログポートをテレホンコードでつなぐ。**

2 **電話機の「データ通信」ボタンを押す。**

3 **テレホンカードを入れる。**

4 **通信用のソフトウェアを起動する。**

これでインターネットにアクセスできます。

通信を終了するときは

次の2つの方法があります。使用するソフトウェアにあわせて使い分けてください。

- タスクバーの通信インジケーターを右ボタンでクリックして、ショートカットメニューを表示させてから、［切断］を選ぶ。
- 通信用ソフトウェアで、通信を終了するコマンドを実行する。

ご注意

公衆電話のデジタルポートにはつながないでください。故障の原因となります。

公衆電話を使ってISDN接続する

ISDNのTA（ターミナルアダプター）カードを本機に装着してモジュラージャックのある公衆電話につなぐと、外出先でもISDN経由で接続できます。

通信速度が速く（最大64kbps）、安定した状態でアクセスできますが、市販のISDNのターミナルアダプターカードが必要です。

ご注意

アクセスしようとしているプロバイダーがISDNに対応しているかどうかをあらかじめ確認しておいてください。プロバイダーによっては通常のアナログ接続用とISDN接続用で、異なる電話番号を用意していることがあります。

デジタル携帯電話を使って接続する

本機をデジタル携帯電話に接続して、インターネットにアクセスできます。

デジタル携帯電話が使えるところではどこからでも、また移動中でもアクセスできますが、通信速度が遅く（9600 bps）、携帯電話にあわせた接続キットが必要です。

ご注意

接続キットや接続のしかたについて詳しくは、電話会社にお問い合わせください。

PHSを使って接続する

本機をPHSに接続して、インターネットにアクセスできます。

通信速度が速く（最大32kbps）、PHSが使えるところではどこからでもアクセスできますが、PHSにあわせた接続キットが必要です。また、PIAFS方式で接続するときは、契約しているプロバイダーなどがPIAFSに対応している必要があります。

ご注意

- 接続キットや接続のしかたについて詳しくは、電話会社にお問い合わせください。本機のPCカードスロットに直接装着できるPHSもあります。
- PIAFS方式でアクセスするときは、接続しようとしている電話番号がPIAFS方式に対応しているかどうかをあらかじめ確認しておいてください。

外出先で使うときのヒント

プログラマブルパワーキーに電子メールソフトウェアの起動からメールの確認までを登録しておくと、ボタン1つで電子メールの確認ができるので便利です。詳しくは、「ワンタッチで電子メールを確認する」（82ページ）をご覧ください。

静止画を取り込む

本機の内蔵カメラで静止画を撮ったり、i.LINKコネクターに接続したi.LINK対応機器から静止画を取り込んだりすることができます。静止画は電子メールに添付したり、「PictureGear」ソフトウェアを使ってパノラマ画像を作ることができます。

内蔵カメラ（MOTION EYE）を使う

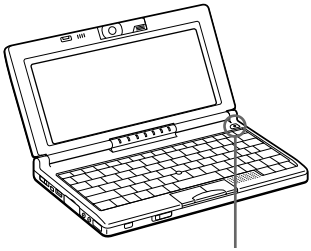
「Smart Capture」ソフトウェアを使って、内蔵カメラで静止画を撮ることができます。

ご注意

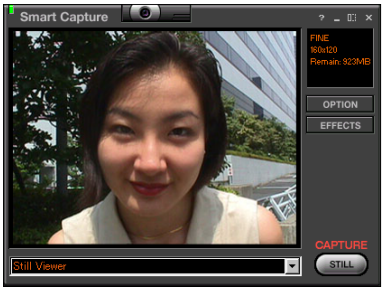
- カメラのレンズに触らないでください。
- 電源の入／切にかかわらず、カメラを太陽に向けないでください。カメラの故障の原因となります。
- 内蔵カメラは取りはずせません。
- 「Smart Capture」は、内蔵カメラを使う他のソフトウェア（Sonicflow、CyberCode Finderなど）と同時に使用することができません。「Smart Capture」を使うときは、内蔵カメラを使用する他のソフトウェアを終了してください。
- S200コネクターにi.LINK対応機器をつなぎ、静止画を取り込むときは、内蔵カメラから静止画を取り込むことはできません。

1 CAPTUREボタンを押し込む。

「Smart Capture」ソフトウェアが起動し、ファインダーウィンドウが表示されます。

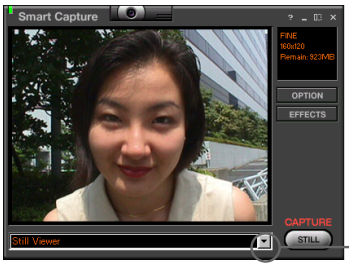


CAPTUREボタン



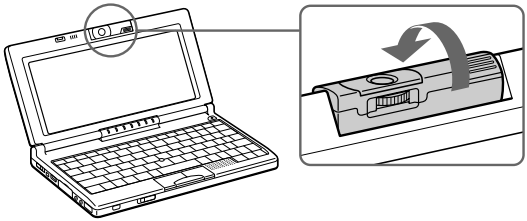
次のページにつづく

2 **アプリケーション切り換えメニューで［Still Viewer］を選ぶ。**

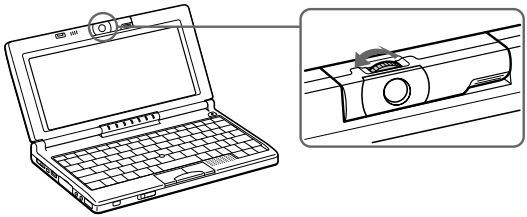


3 **向かい側の被写体を撮るときは、内蔵カメラを外側に向ける。**

自分を撮るときは内蔵カメラを手前に向けます（対面撮影）。



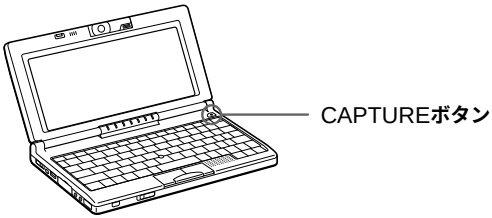
4 **フォーカスリングでピントを合わせる。**



5 **CAPTUREボタンを軽く押す。**

画像が一時的に静止します。

画像を選び直すときは、CAPTUREボタンを離してから選び、もう一度軽く押します。



ご注意

静止画のサイズを640×480で撮影したときは、CAPTUREボタンを軽く押しても画像は静止しません。

次のページにつづく

6 CAPTURE**ボタンを押し込む。**

「Still Viewer」ソフトウェアが自動的に起動し、静止画が表示されます。

取り込まれた静止画

- 対面撮影時、ファインダーウィンドウに映る画像は鏡のように映りますが、取り込まれた静止画は左右正しくなります。
- 「Smart Capture」ソフトウェアで取り込まれ、「Still Viewer」ソフトウェアで表示される静止画は、「Smart Capture」または「Still Viewer」を終了したり、本機の電源を切った後も、あらかじめ設定された「静止画像記録フォルダ」に保存されています。詳しくは、「Smart Capture」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
- セルフタイマーを使ったり、パノラマ画像を撮影するときに便利なパノラマアシスト機能を使うこともできます。詳しくは、「Smart Capture」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

ご注意

- 「Smart Capture」で取り込める静止画のサイズは、640×480、320×240、160×120、80×60、40×30の5種類です。ただし、640×480で取り込んだ静止画は480×240のサイズで取り込んだ画像を処理して作っているので、画像が粗くなることがあります。
- 640×480での静止画の取り込みは、システムに負荷がかかるため、撮影時のタイミングがずれることがあります。
- 取り込んだサイズがファインダーのサイズより極端に小さいとき（40×30など）、画像が粗く表示されることがあります。
- 動きの速い被写体をファインダーウィンドウに表示させると画面に水平方向に段差のようなものが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。

「Smart Capture」ソフトウェアを終了するには

画面右上の をクリックするか、ウィンドウの枠内で右クリックしてショートカットメニューを表示させ、［終了］をクリックします。

「Still Viewer」ソフトウェアを終了するには

画面右上の をクリックするか、ウィンドウの枠内で右クリックしてショートカットメニューを表示させ、［終了］をクリックします。

i.LINK対応機器から静止画を取り込む

i.LINK対応機器で録画した映像、または撮影している映像から、お好みの場面を静止画として本機に取り込めます。i.LINK対応機器から静止画を取り込むには、付属の「Smart Capture」または「DVgate still」ソフトウェアを使い、以下の流れに沿って行います。

i.LINK対応機器と本機を接続する

i.LINK対応機器の接続について詳しくは、「i.LINK対応機器をつなぐ」（103ページ）をご覧ください。

「Smart Capture」または「DVgate still」ソフトウェアを起動する

起動後は、「Smart Capture」または「DVgate still」ソフトウェアを使って静止画を取り込みます。
「Smart Capture」ソフトウェアおよび「DVgate still」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、それぞれのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

パノラマ画像を作る

本機の内蔵カメラで撮影した静止画を何枚かつなげてパノラマ画像を作ることができます。

内蔵カメラで静止画を撮影する

「Smart Capture」ソフトウェアのパノラマアシスト機能を使うと、パノラマ画像作成に使用できる静止画を撮影できます。詳しくは「Smart Capture」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

「PictureGear」ソフトウェアを起動する

起動後は、「PictureGear」ソフトウェアを使ってパノラマ画像を作ります。
「PictureGear」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「PictureGear」の取扱説明書およびヘルプをご覧ください。

静止画を電子メールに添付する

内蔵カメラで撮影した静止画を電子メールに添付して送ることができます。

1 CAPTUREボタンを押す。

［スタート］ボタンをクリックして［VAIO］または［プログラム］にポインターを合わせ、［Smart Capture アプリケーション］を選び、［Still Viewer］をクリックする。

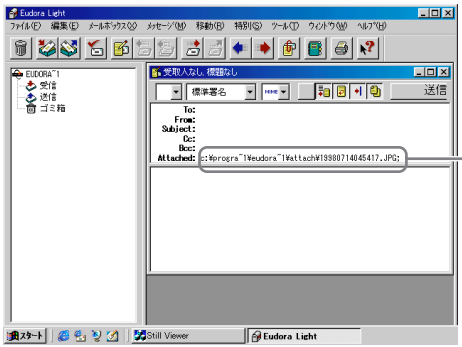
「Still Viewer」のウィンドウが表示されます。

2 **「Still Viewer」のウィンドウ上で電子メールに添付したい静止画を選ぶ。**

⏮または⏭を押すか、スライダーを動かして静止画を選びます。

3 ［MAIL］をクリックする。

選んだ静止画が添付された状態で電子メールソフトウェアが起動します。



選んだ静止画のフォルダー

次のページにつづく

4 **静止画が添付された電子メールを送付する。**

電子メールの送信方法については、電子メールソフトウェアのヘルプをご覧ください。

「Still Viewer」から静止画を電子メールで送付する場合は、MAPI（Messaging Application Programming Interface）対応の電子メールソフトウェアを使用する必要があります。本機にはMAPIに対応した電子メールソフトウェアとして「EUDORA Light」や「Outlook Express」が付属しています。また、電子メールソフトウェアの各種設定を行う際に、MAPIを使用するように設定する必要があります。MAPIの設定方法について詳しくは、次ページの「電子メールソフトウェアのMAPIを設定するには」をご覧ください。

電子メールソフトウェアのMAPIを設定するには

ご注意

お使いになるメールアドレスなどの各種設定を行ってから、MAPIを設定してください。

「EUDORA Light」を使うとき(工場出荷時の設定)

1 **［スタート］ボタンをクリックして［プログラム］にポインターを合わせ、［EUDORA Light3.0-J］を選び、［MAPIインストーラ］をクリックする。**

「EUDORA Pro MAPIインストーラ」画面が表示されます。

2 **［EUDORA MAPIサーバを登録］をクリックしてから、［閉じる］をクリックする。**

3 **［スタート］ボタンをクリックして［プログラム］にポインターを合わせ、［EUDORA Light 3.0-J］を選び、［EUDORA Light］をクリックする。**

「EUDORA Light」ソフトウェアが起動します。

4 **［ツール］メニューから［オプション］を選ぶ。**

「オプション」画面が表示されます。

5 **左側の［分類］をスクロールし、［MAPI］をクリックする。**

6 **「EUDORA MAPI サーバの使用:」の［常時］ラジオボタンをクリックする。**

7 **［OK］をクリックする。**

「Outlook Express」を使うとき

1 **［スタート］ボタンをクリックして［プログラム］にポインターを合わせ、［Internet Explorer］を選び、［Outlook Express］をクリックする。**

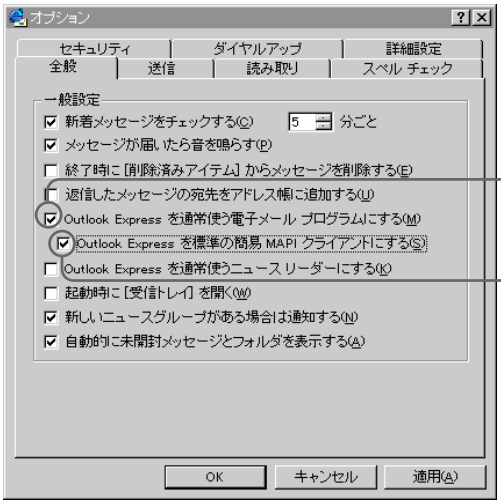
「Outlook Express」ソフトウェアが起動します。

2 **［ツール］メニューから［オプション］をクリックする。**

「オプション」画面が表示されます。

3 **［全般］タブをクリックする。**

4 **［Outlook Expressを通常使う電子メールプログラムにする］チェックボックスおよび［Outlook Expressを標準の簡易MAPIクライアントにする］チェックボックスをクリックする。**



5 **確認画面が表示されたら、［はい］をクリックする。**

6 **「オプション」画面の［OK］をクリックする**

7 **「Outlook Express」ソフトウェアを終了する。**

8 **Windows 98を再起動する。**

動画を取り込む

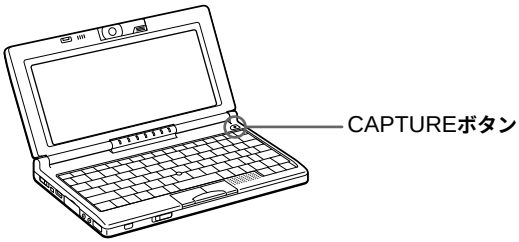
本機の内蔵カメラで動画を取り込むことができます。取り込んだ動画は本機で再生したり、電子メールに添付したりすることができます。

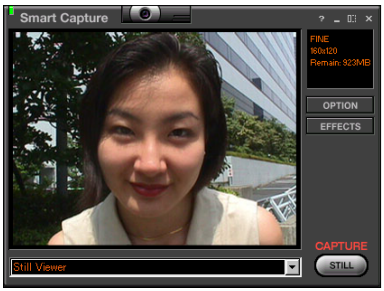
ご注意

- カメラのレンズに触らないでください。
- 電源の入／切にかかわらず、カメラを太陽に向けないでください。カメラの故障の原因となります。
- 内蔵カメラは取りはずせません。
- 外出先などでバッテリーを使って本機を動作させ、動画を取り込むときは「PowerPanel」ソフトウェアでACプロファイルかカメラプロファイルを選んでください。スタミナプロファイルを選んだときは映像のコマ落ちが発生したり、音声が途切れたりすることがあります。「PowerPanel」ソフトウェアについて詳しくは、「バッテリーの消費電力を節約する」（127ページ）をご覧ください。
- S200コネクターにi.LINK対応機器をつなぎ、動画を取り込むときは、内蔵カメラから動画を取り込むことはできません。

1 CAPTURE**ボタンを押し込む。**

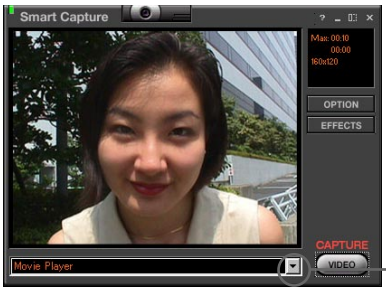
「Smart Capture」ソフトウェアが起動し、ファインダーウィンドウが表示されます。





次のページにつづく

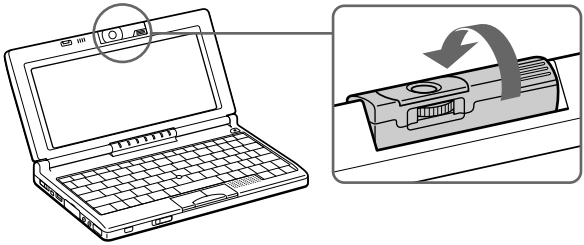
2 **アプリケーション切り換えメニューで［Movie Player］を選ぶ。**



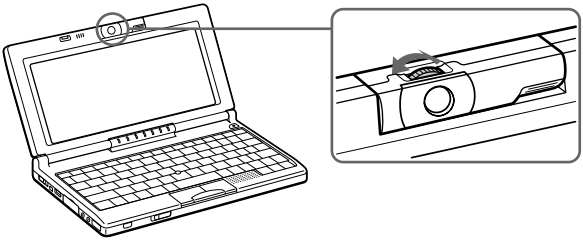
ここをクリックして選ぶ。

3 **向かい側の被写体を撮るときは、内蔵カメラを外側に向ける。**

自分を撮るときは内蔵カメラを手前に向けます（対面撮影）。

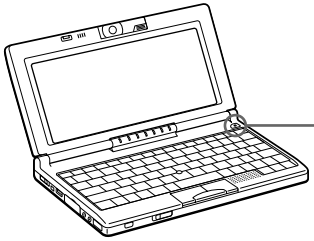


4 **フォーカスリングでピントを合わせる。**



5 **CAPTUREボタンを押し続ける。**

CAPTUREボタンを押している間、最大60秒間の動画を取り込むことができます。



CAPTUREボタン

次のページにつづく

6 CAPTUREボタンを離す。

「Movie Player」ソフトウェアが自動的に起動し、動画が表示されます。

取り込んだ動画

- 対面撮影時、ファインダーウィンドウに映る画像は鏡のように映りますが、取り込まれた動画は左右正しくなります。
- エフェクトをかけながら動画を取り込むこともできます。詳しくは、「Smart Capture」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
- 「Smart Capture」ソフトウェアで取り込まれる動画のフォーマットは、次のようになります。

非圧縮時	ビデオ形式：160×120、24ビット、最大10フレーム／秒 オーディオ形式：PCM、11.025kHz、16ビット、モノラル
圧縮時	ビデオ形式：VDOWave SV-512、160×112、24ビット、最大10フレーム／秒 オーディオ形式：GSM 6.10、11.025kHz、モノラル

ご注意

動きの速い被写体をファインダーウィンドウに表示させると画面に水平方向に段差のようなものが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。

取り込んだ動画を見るには

取り込んだ動画は「Movie Player」ソフトウェアで再生できます。

►をクリックすると、取り込んだ動画が再生されます。再生を一時停止するには❚❚を、停止するには■をクリックします。

「Smart Capture」ソフトウェアを終了するには

画面右上の×をクリックするか、ウィンドウの枠内で右クリックしてショートカットメニューを表示させ、［終了］をクリックします。

「Movie Player」ソフトウェアを終了するには

画面右上の×をクリックするか、ウィンドウの枠内で右クリックしてショートカットメニューを表示させ、［終了］をクリックします。

動画を電子メールに添付する

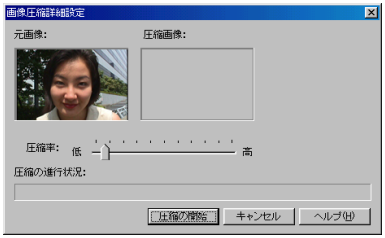
内蔵カメラで撮影した動画を電子メールに添付して送ることができます。

1 **［スタート］ボタンをクリックして［VAIO］または［プログラム］にポインターを合わせ、［Smart Capture アプリケーション］を選び、［Movie Player］をクリックする。**

「Movie Player」のウィンドウが表示されます。

2 **［MAIL］をクリックする。**

「画像圧縮詳細設定」ダイアログボックスが表示されます。



3 **圧縮の設定を行う。**

スライダーを動かし、圧縮率を選ぶ。

次のページにつづく

4 **［圧縮の開始］をクリックする。**

動画データの圧縮が始まり、進行状況が表示されます。
圧縮が終わると、圧縮された動画が添付された状態で電子メールソフトウェアが起動します。

5 **電子メールを送信する。**

電子メールの送信方法については、電子メールソフトウェアのヘルプをご覧ください。

「Movie Player」から圧縮した動画を電子メールで送付する場合は、MAPI（Messaging Application Programming Interface）対応の電子メールソフトウェアを使用する必要があります。本機にはMAPIに対応した電子メールソフトウェアとして「EUDORA Light」や「Outlook Express」が付属しています。また、電子メールソフトウェアの各種設定を行う際に、MAPIを使用するように設定する必要があります。MAPIの設定方法について詳しくは、「電子メールソフトウェアのMAPIを設定するには」（61ページ）をご覧ください。

ご注意

- 電子メールにファイルを添付する際は、接続するネットワークや送付先に負担をかけないよう送信する動画データの容量にご注意ください。特に、一度に複数の宛先への送信時には、充分ご注意ください。
- 「Movie Player」ソフトウェアで圧縮された動画の再生には専用デコーダーソフトウェアがインストールされたWindows 95またはWindows 98が動作するコンピューターが必要です。デコーダーソフトウェアインストーラーは、FTP サーバーftp://ftp.vdo.co.jp/pub/vdo/Decoder/VDODecode30.exe から取得できます。また、本機に付属のインストーラーを電子メールに添付して相手先に送ることもできます。
  本機以外のコンピューターで再生する場合、あらかじめ、再生するコンピューター側で上記のインストーラーによりデコーダーソフトウェアのインストールが行われていることをご確認の上ご利用ください。

情報をメモして活用する

本機のメモ機能について

本機には、情報を気軽にメモして活用するために、次の2種類のソフトウェアを付属しています。

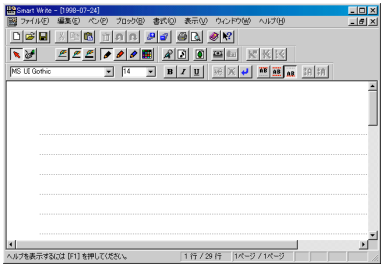
- Smart Write：文字、画像、音声でメモをとるときに便利です。（68ページ）
- Smart Label：音声と画像でメモをとるときに便利です。（72ページ）

文字でメモをとる（Smart Write）

ちょっとしたメモをとりたいときなどに便利です。
「Smart Write」ソフトウェアを使いこなすために、「Smart Write」のヘルプもあわせてご覧ください。

1 **［スタート］ボタンをクリックし、［VAIO］にポインターを合わせ、［ステーショナリ］を選び、［Smart Write］をクリックする。**
「Smart Write」ソフトウェアが起動します。

2 **キーボードを使って文字を入力する。**



画像でメモをとるには

画像（ビットマップファイル）を文字や音声と一緒にメモできます。

1 **をクリックする。**

「Smart Capture」ソフトウェアが起動します。

2 **被写体にカメラを向けて をクリックするか、CAPTUREボタンを押す。**

画像が挿入されます。

音声でメモをとるには

音声を文字や画像と一緒にメモできます。

1 **をクリックする。**

「録音」画面が表示されます。

2 **［録音］をクリックしてマイクに向かって話す。**

録音が始まります。

3 **［録音終了］をクリックして録音を停止する。**

4 **［OK］をクリックする。**

音声が挿入されます。

文字、音声メモ、画像メモを消すには

BackspaceキーまたはDeleteキーを押します。

「Smart Write」を終了するには

［ファイル］メニューから［アプリケーションの終了］を選びます。

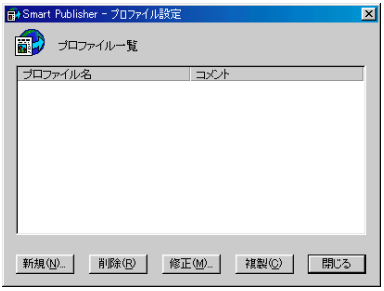
作成したデータをインターネットに送信する（Smart Publisher）

「Smart Write」ソフトウェアで作成したデータを簡単にインターネットに送信することができます。

インターネットに送信する前にインターネットに接続する設定を完了している必要があります。インターネットへの接続については、「インターネットを楽しむには」（49ページ）をご覧ください。

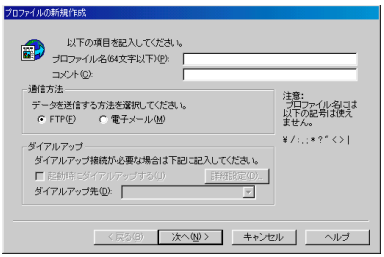
1 **［スタート］ボタンをクリックし、［VAIO］にポインターを合わせ、［ステーショナリ］を選び、［Smart Publisher］をクリックする。**

「Smart Publisher」が起動し、「プロファイル設定」画面が表示されます。



2 **［新規］をクリックする。**

「プロファイルの新規作成」画面が表示されます。



次のページにつづく

3 **必要な情報を入力し、［次へ］をクリックする。**

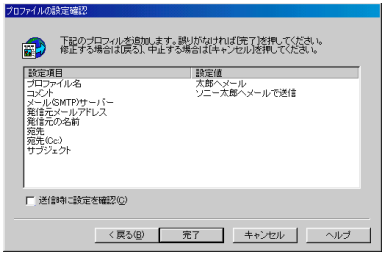
プロファイル名、コメントを入力し、データ通信方法をFTPと電子メールから選びます。

データ送信の際にダイヤルアップ接続が必要な場合には、接続先を選びます。

［次へ］をクリックすると、通信方法で選んだ方法の設定画面が表示されます。

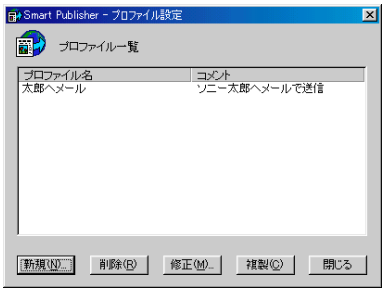
4 **必要な情報を入力し、［次へ］をクリックする。**

引き続き画面の指示に従って操作します。前の画面を見るには［<戻る］をクリックします。最後に「プロファイルの設定確認」画面が表示されます。



5 **［完了］をクリックする。**

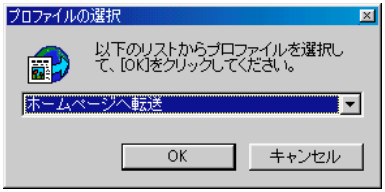
プロファイル一覧に作成したプロファイルが表示されます。



次のページにつづく

6 **「Smart Write」ソフトウェアを起動し、「ファイル」メニューから「インターネットに送信」→「選択して送信の実行」を選ぶ。**

「Smart Publisher」ソフトウェアが起動します。



7 **プロファイルを選んで、[OK] をクリックする。**

選んだプロファイルに従い、送信されます。

「Smart Publisher」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「Smart Publisher」のヘルプをご覧ください。

音声でメモをとる（Smart Label）

「Smart Label」ソフトウェアを使うと、電話中にとっさに番号をメモしたいというときなど、相手の言う電話番号を本機の前で復唱するだけで簡単にメモがとれます。

「Smart Label」ソフトウェアで作成したメモ、録音したメモ、内蔵カメラから取り込んだ画像は自動的に「ラベル」として、デスクトップに貼りつけられます。

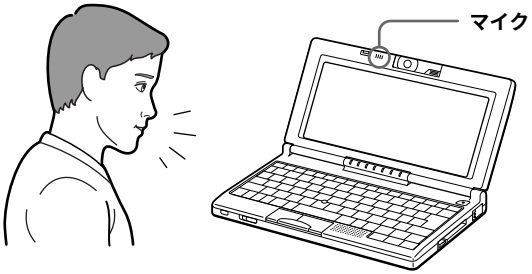
1 **[スタート] ボタンをクリックし、[VAIO] にポインターを合わせ、[ステーショナリ] を選び、[Smart Label] をクリックする。**

「Smart Label」ソフトウェアが起動し、画面右下に が表示されます。

次のページにつづく

2 **画面右下の をダブルクリックし、本機のマイクに向かって話す。**

ラベルが表示され、音声が録音されます。設定により、最大で60秒間の録音ができます。



3 **録音を終了するときは、■をクリックする。**

録音の終了したラベルは、デスクトップの好きな場所に貼り付けることができます。

メモを再生するには

ラベルをクリックし、►をクリックします。

録音したメモが再生されます。再生を一時停止するには❚❚を、停止するには■をクリックします。

内蔵カメラから画像を取り込むには

1 **画面右下の を右クリックし、メニューの「カメラ表示」をクリックする。**

2 **被写体にカメラを向け、CAPTUREボタンを押す。**

新しいラベルが作成され、画像が取り込まれます。

内蔵カメラから取り込んだ画像を標準の大きさで表示するには

内蔵カメラから取り込んだ画像は、ラベルの大きさに合わせて縮小して表示されます。標準の大きさで表示するには、表示するラベルを右クリックしてポップアップメニューから「ビットマップ」を選び、さらにサブメニューから「標準の大きさで表示」を選びます。

メモを消すには

消したいラベルを右ボタンでクリックし、［ラベル削除］をクリックします。
ラベルが消去されます。

「Smart Label」のラベルに文字や画像データを追加したりすることもできます。
詳しくは「Smart Label」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

好みのソフトウェアを自動的に起動する

内蔵カメラ（MOTION EYE）でソフトウェアを起動する

付属のCyberCodeシールを使って、よく使うソフトウェアやホームページなどを記憶させておくと、記憶させたCyberCodeシールを内蔵のカメラにかざすだけで起動させることができます。

ご注意

- カメラのレンズに触らないでください。
- 電源の入／切にかかわらず、カメラを太陽に向けないでください。カメラの故障の原因となります。
- 内蔵カメラは取りはずせません。
- 「CyberCode Finder」は、内蔵カメラを使う他のソフトウェア（Sonicflow、Smart Captureなど）と同時に使用することができません。「CyberCode Finder」を使うときは、内蔵カメラを使用する他のソフトウェアを終了してください。
- 外出先などでバッテリーを使って本機で「CyberCode Finder」を動作させるときは、「Power Panel」ソフトウェアでACプロファイルかカメラプロファイルを選んでください。スタミナプロファイルを選んだときはCyberCodeを認識しづらくなったり動作が不安定になることがあります。「PowerPanel」ソフトウェアについて詳しくは、「バッテリーの消費電力を節約する」（127ページ）をご覧ください。

CyberCodeにソフトウェアやホームページを記憶させるには

1 **［スタート］ボタンをクリックして、［VAIO］にポインターを合わせ、［CyberCode Finder］をクリックする。**

「CyberCode Finder」ソフトウェアが起動します。

次のページにつづく

2 **何も登録していないCyberCodeシールを内蔵カメラにかざす。**

「CyberCode Setup」ソフトウェアが起動し、内蔵カメラにかざしたCyberCodeが表示されます。

3 **「タイトル」入力欄にタイトルを、「ファイル名」入力欄に登録するファイル名をそれぞれ入力したあと、[OK] または [適用] をクリックする。**

表示されたCyberCodeに、選んだファイルが登録されます。

[最近使ったファイルを参照] をクリックして、「最近使ったファイル」リストからファイルを選ぶこともできます。

CyberCodeに登録したソフトウェアやホームページなどを起動するには

「CyberCode Finder」を起動して、登録したCyberCodeシールを内蔵カメラにかざします。

CyberCodeシールの登録内容を変更したり、取り消すには

Ctrlキーを押しながら、登録済みCyberCodeシールを内蔵カメラにかざします。「CyberCode Setup」が起動して、登録内容の変更や削除を行うことができます。

CyberCodeシールを印刷するには

ソニーカラービデオプリンターCVP-P77を使うと、CyberCodeシールを印刷できます。

「CyberCode Setup」の「印刷」タブで印刷したいモードをチェックし、［印刷］をクリックしてCyberCodeシールを印刷します。

ソニーカラービデオプリンターCVP-P77の取扱説明書もあわせてご覧ください。

CyberCodeのID番号は0～1048575番まで使用できます。

CyberCodeメッセージカードを使うには

付属のCyberCodeメッセージカードを使って好みの画像や音声ファイルを楽しむことができます。「CyberCode Finder」ソフトウェアのヘルプもあわせてご覧ください。

1 **「CyberCode Finder」ソフトウェアを起動する。**

2 **CyberCodeメッセージカードを内蔵カメラにまっすぐ向けて、ファインダーに映す。**

映しつづけると、「ピッ」と音がして、メッセージが再生されます。

3 **ファインダーに表示される指示にしたがって操作する。**

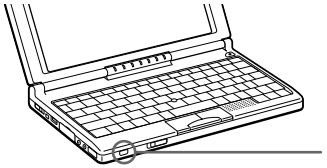
CyberCodeのメッセージカードは「メッセージカードセットアップ」ソフトウェアを使って登録や詳細設定を行うことができます。

ご注意

- CyberCodeが斜めになったり、ぶれたりしないように、しっかり固定して持ち、まっすぐ内蔵カメラに向けて映してください。
- CyberCodeが内蔵カメラから遠すぎたり、内蔵カメラのピントがずれたりすると、登録したソフトウェアやホームページなどを起動させることができないことがあります。適度な距離（10 cm程度）をおいて、内蔵カメラのフォーカスリングを回してピントを合わせて内蔵カメラに映してください。ピントの合わせかたについては、55ページをご覧ください。
- 逆光や反射でCyberCodeがファインダーに正しく映らない場合は、起動しにくいことがあります。
- 内蔵カメラを使う他のソフトウェア（Smart CaptureやSonicflowなど）をCyberCodeに登録し、起動させることはできません。

ワンタッチで好みのソフトウェアを起動する

「PPK Setup」ソフトウェアを使うことにより、プログラマブルパワーキーを押すだけで、好みのソフトウェアやスクリプトファイルを起動できます。



プログラマブルパワーキー

ワンタッチで好みのソフトウェアを起動できるので、すぐに起動したいソフトウェアを割り当てておくと便利です。ここでは初期設定で用意されているソフトウェアを選ぶ手順について説明します。

1 画面右下の をダブルクリックする。

「PPK Setup」が表示されます。

2 「ソフトウェアの登録」から好みのソフトウェアを選び、右ボタンをクリックする。

設定メニューが表示されます。

3 [PPKに割り当てる] をクリックする。

手順2で選んだソフトウェアに が表示されます。

4 [OK] をクリックする。

これで設定は終わりです。本機前面のプログラマブルパワーキーを押すと、設定したソフトウェアが起動します。

「アプリケーション一覧」に入っていないソフトウェアを指定したいときは

[新規登録] をクリックしてから、好みのソフトウェアを指定します。詳しくは、「PPK Setup」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

ご注意

初期設定では、液晶ディスプレイパネルを閉じているときにプログラマブルパワーキーを押しても、指定したソフトウェアは起動しません。
ディスプレイパネルを閉じているときでも起動したいときは、「PPK Setup」画面の［詳細設定］タブをクリックし、「液晶パネルが閉じていてもプログラマブルパワーキーを使用する」をチェックします。
本機をかばんに入れて持ち運んでいるときなどに、誤ってプログラマブルパワーキーを押してしまい、ソフトウェアが起動してしまうこともありますので、ご注意ください。

プログラマブルパワーキーと他のキーとの組み合わせについて

プログラマブルパワーキーと他のキーを組み合わせて押すことにより、好みのソフトウェアを起動することもできます。
前ページの手順2で表示される「設定メニュー」で、組み合わせを選びます。

❑ **「PPKに割り当てる」**

本機前面のプログラマブルパワーキーを押すだけで、好みのソフトウェアが起動します。
本機の電源が入っていないときでも、キーを押すと自動的に本機の電源が入り、好みのソフトウェアが起動します。

❑ **「Alt+PPKで実行する」**

本機の電源が入っているときに、Altキーを押しながらプログラマブルパワーキーを押すと、好みのソフトウェアが起動します。

❑ **「Ctrl+PPKで実行する」**

本機の電源が入っているときに、Ctrlキーを押しながらプログラマブルパワーキーを押すと、好みのソフトウェアが起動します。

❑ **「Shift+PPKで実行する」**

本機の電源が入っているときに、Shiftキーを押しながらプログラマブルパワーキーを押すと、好みのソフトウェアが起動します。

内蔵タイマーで好みのソフトウェアを起動する

内蔵タイマーを使うと、本機が①通常の動作状態のとき、②システム サスペンドモードのときに、好きな時刻に好みのソフトウェアを起動できます。

プログラマブルパワーキーにソフトウェアを割り当てるときと同様に、スクリプトファイルを好みの時刻に実行することもできます。

システム サスペンドモードについて詳しくは、「省電力動作モードについて」（131ページ）をご覧ください。

1 画面右下の をダブルクリックする。

「PPK Setup」が表示されます。

2 「ソフトウェアの登録」からタイマーで起動したいソフトウェアを選び、右ボタンをクリックする。

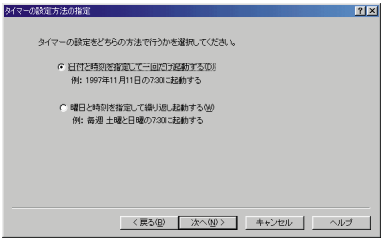
3 ［タイマー起動に割り当てる］をクリックする。

手順2で選んだソフトウェアに が表示されます。

4 ［タイマー設定］タブをクリックする。

5 ［設定］をクリックする。

「タイマーの設定方法の指定」が表示されます。



「日付と時刻を指定して一回だけ起動する」を選ぶと設定した1回のみ、「曜日と時刻を指定して繰り返し起動する」を選ぶと、毎週決まった時間にタイマーが起動します。

6 ［次へ>］をクリックする。

タイマー起動時刻を設定します。

手順5で「日付と時刻を指定して一回だけ起動する」を選んだときは日付と時刻を、「曜日と時刻を指定して繰り返し起動する」を選んだときは曜日と時刻を設定します。

次のページにつづく

7 ［次へ>］をクリックする。

8 ［完了］をクリックする。

これで設定は終わりです。タイマー設定をすると（インフォメーション）ランプが点灯します。

自動的にソフトウェアを起動したあと、本機を一定時間後に省電力動作モードにすることもできます

上記の手順7で［時間による制御］をクリックし、処理を中断するまでの時間などを設定します。

ご注意

- 初期設定では、液晶ディスプレイパネルを閉じているときは、タイマーを設定していても指定したソフトウェアは起動しません。
  ディスプレイパネルを閉じているときでも起動したいときは、「PPK Setup」画面の［詳細設定］タブをクリックし、「液晶パネルが閉じていてもタイマー時刻に起動する」をチェックします。
- タイマー起動後、実際にソフトウェアが動作を始めるまでに時間がかかることがあります。どれくらい時間がかかるかを、あらかじめ確認しておくことをおすすめします。

（インフォメーション）ランプについて

点灯	タイマーが設定されている
点滅	タイマー起動後、プリセットスクリプトの中で処理が正常に終了した状態。液晶ディスプレイを開閉したり、本機の電源を切ったりすると点滅が止まり、タイマーの設定内容に応じて点灯状態になったり、消灯状態になります。
消灯	タイマーが設定されていない、またはタイマー設定が無効な状態（電源オフ、システム ハイバネーションモード）

ワンタッチで電子メールを確認する

プログラマブルパワーキーの便利な使いかたの例として、ワンタッチで電子メールを確認できるよう設定してみましょう。プログラマブルパワーキーを押すだけで、電子メールを確認できます。

ご注意

この機能を使う前に、以下の点を確認してください。

- インターネットに接続するための接続会社と契約は済んでいますか。
- 電子メールのアカウントを取得していますか。
- Windows 98の「ダイヤルアップネットワークの設定」は済んでいますか。
- 「ダイヤルアップネットワークの設定」で、「パスワードを保存する」にチェックはついていますか。
- 電子メールソフトウェアの設定は済んでいますか。

1 画面右下の をダブルクリックする。

「PPK Setup」が表示されます。

2 [プリセットスクリプトの登録]をクリックする。

「プリセットスクリプトの設定」が表示されます。

以下の手順で設定します。

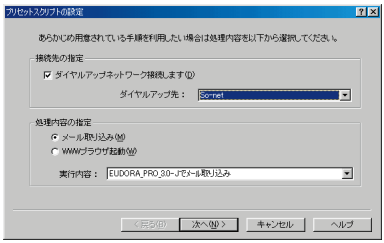
① [ダイヤルアップネットワーク接続する]をクリックし、ダイヤルアップ先を設定する。

下矢印ボタンをクリックして、「インターネット接続ウィザード」などで設定した、ダイヤルアップ先を選びます。

② [メール取り込み]をクリックし、実行内容を設定する。

下矢印ボタンをクリックして、使用する電子メールソフトウェアを選びます。

記入例



次のページにつづく

3 **[次へ>] をクリックする。**

ファイル名やコメントを入力します。

ここで入力したファイル名とコメントは、「PPK Setup」画面に表示されます。

4 **[完了] をクリックする。**

5 **手順4で設定したファイル名を、「アプリケーションの一覧」から選び、右ボタンでクリックする。**

6 **「ワンタッチで好みのソフトウェアを起動する」(78ページ) の手順3と4を行う。**

これで設定は終わりです。プログラマブルパワーキーを押すと、指定した電子メールソフトウェアが起動して、電子メールを自動的に取り込みます。

PPK Setupソフトウェアの制限事項について

電話回線を使用するソフトウェアを起動する場合は

通信状態やサーバーの状態によっては、正常に回線を切断できないことがあります。

プログラム実行中は実行状態を監視して、異常が発見された場合には手動で回線を切断してください。また、タイマー起動するときは、一定時間後にシステム サスペンドモードやシステム ハイバネーションモードへ移行するように設定しておくことをおすすめします。このように設定しておくことで、回線を正常に切断できないときでも、強制的に切断できます。

ただし、内蔵モデムリングレジュームがオンになっている場合には、システム サスペンドモードになっても回線が切断されませんのでご注意ください。

電話回線自動接続機能を持つ電子メールソフトウェアを使うときは

電子メールソフトウェアには、「Microsoft Outlook Express」などの、電話回線に自動的に接続する機能を持つものもあります。

このような機能を持った電子メールソフトウェアを使用するときは、「PPK Setup」のダイヤルアップ機能（スクリプトなど）を使ってインターネットに接続するよりも、電子メールソフトウェアの機能を使ってインターネットに接続したほうが、接続不良などの異常事態が発生したときに、安定して回線を切断できる可能性が高くなります。

PPK Setupの簡易設定では、電子メールソフトウェアなどの起動前にダイヤルアップネットワークに自動的に接続します。そのため、電子メールソフトウェア側でダイヤルアップできるときは、電子メールソフトウェア側でダイヤルアップするように設定を変更するようおすすめします。

スクリプト実行中はパソコンの操作をしないでください

簡易設定によるメール取り込みには「Smart Script」で作成したスクリプトを使用しています。

これらのスクリプトを実行中にパソコンの操作をすると、誤動作の原因となりますのでご注意ください。

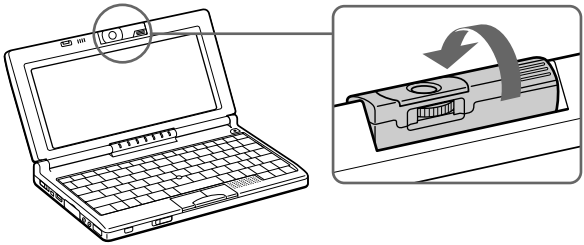
内蔵カメラ（MOTION EYE）で英単語を読みとる

「CyberClip」ソフトウェアを使うと、印刷された英単語を本機の内蔵カメラで読みとることができます。
「ロボワード」などのソフトウェアと連携することにより、読みとった英単語の日本語訳を表示することもできます。

ご注意

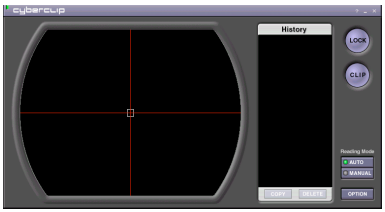
- カメラのレンズに触らないでください。
- 電源の入／切にかかわらず、カメラを太陽に向けないでください。カメラの故障の原因となります。
- 内蔵カメラは取りはずせません。
- 「CyberClip」は、内蔵カメラを使う他のソフトウェア（Smart Capture、Sonicflow、CyberCode Finderなど）と同時に使用することができません。「CyberClip」を使うときは、内蔵カメラを使用する他のソフトウェアを終了してください。

1 内蔵カメラを外側に向ける。



2 ［スタート］ボタンをクリックし、［VAIO］または［プログラム］にポインターを合わせ、［CyberClip］を選び、［CyberClip］をクリックする。

「CyberClip」ソフトウェアが起動し、ファインダーウィンドウが表示されます。
標準設定では連携ソフトウェアとして設定されている「ロボワード」も同時に起動します。

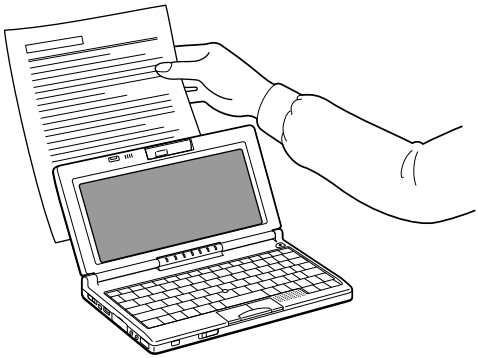


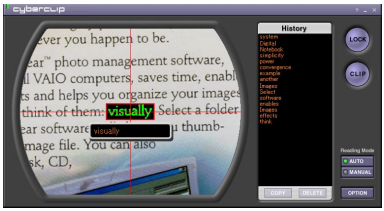
次のページにつづく

3 **読みとりたい英単語を内蔵カメラにかざす。**

外側からかざします。

しばらくかざしていると、英単語がテキストで表示されます。





- ファインダーウィンドウの認識カーソル（＋印）に単語の中心が表示されるようにかざしてください。
- 黒字に緑の文字の画像がくっきり見えるように内蔵カメラのピントを合わせてください。ピントの合わせかたについては55ページをご覧ください。

さらにしばらくかざしていると、英単語が「History」に登録されます。ポインターが「History」に移動し、日本語訳が表示されます。

「CyberClip」ソフトウェアを終了するには

画面右上の をクリックします。

ご注意

「CyberClip」ソフトウェアを終了しても、同時に「ロボワード」ソフトウェアは終了しません。「ロボワード」ソフトウェアを終了するには、タスクバーの を右クリックしてショートカットメニューを表示させ、［終了］をクリックします。

英単語がうまく認識できないときは

マニュアルモードに切り換えます。マニュアルモードではCAPTUREボタンを押して英単語を認識させます。詳しくは「CyberClip」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

他の機器とデータをやりとりする

本機で作成したデータを他機に送ったり、他機で作成したデータを本機で受け取ったりすることができます。自宅や職場などで複数のパソコンをお使いのときは、作成したデータをやりとりすることで、本機をより活用いただけます。また、データ交換の方法を工夫することで、Macintoshなど、Windowsが動作しない機種とデータをやりとりすることもできます。

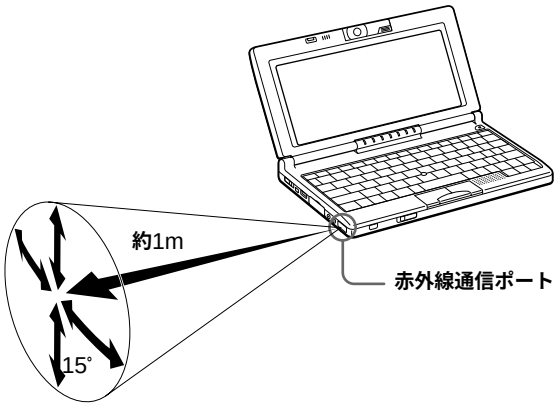
例えば...
外出するときに、必要なデータだけを職場のデスクトップパソコンから本機に読み込んで、外出先でデータを修正します。職場に戻ってから、本機で修正したデータをデスクトップパソコンに戻して、データを加工したり保存したりできます。

ここでは、データ交換で使われている、以下の方法について説明します。

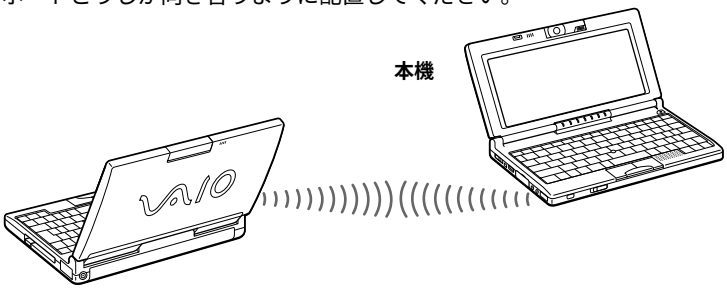
- 赤外線（IrDA規格）を使ってやりとりする
- ネットワークを使ってやりとりする
- PCカードを使ってやりとりする

赤外線（IrDA）でデータをやりとりする

本機左側面の赤外線通信ポートを使って、IrDA対応の赤外線通信ポートの付いた他の機器とデータをやりとりできます。ケーブルをつながずにデータの送受信ができるため、ケーブルをつなぐ手間が省けるうえに、ケーブルを使ったときに比べて短時間でデータをやりとりできます。
パソコンだけでなく、赤外線通信ポートを持っている機器であればデータをやりとりできます。例えば、ソニー製のデジタルスチルカメラ「サイバーショット」（DSC-F1/F2/F3）にもIrDA対応の赤外線通信ポートがついているため、本機と赤外線でデータをやりとりできます。



他のノートパソコンとデータをやりとりするときは、下図のように赤外線ポートどうしが向き合うように配置してください。



赤外線通信ポートのない機器でも、別売りの赤外線通信アダプターを取り付けると、本機と赤外線でデータをやりとりできるようになるものもあります。
詳しくは、お持ちの機器の販売店にご相談ください。

赤外線でデータをやりとりするには

実際にデータをやりとりするには、本機に付属のソフトウェアを使います。

- 「PictureGear」：デジタルスチルカメラなどから画像データを取り込む。
- 「Intellisync for Windows」：パソコン間で文書などのデータをやりとりする。

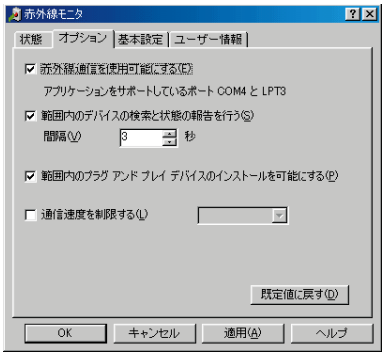
「PictureGear」をお使いになるときは

工場出荷時の設定では、赤外線でデータをやりとりすることができません。次の操作を行って、赤外線通信が使えるようにしてください。

1 **［スタート］ボタンをクリックして［設定］にポインターを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**

2 **［コントロールパネル］の中の［赤外線モニタ］をダブルクリックする。**

3 **［オプション］タブをクリックし、「赤外線通信を使用可能にする」をチェックする。**



4 **［OK］をクリックする。**

「Intellisync for Windows」をお使いになるときは

以下の点にご注意ください。

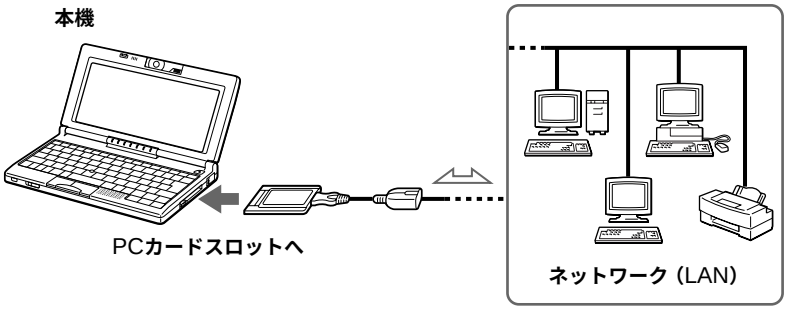
- ［赤外線モニタ］の設定が、「赤外線通信を使用可能にする」になっていると、他のパソコンと赤外線で接続できません。このようなときは、上記の手順3で「赤外線通信を可能にする」のチェックをはずし、［OK］をクリックしてから、「Intellisync for Windows」を起動してください。
- 「Intellisync for Windows」起動時に、赤外線モニターに「赤外線通信は使用不可になっています」と表示されていますが、「Intellisync for Windows」での赤外線通信は使用できますので、そのまま起動してください。

ご注意

- 「「PictureGear」をお使いになるときは」（89ページ）の手順3で「赤外線通信を使用可能にする」をチェックすると、一定時間ごとに通信相手を探すため、バッテリーの消耗が早まります。バッテリーの消耗を防ぐため、データのやりとりが終わったあとは、「赤外線通信を使用可能にする」のチェックをはずしておくことをおすすめします。
- タスクトレイの赤外線モニターアイコンを右クリックして、赤外線通信の設定を変更しないでください。「「PictureGear」をお使いになるときは」（89ページ）の手順3で設定するか、タスクトレイの赤外線モニターアイコンをクリックし、赤外線モニターを起動して設定してください。
- 内蔵ハードディスク以外のデバイス（PCカードに接続したCD-ROM、ハードディスクなど）と赤外線通信で直接データをやりとりするときは、「PowerPanel」でACプロファイルを選ぶか、プロファイルの設定を変更してシステム サスペンドモードやシステム ハイバネーションモードに入らないようにしてください。容量の大きなファイルをうまくやりとりできないことがあります。工場出荷時の設定では、ACプロファイルを選ぶとシステム サスペンドモードやシステム ハイバネーションモードに入らないようになっています。プロファイルの変更について詳しくは、「PowerPanel」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
- データを正しく送受信するために、赤外線でデータをやりとりするときは、以下の点にご注意ください。
  - 通信を行う機器を近づけ過ぎない。
  - 赤外線通信ポートは真正面で向き合うように配置する。
  - 赤外線通信ポート間に物を置かない。
  - 強い直射日光の当たる場所や、インバーター蛍光灯の下では赤外線通信を避ける。

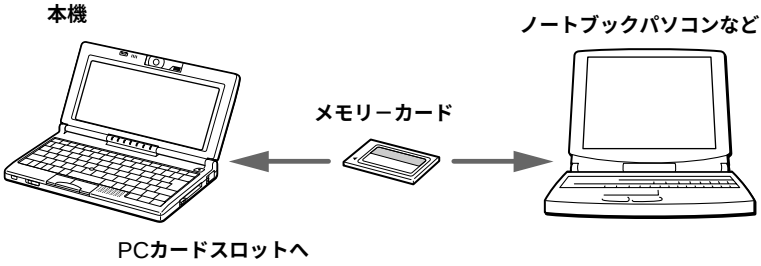
ネットワーク（LAN）につないでデータをやりとりする

本機を職場などのネットワーク（LAN）に接続して、ネットワーク内の他の機器とデータをやりとりできます。
本機とネットワークをつなぐには、ネットワークPCカードが必要です。この場合、接続したいネットワークに合わせた種類のネットワークカードをお使いください。
ネットワークに接続するために必要な周辺機器や設定については、職場などのネットワークのシステム管理担当者にご相談ください。



PCカードを使ってデータをやりとりする

PCカードを使って、PCカードに対応した機器とデータをやりとりできます。PCカードについて詳しくは、「PCカードを使う」（114ページ）をご覧ください。
本機やPCカードに対応した機器で作成したデータをメモリーカードに保存して、データをやりとりできます。



内蔵カメラ（MOTION EYE）を使って音楽を楽しむ

「Sonicflow」ソフトウェアを使って内蔵カメラからの映像で自動的に音楽を生成したり、音楽をインタラクティブに操作して、リミックスを行うことができます。

「Sonicflow」の使いかたについて詳しくは、「Sonicflow」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

ご注意

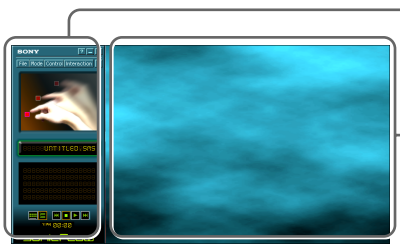
- カメラのレンズに触らないでください。
- 電源の入／切にかかわらず、カメラを太陽に向けないでください。カメラの故障の原因となります。
- 内蔵カメラは取りはずせません。
- 「Sonicflow」は、内蔵カメラを使う他のソフトウェア（Smart Capture、CyberCode Finderなど）と同時に使用することができません。「Sonicflow」を使うときは、内蔵カメラを使用する他のソフトウェアを終了してください。
- 外出先などでバッテリーを使って本機を動作させ、「Sonicflow」で音楽を再生するときは、「PowerPanel」ソフトウェアでACプロファイルかカメラプロファイルを選んでください。スタミナプロファイルを選んだとき、音声が途切れて再生されることがあります。「PowerPanel」ソフトウェアについて詳しくは、「バッテリーの消費電力を節約する」（127ページ）をご覧ください。

内蔵カメラからの映像で音楽を再生する

内蔵カメラに映る映像の動きに合わせて、音楽を再生することができます。ここでは、サンプルファイルを使って音楽を再生してみます。

1 **［スタート］ボタンをクリックし、［VAIO］にポインターを合わせ、［Sonicflow］をクリックする。**

「Sonicflow」ソフトウェアが起動し、コンソールとステージが表示されます。



コンソール
内蔵カメラに映る映像が表示されます。

ステージ
内蔵カメラに映る映像の動きにあわせて反応点（サウンドオブジェクト）が動きます。

2 **コンソールの▷をクリックするか、［Control］メニューから［Play］をクリックする。**

ステージ上のアイコンが動き出し音楽が流れます。
ステージ上のアイコンをサウンドオブジェクトと呼びます。

映像に反応させて音楽を再生するには

音楽が流れ出すと、ステージ上のサウンドオブジェクトが動き出します。内蔵カメラの前で「手を振る」などの動作をすると、サウンドオブジェクトが動き、動作にあわせてさまざまな音の組み合わせが楽しめます。

音楽のさまざまな変化を楽しむには

コンソールのパッドから音のバリエーションを選ぶことができます。
音楽の再生中にコンソールのパッドをクリックすると、さまざまな音のバリエーションが楽しめます。
パッドを使うには［Mode］メニューから［Pad］を選び、「Pad Mode」にする必要があります。

オリジナルの音楽を作曲する

内蔵カメラに映る映像の動きに合わせて再生される音楽を作曲することができます。

1 **［スタート］ボタンをクリックし、［VAIO］にポインターを合わせ、［Sonicflow］をクリックする。**
「Sonicflow」が起動し、コンソールとステージが表示されます。

2 **［Mode］メニューから［Edit］を選ぶ。**
コンソールが編集用のウィンドウになります。

次のページにつづく

3 **サウンドオブジェクトを作成する。**

「Sample」フォルダーの中にある、サウンドオブジェクトにしたいWAVEサウンドファイルを選び、ステージ上にドラッグアンドドロップします。

4 **作成したサウンドオブジェクトを配置する。**

サウンドオブジェクトはステージ上の好きなところにドラッグできます。

5 **サウンドオブジェクトの動作を設定する。**

サウンドオブジェクトを選択し、コンソールの中のメニューを用いることでサウンドオブジェクトにいろいろな設定をすることができます。

6 **作曲中の曲を視聴する。**

コンソールの▷をクリックするか、［Control］メニューから［Play］をクリックします。止めるには、コンソールの□をクリックするか、［Control］メニューから［Stop］をクリックします。

7 **手順3～6を繰り返し、曲を完成させる。**

8 **作曲した音楽を保存する。**

［File］メニューから［Save］をクリックすると、作曲した音楽を保存することができます。作曲した音楽は「.sms」という拡張子のファイルで保存されます。保存されるのは、サウンドオブジェクト、ステージの画像、サウンドパラメーターなどです。

保存した音楽は、［File］メニューから［Open］をクリックし、保存したファイル名を選ぶことで、いつでも読み出し、演奏させることができます。

音楽CD／ビデオCDを再生する

音楽CDやビデオCDを再生して楽しむことができます。音楽CDを再生して音楽を聞きながら、他のソフトウェアを操作することもできます。（一部ソフトウェアを除きます。）
本機で音楽CDなどを再生するには、別売りのCD-ROMドライブ（PCGA-CD5）が必要です。接続について詳しくは、「CD-ROMドライブをつなぐ」（104ページ）をご覧ください。

ご注意

別売りのCD-ROMドライブで音楽CDを再生しても、本機のスピーカーからは音は出ません。音楽CDを聞くには、ヘッドホンや外部スピーカーなどをCD-ROMドライブにつないでください。

Digital Media Parkで音楽CD／ビデオCDを再生する

「Digital Media Park」を使うとMIDIファイルなどの音声・動画ファイルを再生することもできます。「Digital Media Park」を使うには以下の流れに沿って行います。

画面上の［AV再生の設定］をダブルクリックする

「Digital Media Park」を設定するための画面が表示されます。

画面の指示にしたがって操作する

画面の指示にしたがって必要な項目を設定します。

再生する

設定が終了すると、画面上部に「Digital Media Park」の中の「Media Bar」操作画面が表示されます。
「Digital Media Park」の使いかたについては、「Digital Media Park」の取扱説明書をご覧ください。

いろいろなソフトウェアを使う

本機は、さまざまな用途に応じたソフトウェアを付属しています。これまで説明してきた使いかたの他にも、幅広く本機を活用していただけます。ここでは、付属のソフトウェアの中から一部をご紹介します。

❑ 画像データを管理する

「PictureGear」ソフトウェアを使います。

デジタルスチルカメラなどから読み込んだいろいろな種類の画像データをまとめて管理できます。

使いかたについて詳しくは、「PictureGear」の取扱説明書をご覧ください。

❑ 仮想世界を散歩する

「さぱり（3Dマルチユーザーチャットワールド）」ソフトウェアを使います。

インターネット上に点在する仮想世界を、現実の世界のように散歩します。また、「さぱり」の「公園」や「コースト」などのマルチユーザー対応の仮想世界ではチャット（会話）も楽しめます。使いかたについて詳しくは、「さぱり」のオンラインマニュアルをご覧ください。

❑ 地図を見る

「Navin' You」ソフトウェアを使います。

ハードディスクにプリインストールされている株式会社アルプス社製「プロアトラス」シリーズのほかに、市販されているナビ研規格（S規格/Ver.2.01/Ver.2.1）に準拠している地図ディスクを見たり、ルート探索などが行えます。お使いになる地図によっては機能の制限があります。

使いかたについて詳しくは、「Navin' You」の オンラインマニュアルをご覧ください。

このほかにも、以下のような使いかたができます。

- インターネットのホームページを見る
- 辞書を使う
- ゲームを楽しむ

別冊の「付属ソフトウェア一覧」には、本機に付属のソフトウェアをまとめてご紹介しています。そちらもあわせてご覧ください。

拡張編

第2章

この章では、本機と電話回線やプリンターなどの
周辺機器との接続のしかたなどを説明します。

内蔵モデムを電話回線につなぐ

本機には、ファックスモデムが内蔵されています。付属のテレホンコードを使って本機を電話回線につなぐと、インターネットなどのデータ通信をしたり、ファックスを送受信できるようになります。
内蔵モデム（V.90、K56flex対応）の通信速度は、データ受信時最大56kbps、データ送信時最大33.6kbpsです。電話回線の状況によって通信速度は変化することがあります。

1 お使いの電話回線のダイヤル方法を確認する。

電話機のダイヤルボタンを押すと「ピポパ」と音がし、電話機から「カチカチ」という音がしないときはトーン式ダイヤルです。ボタンではなく、ダイヤルを回す電話機、ダイヤルボタンを押すたびに電話機から「カチカチ」という音がする電話機は、パルス式ダイヤルです。

2 モデムのダイヤル方法を設定する。

①［スタート］ボタンをクリックして［設定］にポインターを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

②［コントロールパネル］の中の［モデム］をダブルクリックする。

③［ダイヤルのプロパティ］をクリックする。

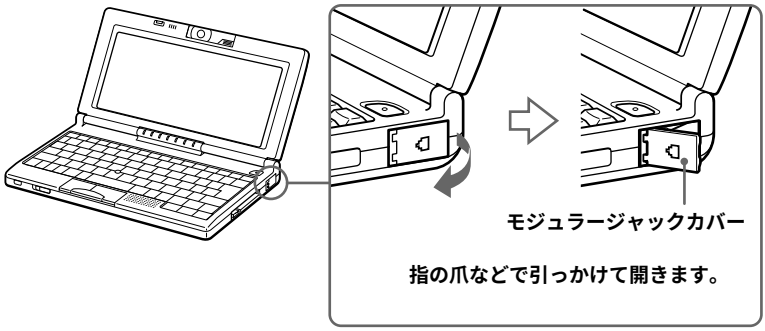
④［ダイヤル方法］からお使いの電話回線のダイヤル方法に合わせて［トーン］または［パルス］を選択する。

⑤［OK］をクリックして「ダイヤルのプロパティ」ダイアログボックスを閉じる。

⑥［OK］をクリックして「モデムのプロパティ」ダイアログボックスを閉じる。

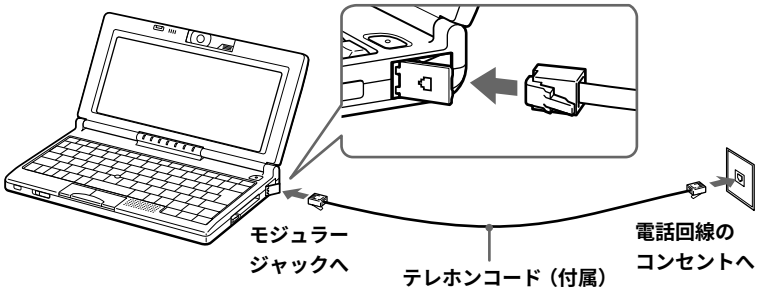
次のページにつづく

3 モジュラージャックカバーを開ける。

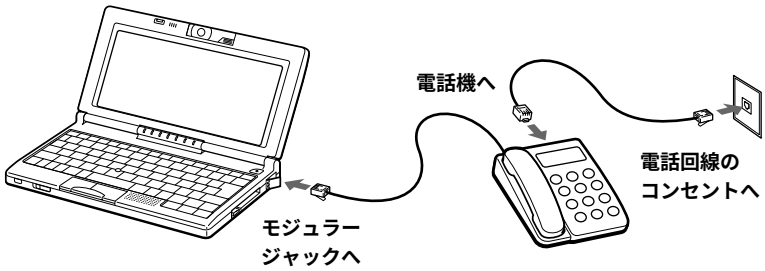


4 電話回線につなぐ。

モジュラージャックは本機の後ろ側から、モジュラープラグのつめがカチッとロックするまで斜めに差し込みます。



モジュラージャックが2つある電話機をお使いのときは、下図のようにつなぎます。



次のページにつづく

ご注意

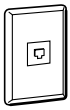
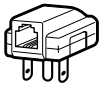
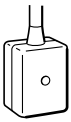
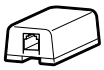
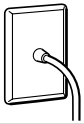
接続したあとに、使用する電話、ファックス、通信などの設定を、ソフトウェアで設定する必要があります。詳しくは、それぞれのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

電話回線についてのご注意

- 使用可能な回線は、一般電話回線です。PBX回線には接続しないでください。
- ISDN回線にデジタルで接続する場合は、PCカードのTA（ターミナルアダプター）カードまたはUSB接続のTAが必要です。
- 本機の内蔵モデムは、通信相手が応答しない場合、60秒で電話を切るように設定されています。30秒以内に電話を切るようにモデムの設定を変更することもできますが、この場合、交換機の接続遅延時間によっては接続できないことがあります。設定を変更する場合でも、30秒以上に設定するようおすすめします。
- 契約したプロバイダーがV.90またはK56flexに対応している場合、通信状態が極めて良好なときは最大56Kbpsで通信が可能です。ただし、電話回線の状態によって、通信速度は変化します。V.90、K56flexは自動的に選択されます。

電話回線のコンセントの種類

電話回線のコンセントは以下の4種類があります。ご自宅、外出先のコンセントに合った方法で接続してください。

コンセントの型	接続に必要なソニーの別売りアクセサリー
モジュラー型 	不要（そのままつなぐことができます）
3ピンジャック型 	テレホンモジュラーアダプターTL-30 
直付け型ローゼット[1)] 	モジュラーローゼットTL-32CRなど 
埋め込み型[2)] 	テレホンモジュラージャックコンセントTL-31

[1)] 直付けタイプからモジュラージャックへの交換工事が必要です。NTT（局番なしの116番）へご依頼ください。

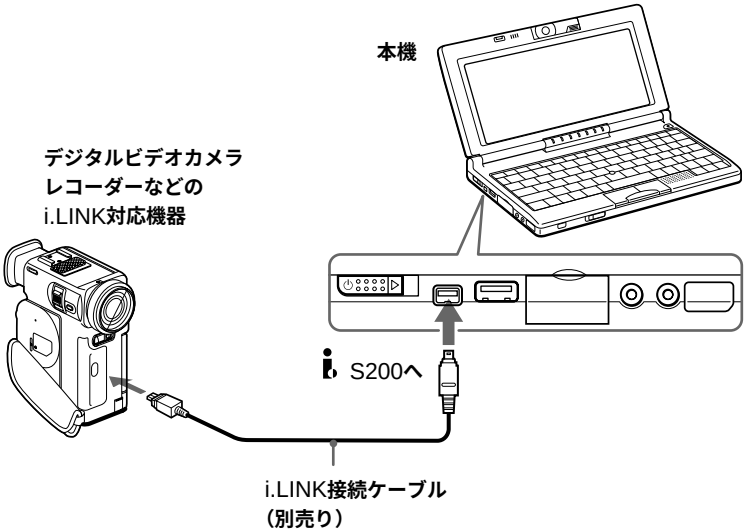
[2)] 電話工事担任者による取り付け工事が必要です。NTT（局番なしの116番）へご依頼ください。

ご注意

ビジネスホン、ホームテレホンなどの電話機やドアホン付きの電話機をお使いのときは、工事が必要となる場合があります。電話機を取り付けた業者にご相談ください。

i.LINK対応機器をつなぐ

本機左側面のi.LINK（IEEE1394）コネクターを使ってデジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器に接続し、ノートブックコンピューターに画像をデジタルのまま取り込むことができます。



i.LINK対応機器として、DV端子を備えたソニー製のデジタルビデオカメラレコーダーを接続することができます。

ご注意

- 一度に接続できるデジタルビデオカメラレコーダーは1台のみです。ソフトウェアの制限により、同時に2台のデジタルビデオカメラレコーダーを接続することはできません。
- 本機のi.LINKコネクターは、i.LINK対応機器に電源を供給しません。i.LINKコネクターからの電源供給が必要な一部の機器は、正しく使用できないことがあります。
- 本機のi.LINKコネクターは最大200Mbpsのデータ転送に対応していますが、実際の転送速度は同時に接続したi.LINK対応機器のうち最も転送速度の遅い機器に合わせられます。
- 接続のしかたや画像の取り込みかたは、接続するi.LINK対応機器や使用するソフトウェアによって異なります。詳しくは、i.LINK対応機器の取扱説明書や、本機に付属している「Smart Capture」や「DVgate still」などの各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

CD-ROMドライブをつなぐ

CD-ROMはコンピューターで扱うプログラムやデータを記録した、読みとり専用の記録メディアです。ここでは、別売りのCD-ROMドライブユニットPCGA-CD5の取り付けかたについて説明します。

ご注意

- 接続のしかたは、お使いになるCD-ROMドライブによって異なります。詳しくはCD-ROMドライブの取扱説明書をご覧ください。
- CD-ROMドライブで音楽CDを再生しても、本機のスピーカーからは音は出ません。音楽CDを聞くには、ヘッドホンや外部スピーカーなどをCD-ROMドライブにつないでください。
- CD-ROMドライブによっては本機で使用できないものもあります。詳しくは、VAIOテクニカルレスポンスセンターまたは販売店にご確認ください。

CD-ROMドライブを取り付ける

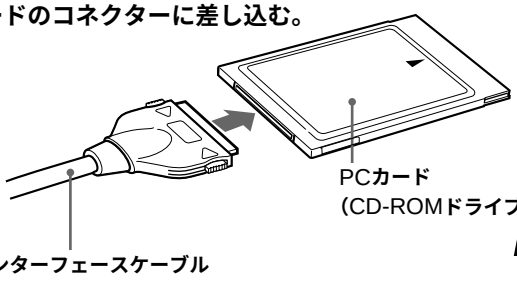
PCGA-CD5はPCカードを使って本機と接続します。

ご注意

- 工場出荷時、CD-ROMドライブのレンズ部分にピックアップカバーが装着されています。ピックアップカバーを取りはずしてからご使用ください。
- プロダクト リカバリ CD-ROMで本機を再セットアップするときは、本機の電源を切ってからCD-ROMドライブを取り付け、本機の電源を入れ直してください。それ以外のときは、本機の電源を入れたままでもCD-ROMドライブを取り付けることができます。

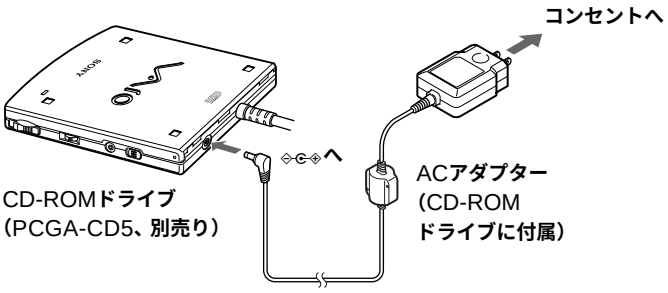
1 **PCカードスロットプロテクターを取りはずす。**
詳しくは、「PCカードを取り付ける」（115ページ）の手順1をご覧ください。

2 **CD-ROMドライブのインターフェースケーブルのプラグを、PCカードのコネクターに差し込む。**



次のページにつづく

3 CD-ROMドライブの電源をつなぎ、電源を入れる。

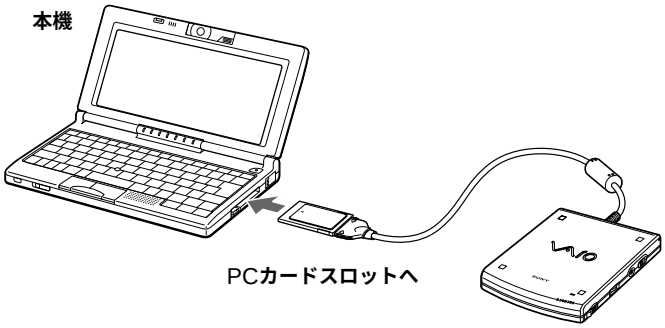


4 PCカードを本機に取り付ける。

PCカードの上下を確認してから取り付けます。スロットの奥にあるコネクターに、カードがしっかりと固定されるまで押し込みます。カードを挿入すると、イジェクトボタンが出ます。

取り付けかたについて詳しくは、「PCカードを取り付ける」の手順2（116ページ）をご覧ください。

「マイコンピュータ」内にCD-ROMドライブのアイコンが表示されます。



CD-ROMドライブを取りはずすには

「PCカードを取り出す」（117ページ）の手順に従ってPCカードを取り出します。

デジタルスチルカメラを使う

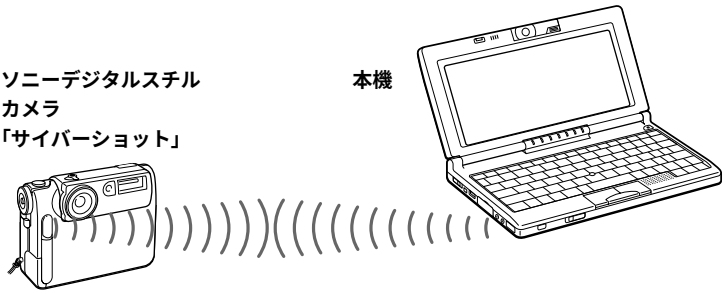
デジタルスチルカメラで撮影した画像を本機に取り込めます。ここではソニーデジタルスチルカメラと本機を赤外線で接続する方法と、他の機種をお使いのときの一般的なご注意を説明します。

ご注意

- 接続のしかたや画像の取り込みかたは、デジタルスチルカメラによって異なります。詳しくはデジタルスチルカメラの取扱説明書をご覧ください。
- 赤外線で接続するには、赤外線通信を使えるようにする必要があります。詳しくは「赤外線（IrDA）でデータをやりとりする」（87ページ）をご覧ください。

ソニーデジタルスチルカメラと赤外線で接続する

赤外線通信機能があるソニーデジタルスチルカメラでは、ケーブル接続は必要ありません。
本機左側面の赤外線通信ポートと「デジタルスチルカメラ」が向き合うように設置します。



画像を取り込む

本機に付属している「PictureGear」ソフトウェアを使って、画像を取り込みます。
操作方法について詳しくは、「PictureGear」ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

他のデジタルスチルカメラを使う

デジタルスチルカメラから撮影した画像を取り込むには、一般的に次の方法があります。お使いの機種に合った方法で、画像を取り込んでください。

- 画像を記録したフロッピーディスクを本機のフロッピーディスクドライブに入れる。ソニーデジタルスチルカメラ「デジタルマビカ」などで記録したフロッピーディスクの画像は、本機に付属の「PictureGear」ソフトウェアで取り込めます。
- PCカードに画像を記録するデジタルスチルカメラのときは、メモリーカードを本機のPCカードスロットに差し込む。
  PCカードについて詳しくは、「PCカードを使う」（114ページ）をご覧ください。

ご注意

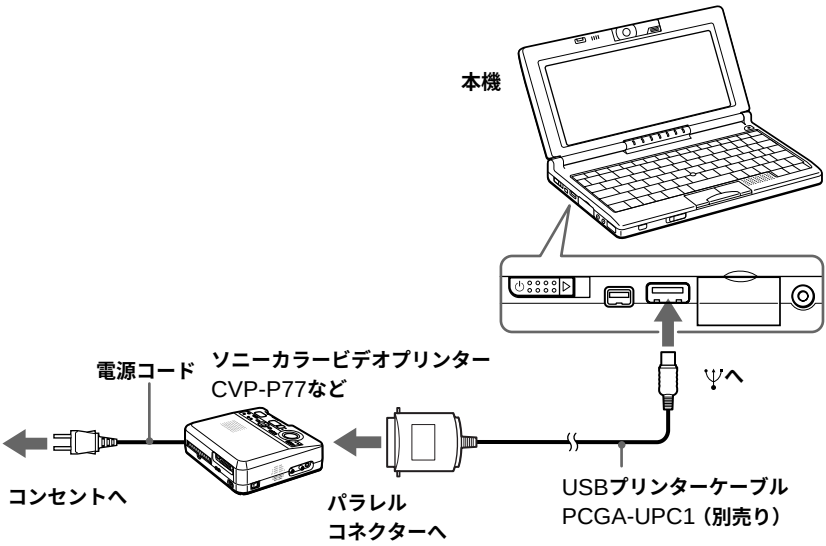
お使いの機種およびソフトウェアが本機に対応しているかどうかについては、デジタルスチルカメラおよびソフトウェアの販売元にお問い合わせください。

プリンターをつなぐ

プリンターを本機につないで、作成した書類などを印刷できます。プリンターによってつなぎかたが異なります。

パラレルコネクター付きのプリンターをつなぐ

USBプリンターケーブルPCGA-UPC1（別売り）を使ってつなぎます。



1 **プリンターの電源が切れていることを確認する。**

2 **プリンターに**USB**プリンターケーブルをつなぐ。**

3 **プリンターの電源を入れる。**

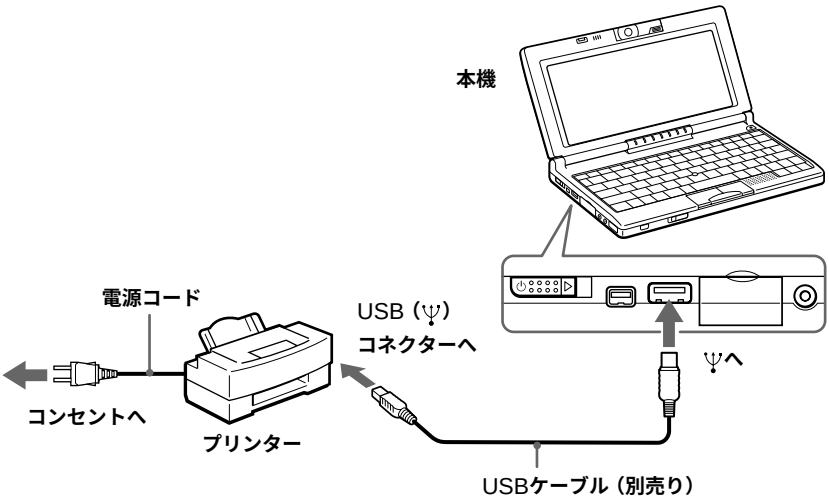
4 **本機に**USB**プリンターケーブルをつなぐ。**

ご注意

- USBプリンターケーブルPCGA-UPC1（別売り）は指定された手順で接続しないと正常に動作しないことがあります。詳しくは「PCGA-UPC1」の取扱説明書をご覧ください。
- USBプリンターケーブルPCGA-UPC1（別売り）に対応していないプリンターを本機につないでも、正常に動作しないことがあります。詳しくは、VAIOテクニカルレスポンスセンターおよび販売店にご確認ください。

USB対応のプリンターをつなぐ

別売りのUSBケーブルを使ってつなぎます。

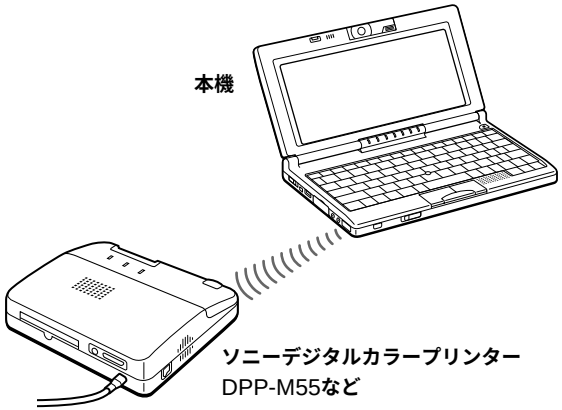


ご注意

- プリンターをご使用中であっても、「PowerPanel」ソフトウェアのタイマー機能は働きます。使用中でも、省電力のため画面が暗くなり、システム サスペンドモードやシステム ハイバネーションモードに入ります。プリンターをお使いのときは、ACプロファイルを選ぶか、プロファイルの設定を変更してください。工場出荷時の設定では、ACプロファイルを選ぶとシステム サスペンドモードやシステム ハイバネーションモードに入らないようになっています。システム サスペンドモードとシステム ハイバネーションモードについて詳しくは、「バッテリーの残量を確認する」（133ページ）をご覧ください。プロファイルの変更について詳しくは、「PowerPanel」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
- プリンターをご使用中に「PowerPanel」のタイマー機能により、液晶ディスプレイが暗くなりビデオスタンバイ状態になった場合は、キーボードまたはポインティング・デバイスを操作すると通常の動作モードに復帰します。
- プリンターの取扱説明書などでUSBコネクターの形状をご確認の上、USBケーブルをご購入ください。

赤外線通信対応のプリンターを使う

本機には赤外線通信ポートがあるので、ソニーデジタルプリンターDPP-M55など赤外線通信機能があるプリンターとケーブルで接続しないで使うことができます。
本機左側面の赤外線通信ポートとプリンターの赤外線ポートどうしが向き合うように設置します。
お使いになるプリンターの取扱説明書もあわせてご覧ください。



プリンターを使用する

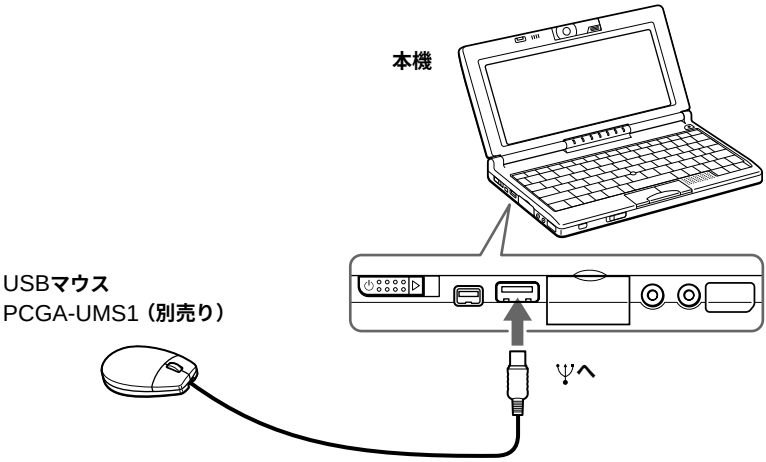
プリンターを使用するには、プリンターに付属のドライバーソフトを本機にインストールする必要があります。

ご注意

本機には、プリンターポートが存在しないため、ドライバーソフトを本機にインストールする際、プリンターに付属のインストールプログラムから正常にインストールできないことがあります。この場合は、［マイコンピュータ］から［プリンタ］の［プリンタの追加］を選んで、画面の指示にしたがってプリンターのドライバーソフトをインストールしてください。
詳しくは、お使いになるプリンター、およびプリンターを接続する形態に合わせて、USBプリンターケーブルPCGA-UPC1（別売り）の取扱説明書をご覧ください。

マウスをつなぐ

USBマウスPCGA-UMS1（別売り）を接続できます。



本機にはあらかじめPCGA-UMS1用のドライバーがインストールされていますので、つなぐだけでご使用になれます。

ご注意

- PCGA-UMS1以外のマウスはドライバーをインストールするとポインターが正常に動作しなくなるものがあります。詳しくは、マウスの販売元または販売店にご確認ください。
- USBマウスをご使用中であっても、「PowerPanel」ソフトウェアのタイマー機能は働きます。使用中でも、省電力のため画面が暗くなり、システム サスペンドモードやシステム ハイバネーションモードに入ります。USBマウスをお使いのときは、ACプロファイルを選ぶか、プロファイルの設定を変更してください。工場出荷時の設定では、ACプロファイルを選ぶとシステム サスペンドモードやシステム ハイバネーションモードに入らないようになっています。システム サスペンドモードとシステム ハイバネーションモードについて詳しくは、「バッテリーの残量を確認する」（133ページ）をご覧ください。プロファイルの変更について詳しくは、「PowerPanel」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
- USBマウスをご使用中に「PowerPanel」のタイマー機能により、液晶ディスプレイが暗くなりビデオスタンバイ状態になった場合は、キーボードまたはポインティング・デバイスを操作すると通常の動作モードに復帰します。
- シリアルマウスおよびPS/2マウスは使用できません。

外部ディスプレイをつなぐ

大きな画面で内容を確認したいときなどは、付属のVGA変換アダプターを使って、本機に外部ディスプレイを接続します。

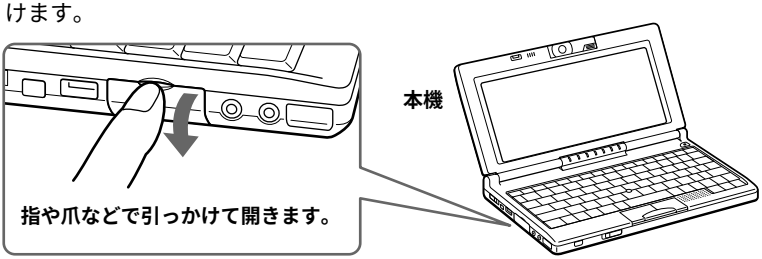
ご注意

- 本機と接続する機器の電源を切り、コンセントからACアダプターや電源コードを抜いてから接続してください。
- 電源コードは、すべての接続が終わってからつないでください。
- 電源を入れるときは、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- コンピューター用ディスプレイやプロジェクターの種類によっては、本機の液晶ディスプレイと同時表示できないものもあります。

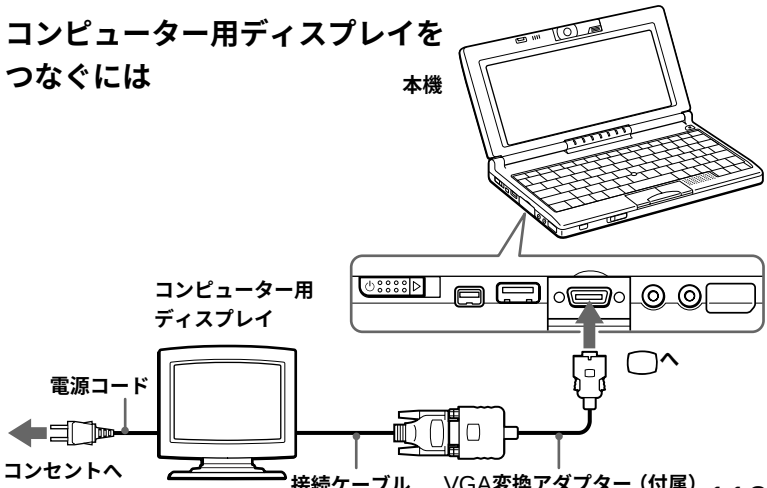
本機のディスプレイと接続した外部ディスプレイの表示を切り換えられます。
詳しくは、「表示するディスプレイを選ぶ」（137ページ）をご覧ください。

外部ディスプレイコネクターのカバーを開けるには

外部ディスプレイをつなぐ前に外部ディスプレイコネクターのカバーを開けます。



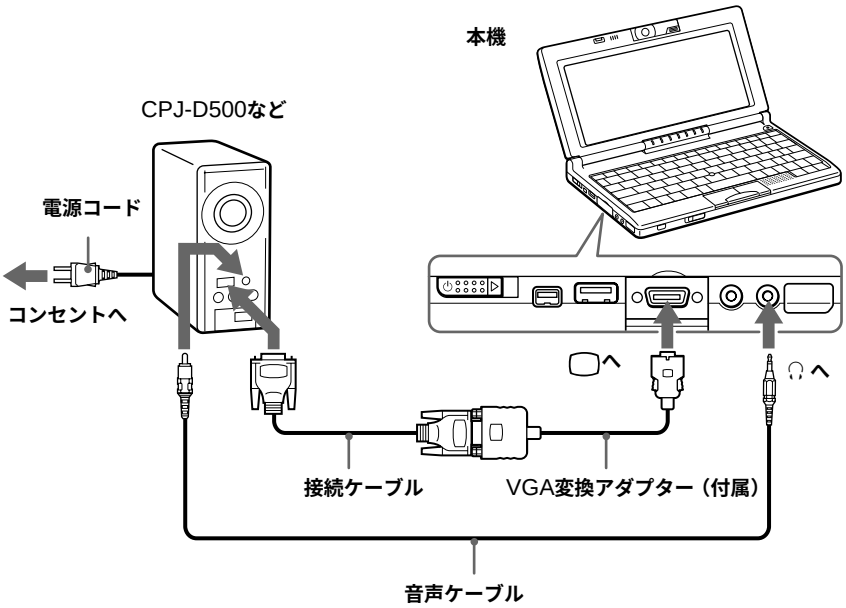
コンピューター用ディスプレイをつなぐには



液晶プロジェクターをつなぐには

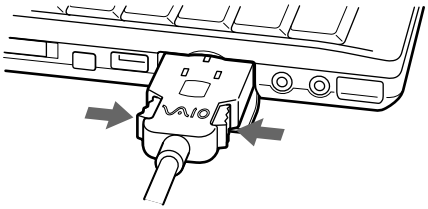
液晶プロジェクターを使うと、プレゼンテーションをするときなどに便利です。

接続のしかたは機器によって異なります。詳しくは、液晶プロジェクターの取扱説明書をご覧ください。



VGA変換アダプターを取りはずすには

本機の電源を切ってから、コネクターの両端をつまんでVGA変換アダプターをはずします。



メモリーを増設する

別売りの専用メモリーを増設すると、データの処理速度や、複数のアプリケーションソフトウェアを同時に起動したときの処理速度が向上します。

ご注意

専用メモリーの増設は、弊社の指定サービス窓口にて行ってください。
ご自分で増設されて故障が発生した場合は、保証期間中であっても有償修理となります。

PCカードを使う

本機には、PC CardタイプIとタイプIIに準拠したPCカードを挿入できるPCカードスロットがあります。また 、本機のPCカードスロットはCard BusおよびZV(Zoomed Video) Portにも対応しています。

PCカードとは

PC Card規格に準拠した、着脱可能な機能拡張デバイスです。形はクレジットカードに似ていますが、やや大きくて厚みがあります。
主なPCカードには以下のような種類があります。

メモリーカード

データをフラッシュメモリーに保存します。PCカードに対応したデジタルスチルカメラで撮影した画像であれば、PCカードを本機に取り付けてそのまま取り込めます。

SCSIカード
MOドライブやスキャナーなどのSCSIデバイスを接続できます。

ネットワークカード
イーサネットなどのネットワークに接続できます。

TA（ターミナルアダプター）カード
ISDN回線に接続できます。

ご注意

PCカードによっては本機で使用できないものや、機能が制限されるものがあります。

PCカードを取り付ける

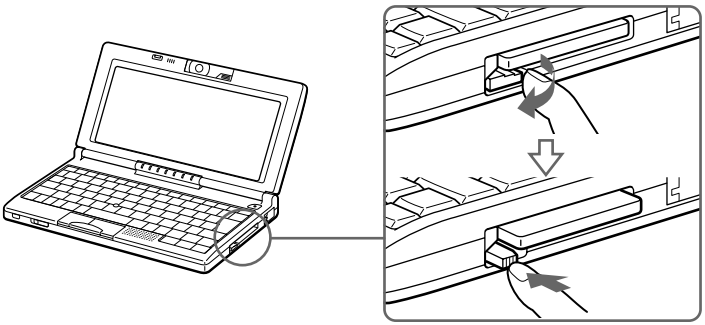
PCカードを取り付けるときに本機の電源を切る必要はありません。

1 **PCカードスロットプロテクターを取り出す。**

スロットを保護するために、PCカードスロットプロテクターが装着されています。PCカードを挿入する前に、プロテクターを取り出す必要があります。

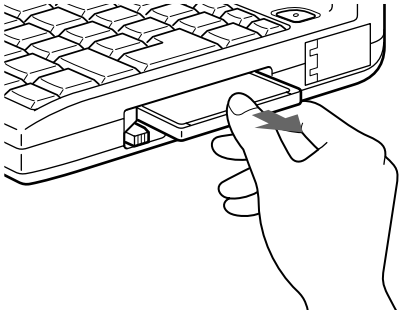
① イジェクトボタンを起こしてから、ボタンを押す。

プロテクターが出ます。



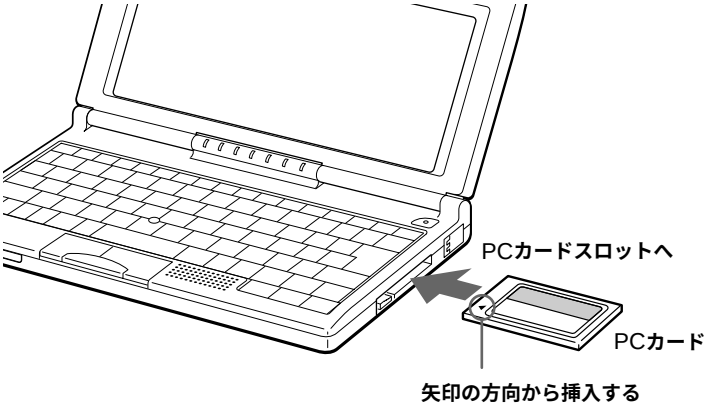
次のページにつづく

② **プロテクターの端を持って、スロットから引き抜く。**



2 カードをスロットに挿入する。

スロットの奥にあるコネクターに、カードがしっかりと固定されるまで押し込みます。カードを挿入すると、イジェクトボタンが出ます。カードがうまく入らない場合は、無理にカードを押し込まずに、カードの挿入方向を確認してからもう1度挿入し直してください。



取り付けたあとの使いかたについては、PCカードの取扱説明書をご覧ください。

PCカードを取り出す

ご注意

本機の電源が入っているときにカードを取り出す場合は、必ず以下の手順にしたがってください。誤った取り出しかたをすると、システムが正常に動作しない可能性があります。本機の電源が切れているときは手順1～4の操作は不要です。

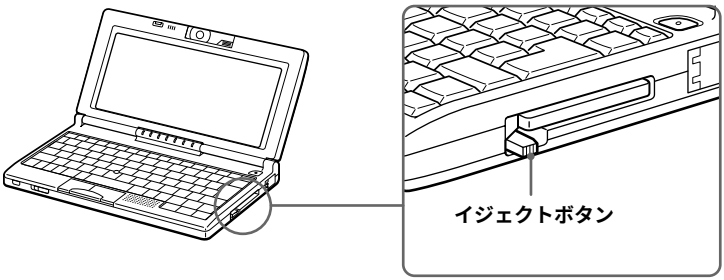
1 **［スタート］ボタンをクリックして［設定］にポインターを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**

2 **［PCカード］をダブルクリックする。**

3 **リストから取り出したいPCカードをクリックし、次に［終了］ボタンをクリックする。**

4 **「このデバイスは安全に取り外せます。」と表示されたら［OK］ボタンをクリックする。**

5 **PCカードスロットのイジェクトボタンを押す。**
カードがコネクターからはずれます。カードの端を持って、スロットから引き抜いてください。



カードを引き抜いた後は、スロットを保護するために、必ずPCカードスロットプロテクターを挿入してください。

セットアップ編

第3章

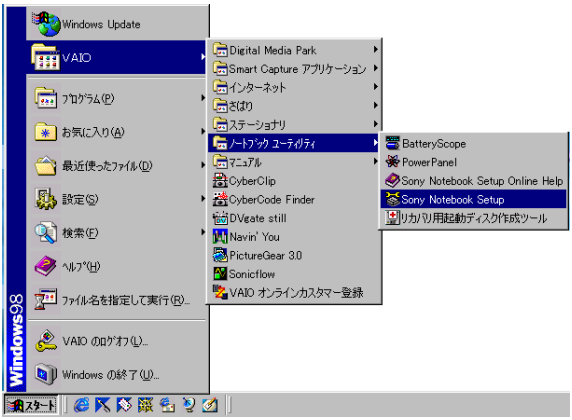
Sony Notebook SetupやPowerPanel、BatteryScopeといった付属のユーティリティソフトウェアを使ったり、Windowsの設定を変更することで、ご使用になる環境や好みに合わせた動作環境をつくれます。

本機の情報を確認する

本機の製品情報や、メモリーの容量などのシステム情報を確認することができます。

1 **［スタート］ボタンをクリックして［VAIO］にポインターを合わせ、［ノートブック ユーティリティ］から［Sony Notebook Setup］をクリックする。**

Sony Notebook Setupが起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。



次のページにつづく

2 **［システム情報］タブをクリックする。**

本機の製品情報やハードウェア情報を確認できます。

確認が終わったら

［OK］をクリックします。

起動ドライブを指定する

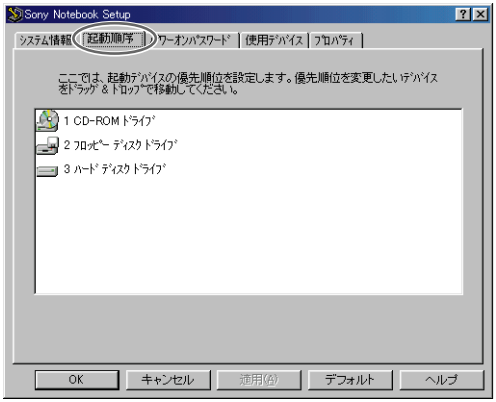
本機を起動するときの、起動ドライブを指定できます。フロッピーディスクドライブから起動したり、CD-ROMドライブから起動したいときなどに便利です。

1 **［スタート］ボタンをクリックして［VAIO］にポインターを合わせ、［ノートブック ユーティリティ］から［Sony Notebook Setup］をクリックする。**

Sony Notebook Setupが起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。

2 **［起動順序］タブをクリックする。**

「起動順序」が表示されます。



3 **順序を変更したいドライブを上下にドラッグする。**

リスト表示中の上にあるドライブから先に本機が起動します。

4 **［OK］をクリックする。**

次に電源を入れるときは、手順3で設定した順位の高いドライブから本機が起動します。

本機をCD-ROMドライブから起動するには

別売りのCD-ROMドライブPCGA-CD5が必要です。

パスワードを登録する

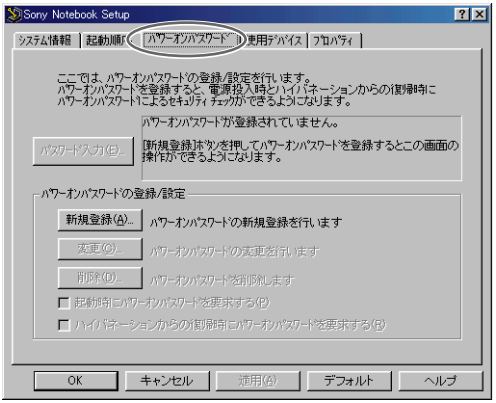
パスワードを登録して、パスワードを知っているユーザーだけが本機を使えるようにできます。大切なデータを守りたいときなどに便利です。
ここで登録したパスワードは、本機を起動してSONYのロゴマークが表示されたあとに入力します。

ご注意

パスワードを忘れると、本機を起動することができなくなります。パスワードは必ずメモを取るなどして、忘れないようにしてください。万一パスワードを忘れてしまったときは、修理（有償）が必要となります。VAIOテクニカルレスポンスセンターまでご相談ください。

1 **［スタート］ボタンをクリックして［VAIO］にポインターを合わせ、［ノートブック ユーティリティ］から［Sony Notebook Setup］をクリックする。**
Sony Notebook Setupが起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。

2 **［パワーオンパスワード］タブをクリックする。**
パスワードの設定項目が表示されます。

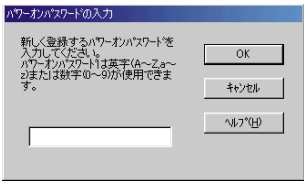


3 **［新規登録］をクリックする。**

次のページにつづく

4 **［はい］をクリックする。**

5 **登録したいパスワードを入力してから、［OK］をクリックする。**
パスワードは半角の英数字7文字以内で入力します。1文字入力するごとに、「＊」が表示されます。



6 **手順5で入力したパスワードをもう1度入力してから、［OK］をクリックする。**

7 **［OK］をクリックする。**
入力したパスワードが登録されます。

パスワードの登録をやめるときは

手順4で、［いいえ］をクリックします。

パスワードを変更する

1 **「パスワードを登録する」の手順1と2を行う。**

2 **「パスワード入力」をクリックする。**
パスワード入力画面が表示されます。変更前のパスワードを入力し、［OK］をクリックします。

3 **［変更］をクリックする。**
パスワード入力画面が表示されます。

4 **登録したいパスワードを入力してから、［OK］をクリックする。**

5 **手順4で入力したパスワードをもう1度入力してから、［OK］をクリックする。**
パスワードが変更されます。

6 **［OK］をクリックする。**

パスワードを削除する

1 **「パスワードを登録する」（122ページ）の手順1と2を行う。**

2 **「パスワード入力」をクリックする。**
パスワード入力画面が表示されます。登録してあるパスワードを入力し、［OK］をクリックします。

3 **［削除］をクリックする。**
確認画面が表示されます。

4 **［はい］をクリックする。**
パスワードが削除されます。
削除をやめるときは、［いいえ］をクリックします。

5 **［OK］をクリックする。**

デバイスを一時的に使用できないように設定する

別売りのハードウェアやソフトウェアを使用するときに、IRQ、DMAといったハードウェアリソースが足りなくなることがあります。この場合、本機の使用していないデバイスを使用できないように設定することで、使えるハードウェアリソースの割り当てを、一時的に変更できます。

1 **［スタート］ボタンをクリックして［VAIO］にポインターを合わせ、［ノートブック ユーティリティ］から［Sony Notebook Setup］をクリックする。**
Sony Notebook Setupが起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。

次のページにつづく

2 **［使用デバイス］タブをクリックする。**
使用デバイスの設定項目が表示されます。

3 **使用していないデバイスのチェックボックスをクリックし、チェックをはずす。**

4 **［OK］をクリックする。**
設定を有効にするために本機を再起動する必要がある場合もあります。表示されるメッセージに従って再起動してください。

使用するデバイスごとに詳細な設定をする

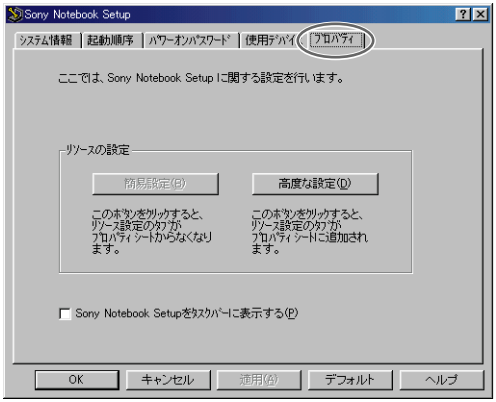
Sony Notebook Setup の［簡易設定］と［高度な設定］を切り換えることで、使用するデバイスごとにIRQやDMAといったリソースを割りあてられます。

1 **［スタート］ボタンをクリックして［VAIO］にポインターを合わせ、［ノートブック ユーティリティ］から［Sony Notebook Setup］をクリックする。**
Sony Notebook Setupが起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。

次のページにつづく

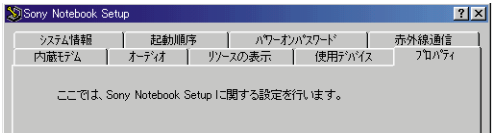
2 **［プロパティ］タブをクリックする。**

「プロパティ」が表示されます。



3 **［高度な設定］をクリックする。**

「内蔵モデム」、「オーディオ」、「リソースの表示」、「赤外線通信」タブが新たに表示されます。



4 **リソースを設定する。**

設定したいデバイスのタブをクリックして、設定画面を表示させ、リソースの一覧から任意の値を選んでクリックします。

5 **すべての設定が終わったら、［OK］をクリックする。**

設定を有効にするために本機を再起動する必要があります。表示されるメッセージに従って再起動してください。

工場出荷時の設定に戻すには

Sony Notebook Setup の［デフォルト］をクリックします。

なお、［デフォルト］をクリックしても、以下の設定は戻りません。

- 登録したパスワード
- 「起動順序」の設定
- 「使用デバイス」の設定

バッテリーの消費電力を節約する

バッテリーで本機を使用しているときは、本機の動作速度を下げたり、ハードディスクや液晶ディスプレイを自動的に停止させたりしてバッテリーの消耗を遅らせることができます（パワーマネージメント機能）。
詳しくは「省電力動作モードについて」（131ページ）をご覧ください。

PowerPanelを起動する

本機に付属している「PowerPanel」ソフトウェアを使うことで、使用状況に合わせた電力の節約をできるようになります。
画面右下の をダブルクリックすると、画面右側にPowerPanelとBatteryScopeのアプリケーションバーが表示されます。

ポインターをボタンに合わせると、情報ボックスが表示されてボタンの機能を確認できます。

画面右下に が表示されていないときは

［スタート］ボタンをクリックして［VAIO］にポインターを合わせ、［ノートブックユーティリティ］を選び、［PowerPanel］をクリックします。
「PowerPanel」が起動し、画面右下にPowerPanelのアイコンが表示されます。

使用環境にあったプロファイルを選ぶ

本機の動作モードを設定する（プロファイルボタン）

設定したいボタンをクリックすると、クリックしたボタンのパワーマネージメント機能が実行されます。
コマンドボタンが表示されているときは、アプリケーションバーを右クリックして、ショートカットメニューから［プロファイル］を選びます。

AC

ACアダプターをつないで使用するとき、ここで設定した状態になります。ACアダプターをはずすと、バッテリーで使用していたときに選んでいた状態に戻ります。

ノーマル

消費電力を節約しつつ、できるだけ通常の動作状態を保つよう、自動的に調節します。
工場出荷時の設定では、バッテリー動作時には自動的に「ノーマル」が選択されます。

スタミナ

バッテリーを最大限に長時間使用できるように動作状態を自動的に調節します。

カメラ

内蔵カメラを使用するのに適した動作状態を保つように自動的に調節します。

- バッテリー動作時にいずれかのプロファイルボタンをクリックすると、そのプロファイルのパワーマネージメント機能が有効になり、以後バッテリー動作時には自動的にそのプロファイルが選択されます。
- プロファイルの設定により、LCD/VideoスタンバイタイマーによってLCD/Videoスタンバイになると同時に内蔵カメラの電源も切れます。

特定のデバイスの電力供給をコントロールする（コマンドボタン）

設定したいボタンをクリックすると、クリックしたボタンのパワーマネージメント機能が実行されます。
プロファイルボタンが表示されているときは、アプリケーションバーを右クリックして、ショートカットメニューから［コマンド］を選びます。

システム サスペンド

現在の本機の状態をメインメモリーに記憶させ、CPUの電源を切ります。システムをもとの状態に戻すには、いずれかのキーを押します。
翌日まで作業を中断するときなどに便利です。

システム ハイバネーション

現在のシステムの状態をハードディスクに書き込んでから、自動的に本機の電源を切ります。本機の電源を入れると、システム ハイバネーション前の状態に戻ります。
25ページの「電源を切るには」の手順を行って本機の電源を切る代わりにこの機能を使うと、次回電源を入れたときに短時間でもとの作業状態に復帰できます。2〜3日本機を使わないときなどに便利です。

LCD/Video **スタンバイ**

本機の画面が暗くなり、ビデオスタンバイ状態になります。この時、内蔵カメラの電源も切れます。いずれかのキーまたはCAPTUREボタンを押すともとの状態に戻ります。

ハードディスク スリープ

ハードディスクモーターの回転を止め、スタンバイ状態になります。ハードディスクへのアクセスがあるともとの状態に戻ります。

スピードコントローラー

CPUスピードを変更するダイアログボックスが表示され、CPUの動作モードを変更できます。

PC**カード**

PCカードウィンドウが表示されます。

プロファイルのパワーマネージメント設定を変更する

使用環境にあわせて、プロファイルボタンのCPUスピードや、システムサスペンドタイマーなどのパワーマネージメント設定を変更することもできます。
以下の手順に従って設定を変更してください。

1 画面右下の をクリックする。
PowerPanelのアプリケーションバーが表示されます。
画面右下に が表示されていないときは、「スタート」メニューの［VAIO］にポインターを合わせ［ノートブックユーティリティ］を選び、［PowerPanel］をクリックします。

2 設定を変更したいプロファイルボタンを右クリックし、［開く］をクリックする。
Profile Managerが起動します。

3 変更したい項目をダブルクリックする。
設定値のリストが表示されます。
現在有効な設定値がチェックされています。

4 好みの設定値をクリックする。

5 「ファイル」メニューをクリックし、［保存］クリックする。

6 「ファイル」メニューをクリックし、［終了］をクリックする。
Profile Managerが終了し、手順4で選んだ設定値が有効になります。

好みのプロファイルを追加する

工場出荷時の設定で表示されているボタンの他にも、本機にはあらかじめさまざまな設定が用意されています。これらをプロファイルボタンとして追加したり、新しくプロファイルを作成して追加することもできます。
詳しくは「PowerPanel」のヘルプをご覧ください。

省電力動作モードについて

本機はバッテリーでの使用可能時間を延ばすため、いくつかの省電力動作モードを持っています。モードごとに特長がありますので、使用状況に合わせて使い分けてください。

本機の動作モードについて

❑ **通常モード（パワーランプ点灯（グリーン））**

通常の動作モードですが、液晶ディスプレイやモデムなど、特定のデバイスの電源だけを切って、消費電力を節約することもできます。
バッテリーの残量がわずかになると、自動的にシステム ハイバネーションモードになります（工場出荷時の設定）。

❑ **システム サスペンドモード（パワーランプ点滅（アンバー））**

現在作業中の状態を保持したまま、CPUの電源を切ります。翌日に作業を再開するときなどに便利です。システム サスペンドモードでバッテリーの残量がわずかになると、自動的にシステム ハイバネーションモードになります（工場出荷時の設定）。

- **システム サスペンドモードにするには**

  Fnキーを押しながらEscキーを押します。または、パワースイッチを▷の方向に一瞬ずらしたり、「PowerPanel」で設定することもできます（129ページ）。

- **通常モードに戻すには**

  本体のキーボードのいずれかのキーを押します。

❑ システム ハイバネーションモード（パワーランプ消灯）

現在作業中の状態をハードディスクに保存して、本機の電源を切ります。2〜3日使わないようなときに便利です。

なお、システム ハイバネーションモードからはタイマー起動できませんのでご注意ください。

- **システム ハイバネーションモードにするには**

  Fnキーを押しながらF12キーを押します。または、「PowerPanel」ソフトウェアを使って設定します（129ページ）。

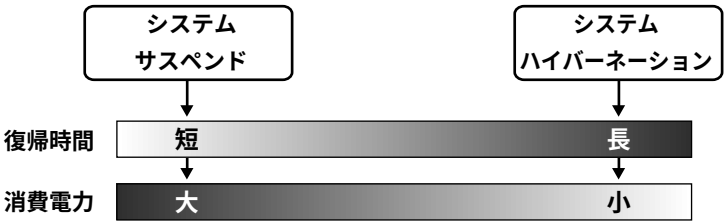
- **通常モードに戻すには**

  パワースイッチで本機の電源を入れ直します。電源を入れると、前回の作業中の状態に戻ります。

ご注意

- 本機は、バッテリーの残量がわずかになると、自動的にシステム ハイバネーションモードになるよう工場出荷時に設定されていますが、ご使用中のソフトウェアや接続している周辺機器によっては、Windowsからの指示で作業を一時中断することができないため、この機能が正しく働かないことがあります。
  長時間席を外されるときなどに、バッテリーが消耗した際、自動的にシステム ハイバネーションモードにならないと、本機の電源が切れ、作業中のデータが失われてしまうおそれがあります。
  バッテリーでご使用のときは、こまめにデータを保存したり、手動でシステム サスペンドモード、またはシステム ハイバネーションモードにしてください。
- システム ハイバネーションモードから通常モードに戻すときに、パワースイッチを4秒以上▷の方向にずらしたままにすると、ハードディスクに保存していたシステム ハイバネーションモードになる前の作業状態がすべて消去されて通常と同じように起動します。

復帰時間と消費電力について



BatteryScopeを起動する

本機に付属している「BatteryScope」ソフトウェアを使うことで、本機に取り付けたバッテリーの状態を、パーセント表示または時間表示で確認できます。

画面右下の をダブルクリックすると、画面右側にBatteryScopeとPowerPanelのアプリケーションバーが表示されます。

❑ パーセント表示

バッテリーの残容量がパーセントで表示されます。

❑ 時間表示

バッテリーの放電予測時間が「分単位」で表示されます。

BatteryScopeが起動されていないときは

［スタート］ボタンをクリックして［VAIO］にポインターを合わせ、［ノートブックユーティリティ］を選び、［BatteryScope］をクリックします。「BatteryScope」が起動し、画面右下にBatteryScopeのアイコンが表示されます。

バッテリーアイコンの見かた

BatteryScopeのアプリケーションバーに表示されるバッテリーアイコンの種類と、バッテリーの状態は以下の通りです。

バッテリーアイコン	バッテリーの状態
	放電中
	充電中
	バッテリー未装着

使用環境に合わせてアプリケーションバーの表示を変更したり、「BatteryScope」ソフトウェアの初期設定で用意されている警告表示や警告音を変更したりすることができます。
詳しくは、「BatteryScope」のヘルプをご覧ください。

バッテリー残量の見かた

画面右下の をダブルクリックするか、またはアプリケーションバーのアイコンなどの表示をクリックすると、「BatteryScope」が表示され、バッテリーの放電予測時間や完全に充電されるまでの予測時間など、バッテリーについてより詳しい情報を見ることができます。

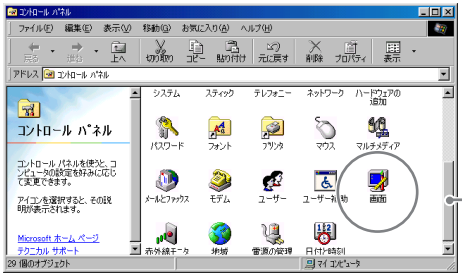
ディスプレイの設定を変更する

本機の解像度は、標準では1024×480ドットに設定されています。ディスプレイの解像度と色数の設定の変更をするには、以下の手順に従ってください。

Windows 98のヘルプもあわせてご覧ください。

1 **［スタート］ボタンをクリックして［設定］にポインターを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**

「コントロールパネル」が表示されます。



「画面」が表示されるまで、スクロールさせる。

2 **［画面］をダブルクリックする。**

「画面のプロパティ」が表示されます。

次のページにつづく

3 ［設定］タブをクリックする。

4 「色」リストで色数を、「画面の領域」のスライダーで解像度をそれぞれ設定する。

5 ［OK］をクリックする。
設定が更新されます。

ご注意

設定によっては本機を再起動する必要があるものもあります。画面に表示される指示に従ってください。

色数について

- 手順4の「カラーパレット」の設定と実際に表示される色数は以下の通りです。
  High Color（16ビット）→ 65,536色
  True Color（24ビット）→ 約1,677万色（液晶ディスプレイ上はディザリング機能により実現）
- True Color（24ビット）に設定すると、画面の描画速度が少し遅くなります。

ご注意

標準ディスプレイの解像度のまま外部ディスプレイに表示すると、縦長に見えることがあります。必要に応じて解像度を変更するか、デュアルディスプレイをお使いください。詳しくは、「デュアルディスプレイを使う」（140ページ）をご覧ください。

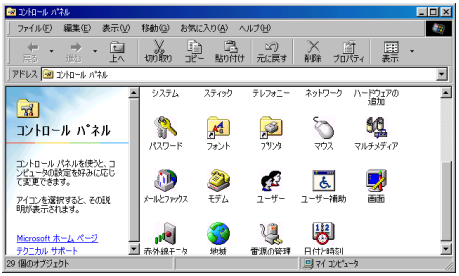
上の手順3の後で［詳細］をクリックすると、「NeoMagic MagicMedia 256AVのプロパティ」が表示されます。ここで［全般］タブをクリックし、「タスクバーに設定インジケータを表示する」をチェックすると、ディスプレイ画面右下のタスクバーに が表示されます。このアイコンをクリックすると、「画面のプロパティ」を表示させなくても、簡単に解像度や色数を変えることができます。

表示するディスプレイを選ぶ

本機はNeoMagicビデオコントローラーを使用しています。本機の外部ディスプレイコネクターに外部ディスプレイなどをつないでいる場合には、どのディスプレイに表示するか設定できます。

1 **［スタート］ボタンをクリックして［設定］にポインターを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**

「コントロールパネル」が表示されます。



2 **［画面］をダブルクリックする。**

「画面のプロパティ」が表示されます。

次のページにつづく

3 **［設定］タブをクリックする。**

4 **［詳細］をクリックする。**

「NeoMagic MagicMedia 256AVのプロパティ」が表示されます。

5 **［NeoMagic］タブをクリックする。**

NeoMagicの設定項目が表示されます。

6 **「外付けディスプレイ」の「CRT/プロジェクタ」のチェックボックスをクリックする。**

設定	表示される機器
CRT／プロジェクタ	本機の外部ディスプレイコネクターにつないだコンピューター用の外部ディスプレイ、およびプロジェクター
TV	本機では使用しません。

- 「外付けディスプレイ」の［CRT/プロジェクタ］をチェックしたときは、「内蔵ディスプレイ」の「LCDパネル」のチェックをはずせば、本機の液晶ディスプレイの表示を消すことができます。
- 「外付けディスプレイ」の［CRT/プロジェクタ］をチェックして「内蔵ディスプレイ」の「LCDパネル」のチェックをはずしたときは、リフレッシュ率スライダーを動かしてディスプレイの水平周波数を設定することはできますが、解像度スライダーは動きません。

7 **［OK］をクリックする。**

「画面のプロパティ」に戻ります。

8 **［OK］をクリックする。**

選んだディスプレイが有効になります。

次のページにつづく

Fnキーとファンクションキーを組み合わせて押しても、表示するディスプレイを切り換えられます。

詳しくは、「Fnキーとの主な組み合わせと機能」（167ページ）をご覧ください。

ご注意

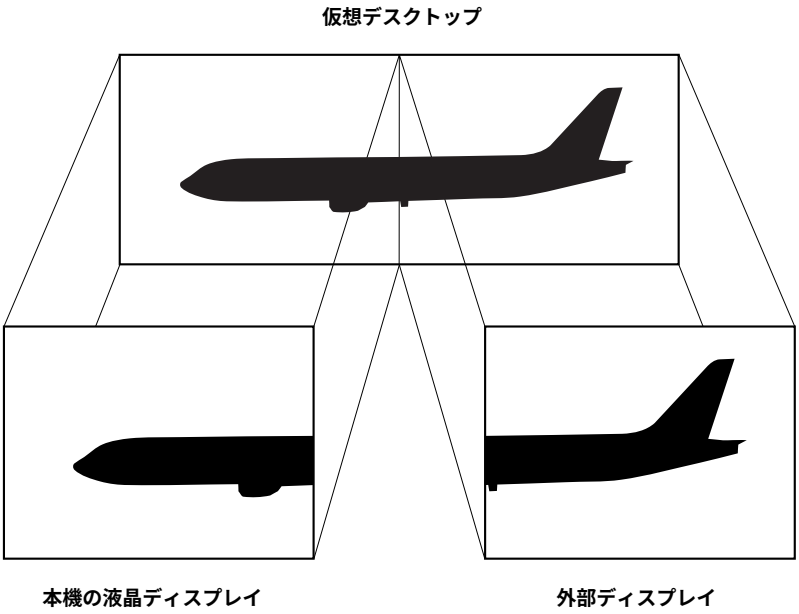
- 外部ディスプレイが外部ディスプレイコネクターに接続されていないときは、「CRT/プロジェクタ」は選択できません。
- コンピューター用ディスプレイやプロジェクターの種類によっては、本機の液晶ディスプレイと同時表示できないものもあります。

デュアルディスプレイを使う

デュアルディスプレイとは

デュアルディスプレイとは、複数のディスプレイを使って、ひとつの大きな仮想デスクトップを実現する機能です。

仮想デスクトップの例



画面が広く使えるだけでなく、片方の画面にアプリケーション本体を置き、もう片方の画面にツールパレットやアイコンバーを置くなど、工夫次第で画面を効率よく使うことができます。

デュアルディスプレイを設定する

本機では、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの組み合わせでデュアルディスプレイを利用できます。

1 **［スタート］ボタンをクリックして［設定］にポインターを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**
「コントロールパネル」が表示されます。

2 **［画面］をダブルクリックする。**
「画面のプロパティ」が表示されます。

3 **［設定］タブをクリックする。**

4 **［詳細］をクリックする。**
「NeoMagic MagicMedia 256AVのプロパティ」が表示されます。

5 **［NeoMagic］タブをクリックする。**

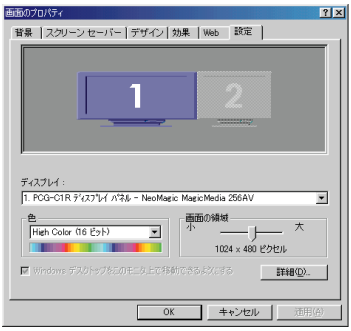
6 **［デュアルディスプレイ設定］をチェックし、［OK］をクリックする。**

7 **［はい］をクリックする。**
Windowsが再起動します。

8 **手順1～3の操作で「画面のプロパティ」を表示する。**

次のページにつづく

9 **数字の2が書かれているモニターの絵をクリックする。**



10 **[はい] をクリックする。**

11 **[OK] をクリックする。**

デュアルディスプレイが有効になります。

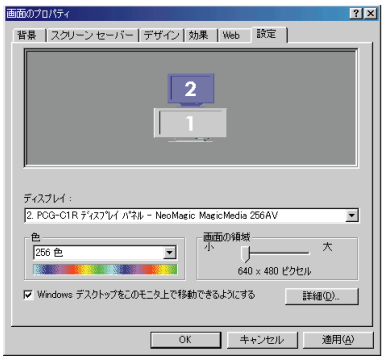
画面の色と解像度を変更する

仮想デスクトップを構成する各ディスプレイごとに、画面の色数と解像度を設定できます。

前ページの手順1～3を行い「画面のプロパティ」を表示し、変更したいディスプレイをクリックし、「色」リストで色数を、「画面の領域」スライダーで解像度を設定します。

仮想デスクトップのつながりを変更する

仮想デスクトップのつなぎかたを変更できます。「画面のプロパティ」で、数字の2が書かれているモニターの絵をドラッグし、数字の1が書かれているモニターと接するように移動させます。仮想デスクトップが、表示されている画面の形に変わります。



デュアルディスプレイを解除する

「デュアルディスプレイを設定する」（141ページ）と同様の操作を行い、手順6で［デュアルディスプレイ設定］のチェックをはずし、Windowsを再起動します。

ご注意

設定によっては本機を再起動する必要があるものもあります。画面に表示される指示に従ってください。

アクティブデスクトップをWindows 98のデスクトップ画面からはずす

本機の初期設定では、「アクティブデスクトップ」が標準のデスクトップ画面になっています。
このアクティブデスクトップ画面を、Windows 98のデスクトップ画面に表示しないように変更することもできます。

1 **［スタート］ボタンをクリックして［設定］にポインターを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**
「コントロールパネル」が表示されます。

2 **［画面］をダブルクリックする。**
「画面のプロパティ」が表示されます。

3 **［Web］タブをクリックする。**

4 **［Active DesktopをWebページとして表示］をクリックして、チェックをはずす。**

**ここをクリックして
チェックをはずします。**

5 **［OK］をクリックする。**
Windows 98のデスクトップ画面からアクティブウィンドウがはずれます。

スティックの設定を変更する

スティックの感度などの設定を好みに合わせて変えることで、スティックをより便利に使えます。次の機能を使って、ほとんど手やポインターの位置を動かさずに片手だけで本機を快適に操作できます。

- プレスセレクト機能
- スクロール／虫メガネ機能

プレスセレクト機能を使う

左ボタンをクリックする操作をスティックを軽くたたく動作で代用できます。右ボタンをクリックする操作の代用にすることもできます。
また、スティックを押さえながら動かして希望の位置で離すとドラッグすることができます。

プレスセレクト機能を使うには

1 ［スタート］ボタンをクリックして［設定］にポインターを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。
「コントロールパネル」が表示されます。

2 ［スティック］をダブルクリックする。
「スティックのプロパティ」が表示されます。

3 ［プレスセレクト機能］タブをクリックする。

次のページにつづく

4 **［プレスセレクト機能を使用可能にする］のチェックボックスをクリックし、チェックする。**

5 **［OK］をクリックする。**
変更した設定が有効になります。

スティックの感度を調節する

ここでは、スティックとプレスセレクト機能の感度を同時に調節します。感度を低くすると、強く押さなければプレスセレクト機能が効かなくなります。同時にポインターの動きも鈍くなります。感度を高くすると、軽く押すだけでプレスセレクト機能が効くようになります。同時にポインターの動きも速くなります。

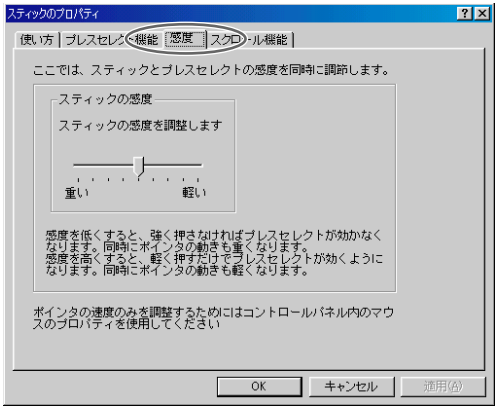
1 **［スタート］ボタンをクリックして［設定］にポインターを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**

「コントロールパネル」が表示されます。

2 **［スティック］をダブルクリックする。**

「スティックのプロパティ」が表示されます。

3 **［感度］タブをクリックする。**



4 **スティックの感度を調節する。**

5 **［OK］をクリックする。**

変更した設定が有効になります。

スクロール／虫メガネ機能を使う

センターボタンを押したときに働く機能を選択します。

- **スクロール機能**
  センターボタンを押しながらスティックを動かすとスクロールバーに触らずに、スクロールバーを動かすことができます。ホームページの下の方を見たいときや、長い文章を読んでいるときなどにこの機能を使うと便利です。
- **虫メガネ機能**
  虫メガネ機能を使うと、画面に四角い虫メガネが現れます。
  虫メガネの写す場所を移動するには：
  センターボタンを押しながらスティックを動かします。
  虫メガネの倍率を変えるには：
  センターボタンを押しながらクリックします。
  虫メガネのサイズを変えるには：
  センターボタンを押しながら右クリックします。

ご注意

工場出荷時にはスクロール機能に設定されています。

1 ［スタート］ボタンをクリックして［設定］にポインターを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

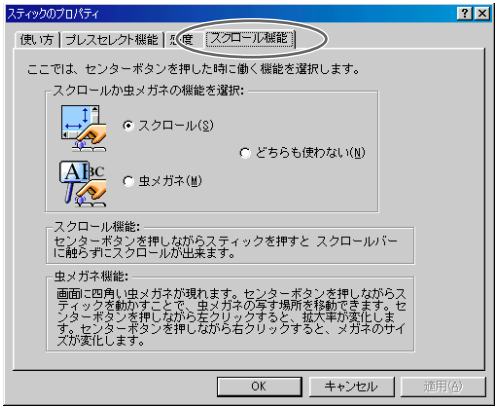
「コントロールパネル」が表示されます。

2 ［スティック］をダブルクリックする。

「スティックのプロパティ」が表示されます。

次のページにつづく

3 **［スクロール機能］タブをクリックする。**



4 **［スクロール］または［虫メガネ］のチェックボックスをクリックし、チェックする。**

どちらも使わないときは、［どちらも使わない］をチェックします。

5 **［OK］をクリックする。**

変更した設定が有効になります。

その他

第4章

使用上のご注意

本機の取り扱いについて

- 本体に手やひじをつくなどして力を加えないでください。本機の液晶ディスプレイはガラスでできています。力を加えると、ガラスが割れてしまいます。
- 衝撃を加えたり、落としたりしないでください。記録したデータが消失したり、本機の故障の原因となります。
- 炎天下や窓をしめきった自動車内など、異常な高温になる場所には置かないでください。本機が変形し、故障の原因となることがあります。
- クリップなどの金属物を本機の中に入れないでください。
- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- 内蔵カメラのレンズに触らないでください。
- 電源の入／切にかかわらず、カメラを太陽に向けないでください。カメラの故障の原因となります。

結露について

結露とは本機を寒い場所から急に暖かい場所に持ち込んだときなどに、本機の表面や内部に水滴がつくことで、そのままご使用になると故障の原因となります。
結露が起きたときは、電源を入れずに約1時間放置してください。

液晶ディスプレイについて

- 液晶ディスプレイの表面を濡れたもので拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- 液晶ディスプレイに物をのせたり、落としたりしないでください。また、手やひじをついて体重をかけないでください。
- 本機を戸外など寒冷な場所から室内へ持ち込むと、液晶ディスプレイに結露が生じることがあります。結露が生じたら、水滴をよく拭き取ってからご使用ください。水滴を拭き取るときは、ティッシュペーパーをお使いになることをおすすめします。液晶面が冷えているときは、水滴を拭き取っても、また結露が生じてしまいます。液晶面が室温に暖まるまでお待ちください。
- 液晶ディスプレイは非常に精密度の高い技術でつくられていますが、黒い点が現れたり、赤と青、緑の点が消えないことがあります。故障ではありません。

ハードディスクの取り扱いについて

ハードディスクは、フロッピーディスクに比べて記憶密度が高く、データの書き込みや読み出しに要する時間も短いという特長があります。その一方、衝撃や振動、ほこりに弱い装置でもあります。また、フロッピーディスク同様に磁気を帯びた物に近い場所での使用は避けなければなりません。

ハードディスクには衝撃や振動、ほこりからデータを守るための安全機構が組み込まれていますが、記憶したデータを失ってしまうことのないよう、次の点に特にご注意ください。

- 衝撃を与えないでください。
- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- 電源を入れたまま、本機を動かさないでください。
- データの書き込み中や読み込み中は、電源を切ったり再起動したりしないでください。
- 急激な温度変化（毎時10℃以上の変化）のある場所では使用しないでください。

何らかの原因でハードディスクが故障した場合、データの修復はできませんのでご注意ください。

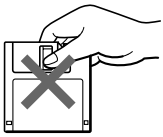
バックアップをとる

ハードディスクは非常に多くのデータを保存することができますが、その反面、ひとたび事故で故障すると多量のデータが失われ、取り返しのつかないことになります。万一のためにも、ハードディスクの内容は定期的にバックアップをとることをおすすめします。アプリケーションプログラムはオリジナルがCD-ROMやフロッピーディスクにありますので、バックアップが必要なのはデータなどです。ハードディスクのバックアップ、バックアップの内容の戻しかたについて詳しくは、Windows 98のヘルプをお読みください。

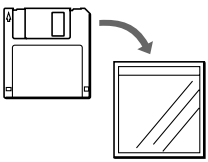
フロッピーディスクの取り扱いについて

フロッピーディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものに近づけないでください。フロッピーディスクに記録されているデータが消えてしまうことがあります。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しないでください。フロッピーディスクが変形し、使用できなくなります。
- 手でシャッターを開けてディスクの表面に触れないでください。フロッピーディスクの表面の汚れや傷により、データの読み書きができなくなることがあります。



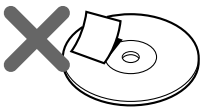
- フロッピーディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、フロッピーディスクはフロッピーディスクドライブから取り出して、必ずケースなどに入れて保管してください。



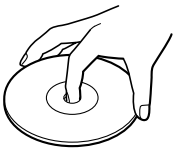
CD-ROMの取り扱いについて

CD-ROMに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- 紙などを貼ったり、傷つけたりしないでください。



- 文字の書かれていない面（再生面）に触れないようにして持ちます。



- ほこりやちりの多いところ、直射日光の当たるところ、暖房器具の近く、湿気の多いところには保管しないでください。
- CD-ROMに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、CD-ROMは必ずケースなどに入れて保管してください。

ACアダプターについて

- 本機には、付属のACアダプター（極性統一形プラグ・EIAJ規格）をご使用ください。上記以外のACアダプターを使用すると、故障の原因になることがあります。

極性統一形プラグ

- ACアダプターを海外旅行者用の電子式変圧器などに接続しないでください。発熱や故障の原因となります。

コンピューターウイルスについて

コンピューターウイルスとは、コンピューターの中のファイルやプログラムに悪影響を与えるプログラムのことです。ほとんどがいたずら半分で作成されたものですが、下記の「コンピューターウイルスに侵入されると…」に見られるような被害が起きてしまいます。
コンピューターウイルスは他のプログラムと異なり、それ自体が増殖し、データのコピーなどを通じて他のコンピューターにも悪影響を及ぼしていきます。

コンピューターウイルスに侵入されると…

- 意味不明なメッセージや、ウイルスが侵入したことを知らせるメッセージが画面上に表示される。
- ファイルがかってに消去される。
- ハードディスク上の情報が意味のないものに書き換えられる。
- 画面上に意味のないものが表示される。
- ハードディスク上の空き容量が急に小さくなる。

コンピューターウイルスを侵入させないために

- 見知らぬ人から送られてきた、またはネットワーク経由で入手した文書やプログラムなどのデータは必ずウイルスチェックをする。
- 本機にはコンピュータウイルス検査・ウイルス除去用ソフトウェアとして、「VirusScan」ソフトウェアが付属しています。
  使いかたについて詳しくは、「VirusScan」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
  また、ウイルスに関するデータファイルを常に更新することをお勧めします。
  インターネット上で、下記のURLから最新のデータファイルを入手できます。
  http://www.nai.com/japan/
- コンピューターウイルスはフロッピーディスクなどを介して広がることがありますので、他人のフロッピーディスクなどを使うときはご注意ください。フロッピーディスクなどのデータを共有する場合は、共有する人を限定してください。

ウイルスが侵入して被害を受けてしまったときに備えて、日頃から作成した文書のバックアップをとる習慣をつけましょう。

ソフトウェアの不正コピーは禁止されています

本機に付属のソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。これらのソフトウェアを不正にコピーすることは法律で禁止されています。
また、店頭で購入したソフトウェアを人に貸したり、人からソフトウェアを借りてコピーして使うことは禁じられています。ソフトウェアの使用許諾書をよくお読みのうえ、お使いください。

データのバックアップについて

ハードディスクドライブに保存している文書などのデータは、定期的にバックアップをとるようおすすめします。データの損失については、一切責任を負いかねます。

ソフトウェアと周辺機器の動作について

一般的にWindows 98用、DOS/V用などを表記している市販ソフトウェアや周辺機器の中には、本機で使用できないものがあります。
ご購入に際しては、販売店または各ソフトウェアおよび周辺機器の販売元にご確認ください。
市販ソフトウェアおよび周辺機器を使用された場合の不具合や、その結果生じた損失については、一切責任を負いかねます。

お手入れ

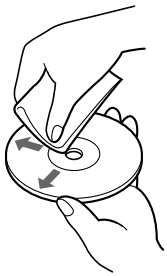
- 本機についたゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。
- 液晶ディスプレイは、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。汚れてきたと思ったら、こまめに拭くように心がけてください。

ご注意

- 濡れたもので液晶ディスプレイを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。
  化学ぞうきんをお使いになるときは、その注意書きに従ってください。

CD-ROMのお手入れ

- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、読みとりエラーの原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方向へ軽く拭きます。



- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた布で拭いたあと、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などはディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

レンズのお手入れ

内蔵カメラのレンズ表面のほこりは、ブロワーブラシか、柔らかい刷毛でとります。汚れがひどいときは、市販のレンズクリーニングクロスなどで拭き取ってください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品は保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店からお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より3ヶ月間です。ユーザー登録していただいたお客様は1年間になります。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この取扱説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはVAIOテクニカルレスポンスセンターへご連絡ください

VAIOテクニカルレスポンスセンターについては、添付の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

修理について

当社ではノートブックコンピューターの修理は引取修理を行っています。当社指定業者がお客様宅に修理機器をお引き取りにうかがい、修理完了後にお届けします。詳しくは添付の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

データのバックアップのお願い

修理に出すまえに、ハードディスクなどの記録媒体のプログラムおよびデータは、お客様にてバックアップされますようお願いいたします。当社の修理により、ハードディスク内のプログラムおよびデータが万一消去あるいは変更された場合に関しても、当社は一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
なお、ハードディスクなどの記録媒体そのものの故障の場合には、プログラムおよびデータの修復はできません。

交換部品の所有権について

修理によって交換された旧部品は、当社の所有となりますので、あらかじめご了承ください。

部品の保有期間について

当社ではノートブック コンピューターの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、VAIOテクニカルレスポンスセンター修理窓口にご相談ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- **型名：**PCG-C1R
- **製造番号：**
- **故障の状態：できるだけ詳しく**
- **購入年月日：**

主な仕様

本体

プロセッサー

MMX®テクノロジー Pentium®プロセッサー 266 MHz

チップセット

Mobile Triton II（430TX）PCIチップセット

2次キャッシュ

256 Kバイト（マルチバンクDRAM）

メインメモリー

64 Mバイト（SDRAM）
最大128 Mバイトまで拡張可能

メモリースロット

専用メモリースロット（1）

グラフィックアクセラレーター

128ビット高速グラフィックアクセラレーター NeoMagic Magic Media 256AV（NM2200）

ビデオメモリー

約2.5 Mバイト（ビデオチップ内蔵）

液晶ディスプレイ表示モード

1024 × 480ドット（約1,677万色[1)]）
640 × 480ドット（約1,677万色[1)]）
1) グラフィックアクセラレーターのディザリングにより実現

外部ディスプレイ表示モード

1,280 × 1,024ドット（256色）
1024 × 768ドット（約1,677万色）
1024 × 480ドット（約1,677万色）
800 × 600ドット（約1,677万色）
640 × 480ドット（約1,677万色）

フロッピーディスクドライブ

3.5インチ、1.44 Mバイト／1.2 Mバイト／720 Kバイト

ハードディスクドライブ

約4.3Gバイト
（1 Gバイト=10億バイトで算出）

外部接続端子

i.LINK(IEEE1394)コネクター
S200 4ピン（1）（S200=200Mbps）

USBコネクター
USB4ピン（1）

マイク入力コネクター
モノラルミニジャック（1）

ヘッドホン出力コネクター
ステレオミニジャック（1）

モデムコネクター
モジュラージャック（1）

赤外線ポート
IrDA 1.1、最大4Mbps（1）

Analog RGB
専用コネクター（変換ケーブル付属）

PCカードスロット

Type I／II ×1、CardbusおよびZV port対応

オーディオ機能

SoundBlasterPro互換（16ビットステレオ）、モノラルスピーカー

内蔵ファックスモデム

V.90およびk56flex対応
データ受信時最大　56Kbps
データ送信時最大　33.6Kbps
ファックス送信時最大　14.4Kbps
ボイス機能、ハンズフリー電話機能対応

ポインティング・デバイス

スクロール機能対応スティック式ポインティング・デバイス

内蔵カメラ

27万画素（有効25万画素）
撮像素子　1/6インチ27万画素CCD
レンズ　2群2枚、F:2.8
焦点距離 f=2.8 mm
（f=39 mm, 35 mm カメラ換算）
露出制御　自動
ホワイトバランス　自動
色数　24ビット　RGB
イメージサイズ
80 × 60、100 × 120、320 × 240
表示フレーム数
最大30フレーム／秒（オーバーレイ表示）
Video for Windows（Ver1.1以降）対応

電源・その他

電源
ACアダプターまたはバッテリーパック
バッテリー駆動時間（省電力モード時）
標準タイプ　約1.5～3時間
大容量タイプ　約3.5～6.5時間
内蔵カメラを使うソフトウェア使用時：
標準タイプ　約1～2.5時間
大容量タイプ　約2.5～5.5時間
動作温度
5 ℃～40 ℃（温度勾配10 ℃／時以下）
動作湿度
10 %～90 %（結露のないこと）
動作湿球温度
29 ℃以下
保存温度
–40 ℃～65 ℃（温度勾配10 ℃／時以下）
保存湿度
10 %～90 %（結露のないこと）
保存湿球温度
29 ℃以下
外形寸法
約240 × 38 × 140 mm（幅／高さ／奥行き）
質量
約1.1 kg（標準タイプバッテリー装着時）

ACアダプター

電源
AC 100～240 V、50/60 Hz
消費電力
最大40 W
出力電圧・電流
最大16 V、2.1 A
動作温度
5 ℃～35 ℃（温度勾配10 ℃／時以下）
動作湿度
10 %～90 %（結露のないこと）
保存温度
–20 ℃～60 ℃（温度勾配10 ℃／時以下）
保存湿度
10 %～90 %（結露のないこと）
外形寸法
約50 × 23.9 × 146 mm（幅／高さ／奥行き）
質量
約215 g

バッテリーパック

出力電圧・容量
11.1 V、1550 mAh
動作温度
5 ℃～35 ℃（温度勾配10 ℃／時以下）
動作湿度
10 %～90 %（結露のないこと）
保存温度
–20 ℃～60 ℃（温度勾配10 ℃／時以下）
保存湿度
10 %～90 %（結露のないこと）
外形寸法
約207.7 × 19.9 × 25 mm
（幅／高さ／奥行き）
質量
約170 g

付属品・別売り品

付属品

「はじめにお読みください」の「付属品を確かめる」をご覧ください。

別売り品

ACアダプター
PCGA-AC51
リチャージャブルバッテリーパック
PCGA-BP11（標準タイプ）
PCGA-BP12（大容量タイプ）
CD-ROMドライブユニット
PCGA-CD5
USBプリンターケーブル
PCGA-UPC1
64MB増設メモリーモジュール
PCGA-MM532SD
PCGA-MM564SD
USBマウス
PCGA-UMS1
バッテリーチャージャー
PCGA-BC1

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

ソフトウェアをアンインストールする／再インストールする

ハードディスクの空き容量が足りないために、新しいソフトウェアをインストールできないときは、すでにインストールされているソフトウェアをハードディスクから削除（アンインストール）できます。

ソフトウェアをアンインストールする

1 **［スタート］ボタンをクリックし、［設定］にポインターを合わせて［コントロールパネル］をクリックする。**
「コントロールパネル」が表示されます。

2 **［アプリケーションの追加と削除］をダブルクリックする。**
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」が表示されます。

3 **［インストールと削除］タブをクリックする。**

4 **削除したいソフトウェアをクリックしてから、［追加と削除］をクリックする。**
アンインストーラーが起動し、「ファイル削除の確認」が表示されます。

5 **「はい」をクリックする。**
選んだソフトウェアがアンインストールされます。

ソフトウェアを再インストールする

アンインストールしたソフトウェアを再インストールすることもできます。
本機に付属しているソフトウェアは、付属のプロダクト リカバリ CD-ROM（以降、リカバリCDと略します）を使って再インストールします。

ソフトウェアによって再インストールのしかたが異なります

- ソニー製のソフトウェアの場合
  詳しくは、それぞれのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
- ソニー製以外のソフトウェアの場合
  「リカバリCDで本機を再セットアップする」（161ページ）をご覧ください。

ご注意

- 付属のリカバリCDを使うには、別売りのCD-ROMドライブが必要です。
- リカバリCDを使うまえに、大切なデータはバックアップをとっておいてください。

リカバリCDで本機を再セットアップする

ここでは、別売りのCD-ROMドライブで付属のプロダクト リカバリCD-ROM（以後、リカバリCDと略します）を使って、本機を再セットアップする方法を説明します。

リカバリCDとは

リカバリCDには、出荷時のハードディスク中のすべてのファイルが保存されています。誤ってハードディスクを初期化してしまったり、プリインストールされているソフトウェアを消してしまった場合には、リカバリCDを使ってハードディスクの内容を出荷時の状態に戻すことができます。

リカバリCDを使うと、次のことができます

- ハードディスクを初期化したうえで、すべてのファイルを復元する。
- ハードディスクを初期化せずに、すべてのファイルを復元する。

ご注意

- 本機専用のCD-ROMドライブPCGA-CD5以外のCD-ROMドライブをお使いのときは、リカバリCDを使うために起動用ディスクを作成する必要があります。起動用ディスクを作成しないと、Windowsが起動できなくなった場合に、リカバリCDを使って本機を再セットアップすることができなくなります。正常に動作しているときに起動用ディスクを作成するようおすすめします。
- 付属のリカバリCDは本機でのみ使用できます。他の製品では動作しません。
- リカバリCDで再セットアップできるのは、本機に標準で付属されているソフトウェアのみです。ご自分でインストールしたソフトウェアや、作成したデータを復元することはできません。またWindows 98だけを復元することもできません。
- ご自分で変更された設定は、再セットアップ後はすべて初期値に戻ります。再セットアップ後に、もう1度設定し直してください。
- ハードディスクを初期化した場合、それ以前にハードディスク上にあったファイルはすべて消えてしまいます。また、ハードディスクを初期化しない場合でも、ハードディスク上のファイルが保存されることを保証するものではありません 。再セットアップを行う前に、大切なデータは必ずフロッピーディスクに保存するなどして、バックアップをとっておいてください。
- ハードディスクを初期化せずにすべてのファイルを復元した場合、システムが正常に動作しないことがあります。このような場合は、もう1度再セットアップを行って、ハードディスクを初期化してから、すべてのファイルを復元してください。
- リカバリCDで再セットアップしたあと、続いてWindows 98のセットアップを行う必要があります。その際、付属のMicrosoft Windows 98 ファーストステップガイドの表紙に記載されている、プロダクト キーが必要になります。Microsoft Windows 98 ファーストステップガイドは大切に保管してください。

準備する

1 CD-ROM**ドライブを本機に取り付ける。**
詳しくは、「CD-ROMドライブをつなぐ」（104ページ）をご覧ください。

2 **本機をACアダプターにつなぎ、AC電源を接続する。**

再セットアップする

別売りのCD-ROMドライブPCGA-CD5をお使いのときは、以下のように操作します。PRD-650／250をお使いのときは、次ページをご覧ください。

1 **付属のプロダクト リカバリ** CD-ROM Vol.1 of 2**をCD-ROMドライブに入れてから、本機の電源を入れる。**
「プロダクト リカバリ CD-ROM リストアユーティリティ」画面が表示されます。

2 **「**BIOS**の設定値を初期化するためにコンピューターを再起動してもいいですか**(Yes/No)?)**」と表示されたら、**Y**キーを押してから**Enter**キーを押す。**
本機が再起動します。

3 **画面の指示に従って操作し、「**(Yes/No)?**」が表示されたときは、**Y**キーを押してから**Enter**キーを押す。**
本機の再セットアップが始まります。
作業中にEscキーを押すと再セットアップを中断することもできますが、その場合は再セットアップをはじめからやり直す必要があります。
再セットアップが終わるとメッセージが表示されるので、画面の指示に従って本機を再起動してください。

PRD-650／250用の起動ディスクを作成する

ソニー製のCD-ROMドライブPRD-650／250をお使いの場合には、以下の手順で起動用ディスクを作成できます。

準備する

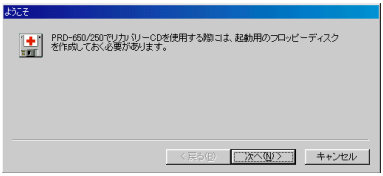
本機でPRD-650／250を使用できる状態にしておく。

- PRD-650／250のWindows接続キットに付属しているフロッピーディスク内の、［setup.exe］をダブルクリックして実行する。
- PRD-650／250を本機に接続しておく。
- フロッピーディスクドライブを本機に接続しておく。

起動用ディスクを作成する

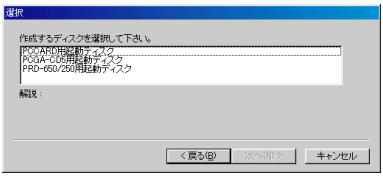
1 **［スタート］ボタンをクリックし、［VAIO］にポインターを合わせ、［ノートブック ユーティリティ］を選び、［リカバリ用起動ディスク作成ツール］をクリックする。**

「ようこそ」の画面が表示されます。



2 **［次へ>］をクリックする。**

「選択」の画面が表示されます。

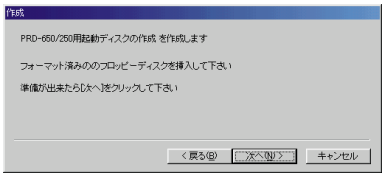


3 **リストの中から使用するCD-ROMドライブを選び、［次へ>］をクリックする。**

次のページにつづく

4 フロッピーディスクを入れる。

フロッピーディスクに「PRD-650／250起動ディスク」と書いたラベルを貼ってから、フロッピーディスクドライブに入れます。



5 [次へ] をクリックする。

フォーマットが始まります。

フォーマットが終わると、引き続いて必要なファイルのコピーが始まります。

6 「終了」の画面が表示されたら、[完了] をクリックする。

これで起動ディスクの作成は終了です。

起動ディスクを確認する

作成した起動ディスクで、CD-ROMドライブを使用できるかどうか確かめます。

1 **本機の電源を切る。**

2 **作成したフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れてから、電源を入れる。**

3 **本機が起動したら、以下のように入力する。**

A:￥>dir Q:

CD-ROMドライブに入れたCD-ROMの内容が表示されます。

「無効なドライブの指定です」と表示されたときは、起動ディスクを正常に作成できなかった可能性があります。「起動ディスクを作成する」（163ページ）の手順をはじめからやり直してください。

4 **本機の電源を切る。**

本機を再セットアップするときは

起動ディスクを使って本機を再セットアップするときは、次の手順に従って操作してください。

1 CD-ROM**ドライブを本機につなぎ、付属の「プロダクト リカバリ** CD-ROM Vol.1 of 2**」を入れる。**

2 **フロッピーディスクドライブを本機につなぎ、作成した起動ディスクを入れてから、本機の電源を入れる。**

3 **以下のように入力してから**Enter**キーを押す。**

A:￥>A:install

4 **「再セットアップする」（**162**ページ）の手順**2**を実行する。**

5 **起動用ディスクから起動したら、もう**1**度「**A:install**」と入力し、**Enter**キーを押す。**

「プロダクト リカバリ CD-ROM リストアユーティリティ」が起動します。

6 162**ページの手順**3**を行う。**

本機の再セットアップが始まります。

詳しくは、画面の指示にしたがって操作してください。

キーボードショートカット

Windowsキーとの主な組み合わせと機能

キー操作の表記

例： ⊞ +F ➡ Windowsキーを押しながらFキーを押す。

組み合わせ	機能
⊞ +F1	Windowsのヘルプを表示します。
⊞ +Tab	タスクバーに表示されているボタンの選択を切り換えます。
⊞ +E	エクスプローラ[1)]を起動します。
⊞ +F	「ファイルやフォルダ」の検索ウィンドウを表示します。 ［スタート］メニューから［検索］の［ファイルやフォルダ］を選んだときと同じです。
⊞ +Ctrl+F	「ほかのコンピュータ」の検索ウィンドウを表示します。 ［スタート］メニューから［検索］の［ほかのコンピュータ］を選んだときと同じです。
⊞ +M	表示しているすべてのウィンドウを最小化します。
Shift+ ⊞ +M	最小化したすべてのウィンドウを元のサイズに戻します。
⊞ +R	「ファイル名を指定して実行」を表示します。 ［スタート］メニューから［ファイル名を指定して実行…］を選んだときと同じです。

1) コンピューターの内容（ファイルやフォルダー）をツリー図で表示します。作成したファイルなどがコンピューターのどこに保存されているか、一目で確認できます。

Fnキーとの主な組み合わせと機能

キー操作の表記

例：Fn + (Esc) ➡ Fnキーを押しながらEsc（エスケープ）キーを押す。

組み合わせ	機能
Fn+ (Esc)	本機の液晶ディスプレイとハードディスクドライブへの電源供給を停止して、使用電力を削減します。CPUへの電源供給も停止します。（システム サスペンドモード）
Fn+ (F2)	使用電源の状況を表示します。 例） **AC電源で使用中** **バッテリー充電中**
Fn+ (F3)	本機のスピーカーの音声を入／切します。
Fn+ (F4)	本機のスピーカーの音量が調節できます。このコマンドを実行すると、数秒間だけ音量設定が表示されます。このときに↑または→キーを押すと大きくなり、←または↓キーを押すと小さくなります。（64段階で調節できます）。
Fn+ (F5)	液晶ディスプレイの明るさを調節できます。このコマンドを実行すると、数秒間だけ明るさ設定が表示されます。このときに↑または→キーを押すと明るい画像になり、←または↓キーを押すと暗い画像になります。（9段階で調節できます）。
Fn+LCD/VGA (F7)	外部ディスプレイコネクターに接続した外部ディスプレイと、本機の液晶ディスプレイの表示を切り換えます。 液晶ディスプレイのみ→液晶ディスプレイと外部ディスプレイ同時表示→外部ディスプレイのみ→液晶ディスプレイのみ→... マルチディスプレイモードを使用中は無効です。
Fn+ (F12)	本機の液晶ディスプレイとハードディスクドライブだけでなく、CPUやRAMへの電源供給も停止します。使用環境はハードディスクに書き込まれるので、復帰後もそのまま作業できます。（システム ハイバネーションモード）
Fn+D	本機の画面が暗くなり、ビデオスタンバイ状態になります。この時、内蔵カメラの電源も切れます。いずれかのキーまたはCAPTUREボタンを押すともとの状態に戻ります。

故障かな？と思ったら

VAIOテクニカルレスポンスセンターにご相談になる前にもう1度チェックしてみてください。それでも具合が悪いときはVAIOテクニカルレスポンスセンターまたはお買い上げ店にご相談ください。

ご注意

再起動または電源を入れ直す場合は、かならず「電源を切るには」（25ページ）の手順にしたがい、いったん電源を切ってください。
他の方法で本機の電源を切ると、作成したファイルが使えなくなることがあります。

症状	原因／対策
電源が入らない。	• 本機とACアダプター、ACアダプターとコンセントがそれぞれしっかりつながっているか確認する。 • バッテリーが正しく装着されているか確認する。 • バッテリーが放電しきっている。バッテリーを充電し、電源を入れ直す。 • 結露している。1時間くらい待って電源を入れ直す。 • 内蔵バックアップバッテリーが消耗している。ACアダプターをつないだまま1時間以上放置してから電源を入れ直す。 内蔵バックアップバッテリーを満充電にするには、電源が入ったあとも、約24時間ACアダプターをつないだままにしてください。なお、充電中でも本機をご使用になることができます。 上記の操作を行っても電源が入らない場合は、本機底面のリセットスイッチを針金のようなもの（太目のクリップでも可）で押してから、電源を入れ直してください。

症状	原因／対策
電源が切れない。	• 「[スタート] メニューから [Windowsの終了] を選んでも電源が切れないときは」(26ページ) をご覧ください。 • それでも電源が切れないときは、下記のいずれかの操作を行ってください。 ■ 壁紙が表示された状態のまま電源が切れないとき **1** CtrlキーとAltキーとDeleteキーを同時に押す。「プログラムの終了」が表示されます。 **2**「応答なし」と表示されているプログラムを選択し、[終了] をクリックする。 **3** 再度 [スタート] メニューの [Windows の終了] を選ぶ。 それでも電源が切れないときは、上記の手順2で [シャットダウン] をクリックすると、すべてのプログラムを終了して電源が切れます。 ■「Windowsを終了しています」または「電源を切る準備ができました」が表示されたまま電源が切れないときは Escキーを押すと電源が切れます。 • 以上の操作を行っても電源が切れないときは、パワースイッチを4秒以上▷の方向にずらしたままにして、パワーランプが消灯するか確認してください。消灯しない場合は、ACアダプターとバッテリーをはずして電源を切ってください。
液晶ディスプレイに何も表示されない。	• LCD/Videoスタンバイモードになっている。いずれかのキーを押す。 • 外部ディスプレイに表示が切り換えられている。Fnキーを押しながら、F7キーを何回か押す。
外部ディスプレイの表示サイズ、表示位置がおかしい。	ディスプレイの調整つまみで設定する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

症状	原因／対策
スティックに触れていないのに画面上のポインターが動く	• キーボードの矢印キーなどを押していないことを確認してください。 • 通常の操作状態でスティックを使っていないにもかかわらず、ポインターが自然に動くことがあります。これは「ドリフト」と言い、故障ではありません。しばらくスティックから指を離しておけば、ポインターは止まります。ドリフトは以下の場合に起こることがあります。 – 電源を入れた直後 – システム サスペンドモードから通常の状態に戻った直後 – ポインティング・デバイスを長時間使用し続けたとき – 温度が急激に変化したとき
スティックをたたくと、左ボタンを押していないのにクリックされる。	プレスセレクト機能が有効になっていないか確認してください。（工場出荷時の設定は無効になっています。）詳しくは、「ポインティングデバイスの設定を変更する」（145ページ）をご覧ください。
画面上のポインターが動かない。	• しばらくすると動くようになります。 **しばらく待っても動かないとき** • ⊞キーを押して［スタート］メニューを表示させ、↑キーまたは↓キーを押して［Windowsの終了］を選んでEnterキーを押し、［電源を切れる状態にする］を選んでEnterキーを押す。 • 上記の操作で電源が切れないときは、CtrlキーとAltキーを押しながらDeleteキーを押し、本機を再起動する。 • 上記の操作でも何も起こらないときは、パワースイッチを4秒以上▷の方向にずらして電源を切る。 • CD-ROMを再生しているときなどに、ポインターが動かなくなってしまった場合は、CtrlキーとAltキーを押しながらDeleteキーを押し、CD-ROMの再生を強制的に終わらせ、本機を再起動する。
フロッピーディスクが取り出せない。	42ページをご覧ください。
電源を入れた後、「No System disk or disk error. Replace and press any key when ready.」というメッセージが出て、ハードディスクを立ち上げられない。	フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っているときは、イジェクトボタンを押して、取り出す。 その後、キーボードのいずれかのキーを押す。

症状	原因／対策
電源を入れると、「Operating system not found」と表示され、Windowsが起動できない。	フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクが入っていないか確認してください。 • 起動ディスク以外のフロッピーディスクが入っていた場合は、パワースイッチを4秒以上▷の方向にずらして本機の電源を切り、フロッピーディスクを取り出してから、本機の電源を入れ直し、Windowsが起動するか確認してください。 • 上記の手順で起動しない場合や、フロッピーディスクが入っていない場合は、「BIOSの初期化」（179ページ）をご覧ください。 • 「BIOSの初期化」（179ページ）の操作を行っても起動しない場合は、起動ディスクで本機を起動し、必要なデータのバックアップをとってから、付属のリカバリCDで本機を再セットアップしてください。
「マイコンピュータ」からフロッピーディスクを選んで初期化しようとしたができない。	• フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。（43ページ） • フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブにきちんと入っているか確認する。 • 「アプリケーションが使用中です」というメッセージが出たときは、フロッピーディスクの内容がウィンドウで表示されている。ウィンドウ表示されているときは初期化できないので、フロッピーディスクのウィンドウを閉じる。
「ディスクがいっぱいです」というメッセージが表示され、ファイルなどをフロッピーディスクに保存できない。	フロッピーディスクの容量の空きがない。容量の空きが充分にある、別のフロッピーディスクを使って保存し直す。
「書き込み禁止」というメッセージが表示された。	フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。（43ページ）
スピーカーから音が出ない。	• 本機の内蔵スピーカーが「切」になっている。Fnキーを押しながら、F3キーを押す。（167ページ） • 本機の内蔵スピーカーの音量が最小になっている。Fnキーを押しながら、F4キーを押したあと、↑または→キーを押して音量を上げる。（167ページ） • ∩コネクターにケーブルをつないでいるときは、ケーブルをはずす。

症状	原因／対策
Fnキーを押しながらF3キーを押すと「Sound Disable」と表示される。	「システムのプロパティ」画面の「デバイスマネージャ」タブをクリックしてから、サウンドデバイスを使用できるように設定する。
内蔵マイクで音声を録音すると雑音が入る。	ハードディスクのアクセス音などが録音されてしまうためで、故障ではありません。
日本語が入力できない。	「文字を入力する」（32ページ）をご覧ください。
アルファベットのかわりに数字が入力される。	Num Lkキーを押して、🔒（Num Lock）ランプを消灯させる。
入力した文字が表示されない。	文字を入力したいアプリケーションソフトウェアのウィンドウが前面に出ていない。（画面上では薄い色のウィンドウになります。）ウィンドウのどこかをクリックするか、AltキーとTabキーを同時に押して目的のアプリケーションソフトウェアを前面に出し、使える状態にする。
URLで使われる半角の「~」が入力できない。	MS-IME98ツールバーで「直接入力」または「半角英数」を選び、Shiftキーを押しながら「 ^ 」を押す。 MS-IME98ツールバーについて詳しくは、「文字を入力する」（32ページ）をご覧ください。
全角の「〜」が入力できない。	MS-IME98ツールバーで「ひらがな」を選んで、ひらがなで「から」と入力し、「〜」が選ばれるまでスペースキーを押す。 MS-IME98ツールバーについて詳しくは、「文字を入力する」（32ページ）をご覧ください。
ハードディスクから起動できない。	フロッピーディスクドライブに、フロッピーディスクが入っていないか確認する。
CD-ROMドライブから起動できない。	別売りのCD-ROMドライブPCGA-CD5以外のCD-ROMからは、本機を起動できません。
誤ってハードディスクを初期化してしまった。	リカバリCDを使って、本機を再セットアップする必要があります。「リカバリCDで本機を再セットアップする」（161ページ）をご覧ください。
画面上のすべてのものが動かなくなってしまった。	CtrlキーとAltキーを押しながらDeleteキーを押して再起動する。
PCカードが使えない。	Windows 98対応でないPCカードは使えないことがあります。

症状	原因／対策
ゲームをしているときや、動画を再生しているときの動きがぎこちない。	「PowerPanel」ソフトウェアのアプリケーションバーを右クリックして「CPUスピード変更」を選び、「Auto」のチェックをはずして、スピードコントローラーを「100%」に設定する。 詳しくは、「PowerPanel」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
内蔵カメラを使って、暗い背景の中で明るい被写体を映すと縦に尾を引いたような画像になる。	スミアという現象で故障ではありません。
「Smart Capture」のファインダーに映る画像が粗い。	• 撮影する静止画のサイズがファインダーのサイズより極端に小さいとき（40 × 30など）、画像が粗く表示されることがあります。 • 動きの速い被写体をファインダーに表示させると、画面の途中に水平方向に段差のようなものが発生することがありますが、故障ではありません。
内蔵カメラで取り込んだ静止画、動画の画像が悪い。	• 蛍光灯の下で撮影した画像は光の反射が映ることがあります。 • 取り込んだ画像に暗い部分があるときは、赤や緑のノイズが出ることがあります。 • 640 × 480のサイズで取り込んだ静止画は、480 × 240のサイズで取り込んだ画像を処理して作っているので、画像が粗くなることがあります。 • 640 × 480での静止画の取り込みは、システムに負荷がかかるため、撮影時のタイミングがずれることがあります。 • レンズが汚れていると、きれいに撮影できません。レンズが汚れていないか確認し、汚れていたらきれいにしてください。（155ページ） • ピントが合っていない場合は、フォーカスリングでピントを合わせてください。（55ページ）

症状	原因／対策
動画を取り込むときに、コマ落ちが発生したり、音声が途切れたりする。	• 外出先などでバッテリーを使って本機を動作させ、動画を取り込むときは、「PowerPanel」ソフトウェアでACプロファイルかカメラプロファイルを選んでください。スタミナプロファイルを選んだときは映像のコマ落ちが発生したり、音声が途切れたりすることがあります。「PowerPanel」ソフトウェアについて詳しくは、「バッテリーの消費電力を節約する」（127ページ）をご覧ください。 • 「Smart Capture」ソフトウェアのエフェクトの設定により、コマ落ちが発生することがあります。詳しくは、「Smart Capture」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
「Sonicflow」で音楽を再生すると音声が途切れる。	外出先などでバッテリーを使って本機を動作させ、「Sonicflow」ソフトウェアで音楽を再生するときは、「PowerPanel」ソフトウェアでACプロファイルかカメラプロファイルを選んでください。スタミナプロファイルを選んだときは映像のコマ落ちが発生したり、音声が途切れたりすることがあります。「PowerPanel」について詳しくは、「バッテリーの消費電力を節約する」（127ページ）をご覧ください。
内蔵カメラからの映像が表示されない。	• 他に内蔵カメラを使うアプリケーション（Smart Capture、CyberCode Finder、Sonicflowなど）が起動しています。それらのアプリケーションを終了してください。 • 上記のことをしても、内蔵カメラからの映像が表示されない場合は、本機を再起動してください。
CyberCodeを内蔵カメラにかざしても、登録されているソフトウェアが起動しない。	• 内蔵カメラからの距離が遠すぎたり、CyberCodeが斜めになっていたり、手ぶれをおこしている。しっかりと固定して、まっすぐ内蔵カメラに映す。 • 逆光や反射、暗がりではうまく映りません。適度な明るさの場所で使用してください。 • 外出先などでバッテリーを使って本機で「CyberCode Finder」を動作させるときは、「PowerPanel」ソフトウェアでACプロファイルかカメラプロファイルを選んでください。スタミナプロファイルを選んだときはCyberCodeを認識しづらくなったり動作が不安定になることがあります。「PowerPanel」ソフトウェアについて詳しくは、「バッテリーの消費電力を節約する」（127ページ）をご覧ください。 • ピントが合っていない場合は、フォーカスリングでピントを合わせてください。（55ページ）

症状	原因／対策
「Smart Capture」や「Smart Write」、「Smart Label」で音声が録音できない。	録音デバイスとしてマイクが選択されていない可能性があります。 **1** タスクトレーの をダブルクリックする。 **2**［オプション］メニューから［プロパティ］を選ぶ。 **3**「音量の調整」の［録音］と「表示するコントロール」の［Microphone］をチェックし、［OK］をクリックする。 **4**「Microphone」の［ミュート］がチェックされていないか確認する。 チェックされているときは、チェックをはずす。
「Smart Write」や「Smart Label」が起動しない。	共有ライブラリーが壊れている可能性があります。「プロダクト リカバリ CD-ROM Vol. 2 of 2」を使って、G:¥VAIO¥Sony Shared Library¥setup.exeを実行して再インストールします。
プリンターで印刷できない。	• プリンターケーブルが正しい順序で接続されているか確認する。（108ページ） • USBプリンターケーブルPCGA-UPC1（別売り）を使っているときは、プリンターがケーブルに対応しているか確認する。対応していないプリンターは動作しないことがあります。 • 赤外線通信機能を持つプリンターを使っているときは、赤外線通信ポートどうしが向かい合っているか確認する。
内蔵モデムからダイヤルできない。	• お使いの電話回線がトーン式ダイヤルかパルス式ダイヤルかを確認し、モデムのダイヤル方法を確認する。（99ページ） • 電話回線のコンセントに直接テレホンコードを接続しているか確認する。テレホンコードが長すぎないか、電話機の子機に接続していないか確認する。（100ページ） • テレホンコードを「カチッ」と音がするまでモジュラージャックに差し込む。（100ページ） • 3分以内に3回以上同じところにダイヤルした場合はリダイヤル規制がかかり、連続してダイヤルすることができません。3分以上時間をおいてからリダイヤルしてください。 •「PowerPanel」ソフトウェアでACプロファイルが選ばれているか確認する。 •「モデムの設定」（177ページ）をご覧ください。

症状	原因／対策
モデムはダイヤルしているが、接続できない。	「ダイヤルの設定」（177ページ）をご覧ください。
インターネットに接続できない。	ディスプレイ画面上の［インターネットに接続］アイコンをダブルクリックして設定を確認する。
DV機器が使用できない。または、「DV機器が接続されていないか、電源が入っていないので、動作しません。」などのメッセージが表示される。	• DV機器の電源が入っているか、またはケーブルが正しく接続されているか確認する。 • i.LINKでは、複数の機器を接続して動くように設計されていますが、機器との組み合わせによっては、動作が不安定になることがあります。接続されている機器全ての電源をいったん切り、なるべく不要な機器を取り外して、ケーブルの接続を確認した後、再度電源を入れてください。 • 「DVgate still」ソフトウェアを起動してから、初めて接続するデジタルビデオカメラレコーダーを接続すると、認識するまでに時間がかかります。デジタルビデオカメラレコーダーを接続してから、「DVgate still」を起動してください。デジタルビデオカメラレコーダーとの接続手順については「DVgate still」の取扱説明書をご覧ください。

モデムの設定

モデムがWindowsに正しく認識されているか確認します。

1 **［スタート］ボタンをクリックし、［設定］を選択して［コントロールパネル］をクリックする。**

2 **［モデム］アイコンをダブルクリックする。**

3 **［検出結果］タブをクリックする。**

4 **［COM2］を選択し、［詳細情報］をクリックする。**

［詳細情報...］ダイアログボックスが表示されたら、モデムは正しく認識されています。

正しく認識されていないときは

次の点を確認してください。

- COMポートのリソース（IRQなど）が他のデバイスと競合していないか確認します。
  ［システムのプロパティ］の［デバイスマネージャ］で、デバイスのアイコンに！がついているものは、他のデバイスと競合を起こしています。
- モデムの設定をいったん削除し、もう一度組み込み直します。
  ［システムのプロパティ］の［デバイスマネージャ］で、［モデム］の中の［Sony Internal Modem］を削除します。Windowsを再起動するとモデムが検出され、対応するドライバーが自動的に組み込まれます。

ダイヤルの設定

うまく接続できないときは、以下の項目を確認してください。

ケーブルの接続を確認する

「発信音が聞こえません」や「ダイヤル先のコンピュータが応答しません」といったメッセージが表示されたときは、モジュラーケーブルの接続を確認します。本体側のモジュラージャックと壁側のモジュラージャックの接続を確認します。
予備のケーブルがあれば、ケーブルを交換して試してみます。

接続速度を遅くしてみる

電話回線の状態がよくないときには、接続速度を遅くするとうまく接続できる場合があります。

1 **［スタート］ボタンをクリックし、［設定］を選択して［コントロールパネル］をクリックする。**

2 **［モデム］アイコンをダブルクリックする。**

3 **［Sony Internal Modem］を選択し、［プロパティ］をクリックする。**

4 **［最高速度］に遅めの数値（標準は115200）を選ぶ。**

5 **少しずつ数値を小さくして試す。**

ダイヤルトーンを検出しないようにする

ダイヤルトーン（受話器を上げたときの「ツー」という音）の検出に失敗してダイヤルできないときは、ダイヤルトーンを検出しないようにします。

1 **［スタート］ボタンをクリックして［設定］→［コントロールパネル］の順に選択する。**
2 **［コントロールパネル］の中の［モデム］をダブルクリックする。**
3 **［全般］タブに表示されているモデムから使用したいモデムを選択し、［プロパティ］をクリックする。**
4 **［接続］タブをクリックし、「トーンを待ってからダイヤルする」のチェックをはずす。**
5 **［OK］をクリックする。**
6 **「モデムのプロパティ」の［閉じる］をクリックする。**

接続中の動作が長く続くとき

接続中の動作が長く続き、接続が完了しないときは、いったん回線を切断してかけ直します。高い通信速度で接続する場合、まれに接続に失敗して、接続確認の動作が終わらなくなることがあります。

ダイヤルアップネットワークやプロトコルの設定を確認する

「ダイヤル先のコンピュータから切断されました。接続のアイコンをダブルクリックして、やり直してみてください。」や「ダイヤル先のコンピュータは、ダイヤルアップネットワーク接続を確立できません。パスワードを確認してから、やり直してみてください。」といったメッセージが表示されるときは、プロバイダやネットワークに接続するための設定を確認します。

設定などに問題がなかった場合は、ダイヤルアップネットワークとプロトコルを組み込み直してください。

ダイヤルアップネットワークの設定の確認

1 **［マイコンピュータ］をダブルクリックし、［ダイヤルアップネットワーク］をダブルクリックする。**
2 **接続先のアイコンを右クリックし、［プロパティ］をクリックする。**
3 **契約しているプロバイダーから提供された資料にしたがって設定を確認する。**
   特に、次の点を重点的に確認してください。
   - ［全般］タブの［電話番号］の設定（ISDN用の回線が別番号になっていることもあります）
   - ［サーバーの種類］タブの設定
   - ［サーバーの種類］タブの［TCP/IP設定］ボタンでの設定

プロトコルの設定の確認

1 ［スタート］ボタンをクリックし、［設定］を選択して［コントロールパネル］をクリックする。

2 ［ネットワーク］アイコンをダブルクリックする。

3 契約しているプロバイダーから提供された資料にしたがって設定を確認する。

特に、次の点を重点的に確認してください。

- ［現在のネットワークコンポーネント］に組み込まれているコンポーネント
- 各コンポーネントのプロパティの設定

BIOSの初期化

本機の電源を切り、以下の手順でBIOSの初期化を行います。
フロッピーディスクドライブやPCカードなどは本機から取りはずしておいてください。

1 本機の電源を入れ直し、SONYのロゴマークが表示されている間に、F2キーを押す。

BIOSセットアップメニューが起動します。

2 →キーで［Exit］を選び、↓キーで［Get Default Values］を選び、Enterキーを押す。

「Load default configuration now?」と表示されます。

3 ［Yes］が選ばれていることを確認してから、Enterキーを押す。

［No］が選ばれているときは←キーで［Yes］を選び、Enterキーを押します。

4 「Exit(Save Changes)」を選び、Enterキーを押す。

「Save configuration changes and exit now?」と表示されます。

5 ［Yes］が選ばれていることを確認してから、Enterキーを押す。

［No］が選ばれているときは←キーで［Yes］を選び、Enterキーを押します。
本機が再起動します。

キートップが外れてしまったら

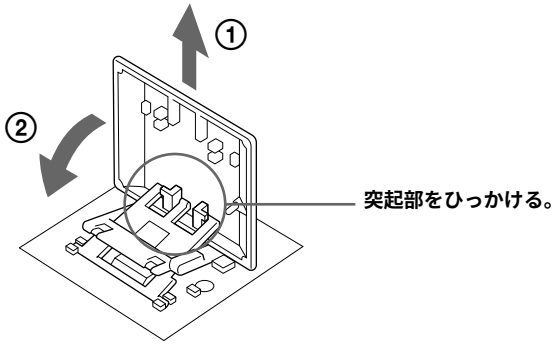
キートップは次の4タイプに分類されます。

- Aタイプ： 下記タイプ以外のすべてのキー
- Bタイプ： スペース、Enter、左Shift、Caps Lockキー
- Cタイプ： 半角/全角、Windows、カタカナ、右Alt、アプリケーション、右Ctrlキー
- Dタイプ： Esc、F1～F12、Num Lk、Prt Sc、Insert、Deleteキー

それぞれのタイプによって取り付け方が異なります。下図の指示に従ってキートップを取り付けてください。

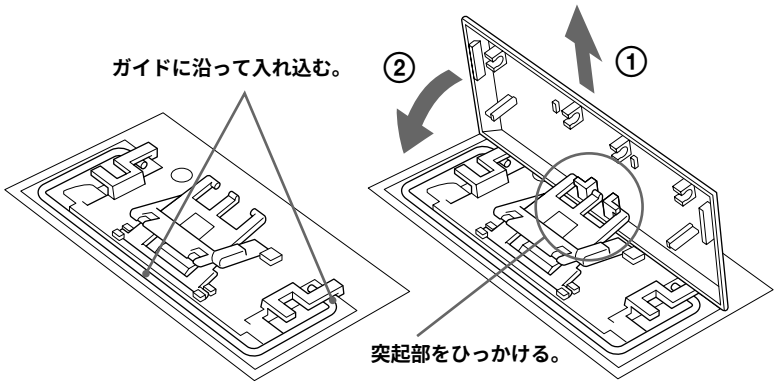
Aタイプ

キートップを矢印方向①に差し込み、②方向に倒して押し込みます。



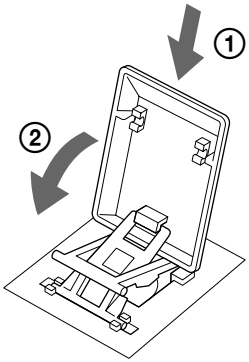
Bタイプ

キートップを矢印方向①に差し込み、②方向に倒して押し込みます。

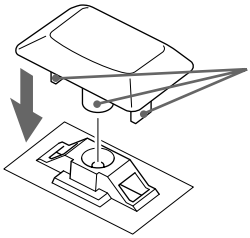


Cタイプ

キートップを矢印方向①に差し込み、②方向に倒して押し込みます。



Dタイプ



各つめと穴位置を合わせて
垂直に押し込む。

ご注意

- キートップを故意に外さないでください。故障の原因となります。
- 取り付けるときに無理に力を加えると破損の原因となります。取り扱いには十分にご注意ください。

索引

五十音順

ア行

アクティブデスクトップ　144
アンインストール　159
インストール
　アンインストールする　159
　再インストールする　160
インターネット
　インターネットとは　48
　インターネットを楽しむには　49
液晶ディスプレイ　19、151、167
液晶プロジェクター　113
延長ミニACコード　23
音楽CD　96
オンラインマニュアル　17

カ行

外出先でインターネットにアクセスする 51
外部ディスプレイ　112
カメラ
　オリジナルの音楽を作曲する　94
　静止画を取り込む　54
　動画を取り込む　63
　カメラからの映像で音楽を再生する　93
　カメラで英単語を読みとる　85
　カメラでソフトウェアを起動する　75
キーボード
　キーボードショートカット　166
　キーボードを使う　30
起動ドライブを指定する　121
起動用ディスク　163
クリック　28
　ダブルクリック　28
　右クリック　28
結露　151
コンピューターウイルス　153

サ行

再起動　26
サウンドオブジェクト　93
システム サスペンドモード
　129、131、167
システム ハイバネーションモード
　129、132、167
省電力動作モード
　システム サスペンドモード
　　129、131、167
　システム ハイバネーションモード
　　129、132、167
スティック　27
　感度を調整する　147
　キャップ　29
　プレスセレクト機能　145
スピーカー　19、167
静止画　54
赤外線
　赤外線通信ポート
　　20、87、106、110
　赤外線データ通信　87、106、110
センターボタン　27
　スクロール機能　148
　虫メガネ機能　148
ソフトウェア
　さぱり　97
　ニフティサーブ　50
　不正コピー禁止について　154
　ぷらら　50
　ワードパッド　32
　AOL　50
　BatteryScope　46、133
　CyberClip　85
　CyberCode Finder　75
　Digital Media Park　96
　DVgate still　57
　Intellisync for Windows　88
　Movie Player　64
　Navin' You　97
　ODN　50
　PictureGear　58、88、97
　PowerPanel　46、127
　PPK Setup　78、84
　Smart Capture　54、63
　Smart Label　72
　Smart Publisher　70
　Smart Write　68
　So-net　50
　Sonicflow　92
　Sony Notebook Setup　119
　Still Viewer　56
　VirusScan　154

タ行

ターミナルアダプターカード　115
ダブルクリック　28
データ
　書き込み禁止にする　43
　バックアップをとる　152、154
　やりとりする　87
ディスプレイ
　液晶ディスプレイ　19、151、167
　外部ディスプレイ 112
ディスプレイパネル　24

デジタルスチルカメラ
デジタルスチルカメラから画像を取り込む 14, 106
デジタルスチルカメラを使う 106
デュアルディスプレイ 140
電子メール 59、66
電話回線
電話回線の種類 102
電話回線につなぐ 99
動画 63
ドラッグ 28

ナ行

内蔵カメラ
オリジナルの音楽を作曲する 94
静止画を取り込む 54
動画を取り込む 63
内蔵カメラからの映像で音楽を再生する 93
内蔵カメラで英単語を読みとる 85
内蔵カメラでソフトウェアを起動する 75
内蔵スピーカー 19、167
内蔵モデム 99
ニフティサーブ 50
日本語入力 32
ネットワーク 91
ネットワークカード 91、115

ハ行

ハードディスク 151
パスワード
削除する 124
登録する 122
変更する 123
バックアップをとる 152、154
バッテリー
残量を確認する 133
充電する 47
消費電力を節約する 127
取り付ける 46
取りはずす 47
ランプ 19、45
パノラマ画像 58
パラレルコネクター 108
パワーマネージメント機能 127
左ボタン 27
ビデオCD 96
フォーカスリング 55、64
ぷらら 50
プリンター
赤外線通信対応プリンター 110
パラレルコネクター付きのプリンター 108
プリンタードライバー 110
プリンターをつなぐ 108
USB対応プリンター 109
プレスセレクト機能 145
フロッピーディスク
入れる 42
使用できるフロッピーディスク 43
初期化 42
データを書き込み禁止にする 43
取り扱いについて 152
取り出す 42
フロッピーディスクドライブ
取り付ける 40
取りはずす 41
プロバイダー 50
ポインター 27
ポインティング・デバイス
クリックする 28
スクロールする 28
スティック 27、145
設定を変更する 145
センターボタン 27
ダブルクリックする 28
ドラッグする 28
左ボタン 27
右クリックする 28
右ボタン 27

マ行

マウス 111
右ボタン 27
虫メガネ機能 148
メモリーカード 91、114
メモをとる
音声でメモをとる 72
文字でメモをとる 68
Smart Label 72
Smart Write 68
文字入力 32
モジュラージャック 21、100
モデム 99、177

ラ行

リカバリCD
再セットアップする 162
リカバリCDとは 161

ワ行

ワードパッド 32

アルファベット順

A

ACアダプター　23
AC電源　23
AOL　50

B

BatteryScope　46、133

C

CAPTUREボタン　54、63
CD-ROM
　お手入れ　155
　取り扱いについて　153
CD-ROMドライブ
　取り付ける　104
　取りはずす　105
CPU　157
CyberClip　85
CyberCodeシール　76
CyberCodeメッセージカード　77
CyberCode Finder　75
CyberCode Setup　76

D

Digital Media Park　96
DVgate still　57

I

i.LINK　103
Intellisync for Windows　88
IrDA　87
ISDN　52

L

LAN　91

M

MAPI　61
MIDIファイル　96
MOTION EYE　54、75、85、92
Movie Player　64
MS-IME98　33

N

Navin' You　97

O

ODN　50

P

PBX　7、101
PCカード
　PCカードとは　114
　PCカードを使う　91、104、114
　PCカードを取り出す　117
　PCカードを取り付ける　115
PictureGear　58、89、97
PowerPanel　46、127
PPK Setup　78、84

S

SCSIカード　115
Smart Capture　54、63
Smart Label　72
Smart Publisher　70
Smart Write　68
So-net　50
Sonicflow　92
Sony Notebook Setup　119
Still Viewer　56

T

TAカード　115

U

USB
　フロッピーディスクドライブ　40
　プリンター　109
　マウス　111
　USBケーブル　40、109
　USBプリンターケーブル　108

V

VirusScan　154

W

WAVEサウンドファイル　95
Windows 98　24

この説明書は再生紙を使用しています。

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象商品に関する基準を満たしていると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっております。対象となる製品はコンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク（ロゴ）は参加各国の間で統一されています。

LEAD TOOLS pro
Copyright ©1997
by LEAD Technology, Inc. & Bunka Orient Corp.

- VAIOはソニー株式会社の商標です。
- 「CyberCode」、CyberCodeロゴおよびCyberCodeマークはソニー株式会社の商標です。
- i.LINKはIEEE1394-1995仕様及びその拡張仕様、 はi.LINKに準拠した商品につけられるロゴです。“i.LINK”と は商標です。
- Microsoft、MS、MS-DOSおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- IBMおよびPC/AT、PS/2は、米国International Business Machines Corporationの商標および登録商標です。
- So-net、ソネットおよびSo-netロゴはソニー株式会社の登録商標です。
- PostPet、ポストペットおよびPostPetロゴはソニーコミュニケーションネットワーク株式会社の商標です。
- 1997 AMERICA ONLINE, INC. All Rights Reserved.
- 「ぷらら」はジーアールホームネット株式会社の商標です。
- ニフティサーブはニフティ株式会社の登録商標です。
- ODNは日本テレコム株式会社の商標です。
- K56flexはLucent Technologies社とRockwell International社の商標です。
- CyberClipは、OCRエンジンとして、Media Drive Type OCRを使用しています。Media Drive Type OCRは、メディアドライブ株式会社の商標です。
- その他、本書で登場するシステム名、製品名、サービス名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では™、®マークは明記していません。

ソニー株式会社　〒141-0001 東京都品川区北品川6-7-35

使い方のご相談、技術的なお問い合わせは
VAIOテクニカルレスポンスセンターへ
● 0466-30-3000
カスタマー登録、一般的なお問い合わせは
VAIOカスタマー専用デスクへ
● 03-3584-6651

Sony online　http://www.world.sony.com/

「Sony online」は、インターネット上のソニーのエレクトロニクスとエンターテインメントのホームページです。

お電話の前に、必ず付属の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。